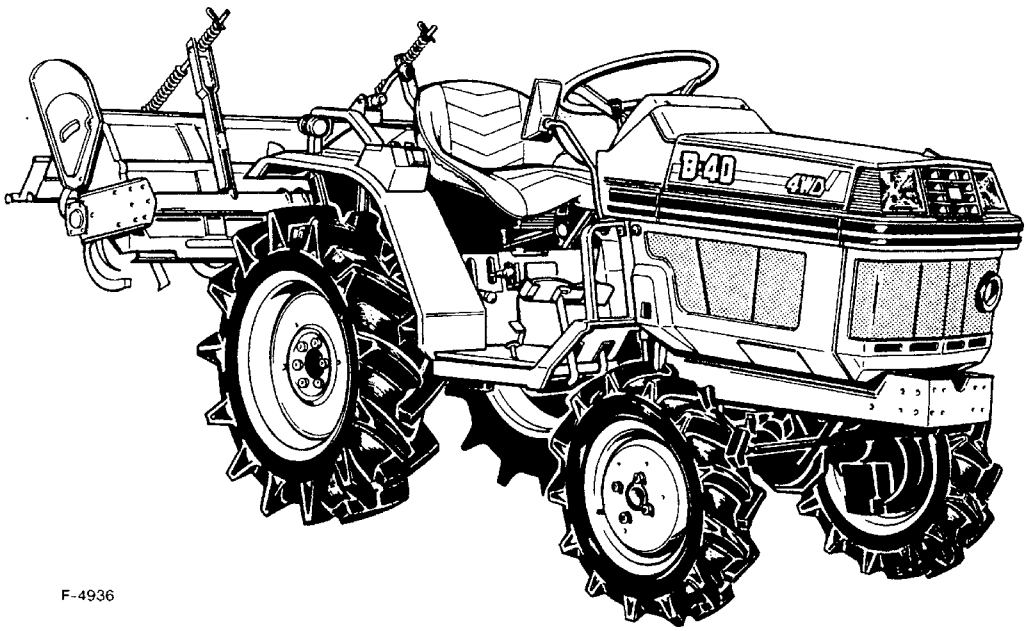
クボタトラクタ

取扱説明書

B-40



F-4936

ご使用前に必ずお読みください

Kubota

トラクタ＋安全五憲章

1・道路を走行するときは，
ブレーキペダルを連結します。

2・農道を走行するときは，
スピードを落とし路肩に注意します。

3・ほ場へ出入りするときは，
スピードを落としあぜに直角に走行します。

4・トラクタや作業機を点検調整するときは，
必ずエンジンを止め，油圧ロックをします。

5・補助者と共同作業を行なうときは，
合図をし安全を確認します。

この機械をお使いになるときは復唱してください。

安全に作業していただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項を，これ以外にも本文の中で **安全ポイント** としてその都度とり上げております。

更に，安全のポイントを抜粋した**安全注意ポスタ**・**納入品安全説明書**を別冊にして添付しておりますので，よくお読みいただいて必ず守ってください。

は　じ　め　に

このたびは本製品をお買いあげいただきましてありがとうございました。この取扱説明書は，製品の正しい取扱い方法，簡単な点検及び手入れについて説明してあります。
よくお読みいただき，充分理解してから御使用くださるとともに，いつまでもすぐれた性能を発揮できるよう本書を充分にいかして，末長く御活用ください。又，お読みになった後必ず大切に保存し，わからないことがあったとき取出してお読みください。
なお，本製品については不断の研究成果を新しい技術として，直ちに製品に取り入れておりますので，お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますので，あらかじめ御了承くださいますようお願いいたします。

本書では仕様の異なる製品を次のように表示しています。
- 油圧操作方式によって……「標準仕様」「M仕様」
- 駆動方式によって……「D仕様」「DB仕様……倍速ターン付き」
- ロータリによって……「サイドドライブ仕様」「センタドライブ仕様」

お手元の製品の仕様をお確めの上，お間違いのないよう御活用ください。

トラクタ		ロータリ			
油圧操作方式		標準ロータリ		モンローマチック	
スプール式	ソレノイド式	センタドライブ	サイドドライブ	センタドライブ	サイドドライブ
標準仕様	M仕様	RK1204	RS1204	RK1204M	RS1204M
○		○			
			○		
	○			○	
					○

67148-6291-3

目次

サービスと保証について……1

小型特殊自動車について……2

装置の知識について……3

スイッチとメータの取扱い……3
運転装置の取扱い……6
作業機昇降装置の取扱い……10
モンローマチックの取扱い【M仕様】……11
三点リンク装置の取扱い(一般作業機用)
(オプション部品)……15

上手な運転のしかた……20

エンジンの始動について……20
エンジンの停止について……21
ならし運転(最初の約60時間)……21
暖機運転について……22
発進・走行のしかた……22
停車のしかた……23
旋回のしかた……23
坂道での運転のしかた……23
ほ場への出入り時の注意……23
トラックへの積込み，積降ろしのしかた……24
公道走行中の注意……24

ロータリ装置について……25

ロータリ装置の取外し・取付け
【標準仕様】……25
ロータリ装置の取外し・取付け
【M仕様】……27
耕うん爪の取付け方……29
爪軸コンプの着脱方法
【サイドドライブ仕様】……30
後2輪装置の取扱い……30
後部カバーの調節……31
ロータリ耕うん法……32
ロータリ畝立て作業……33
農場での取扱いの注意……35

作業前の点検について(仕業点検)……36

点検箇所……36
点検のしかた……37

トラクタの簡単な手入れと処置……41

燃料について……41
空気抜きのしかた……41
各部への給油と交換……42
各フィルタの交換……44
冷却水の交換……44
エアークリーナエレメントの交換……46
バッテリ液の点検と交換……46
パイプ類の点検……47
グリースの注入箇所……48
輪距の調整……49
作業機持上げ量の調整……50
ブレーキの調整……50
クラッチの調整……50
ファンベルトの調整……50
ステアリングハンドルの調整……51
トーインの点検調整……51
前車軸支持部ガタの点検調整……51
ロータリ連結部の調整……52
電気配線の点検及びヒューズ，ランプの交換……52
長期格納時の手入れ……53
定期点検箇所一覧表……54
給油(水)一覧表……56
エンジンの不調と処置……57

付　　表……58

アタッチメント一覧表……58
インプルメント一覧表……61
主要諸元……64
推奨オイル・グリース一覧表……66
配　線　図……68
標準付属品……69
消耗部品一覧表……70

サービスと保証について

この製品には，保証書が添付してあります。
詳しくは保証書をご覧ください。
なお，ご使用中の故障やご不審な点及びサービスに関するご用命は，お買いあげいただいた販売店・農協・弊社支店又は㈱クボタアグリに，それぞれ「ご相談窓口」を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際　(1)トラクタ名称と車台番号
　　(2)エンジン名称とエンジン番号
　　(3)ロータリ名称と機械番号
を合せてご連絡ください。

◆安全鑑定適合番号

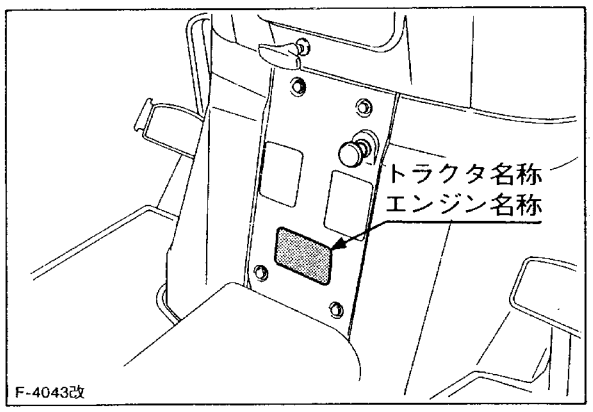
クボタB-40……1001002
(クボタB_1-14D)

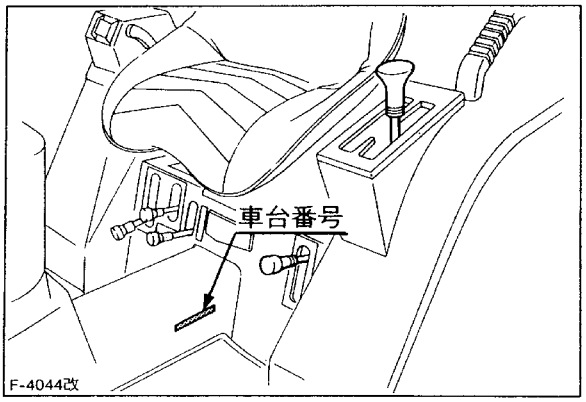
◆型式認定番号

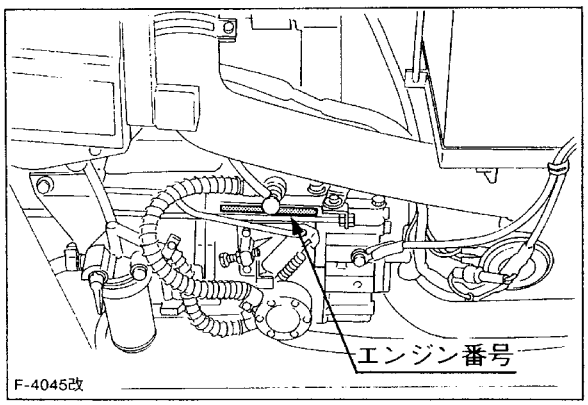
クボタB-40……農1534号
(クボタB_1-14D)

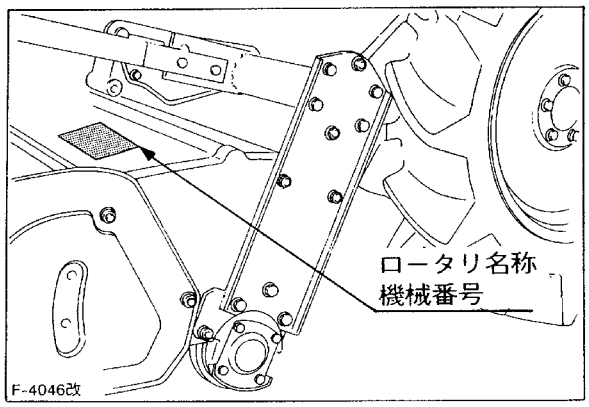
◆型式検査(国検)合格番号

クボタSF15……86113
(安全フレーム)









小型特殊自動車について

この製品は，道路運送車両法の小型特殊自動車に該当します。

■小型特殊自動車取得の届出とナンバプレートの取付け

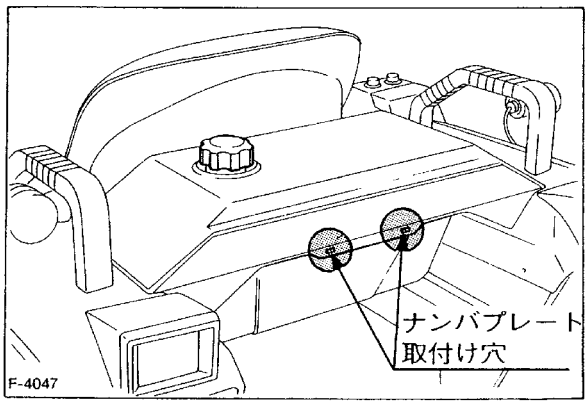
新たに小型特殊自動車の所有者となった者は，市町村条例により，その取得を市町村役所に届出，ナンバプレートの交付を受けなければなりません。

（手続きは市町村により多少異なりますので詳細は，販売店・農協に御相談ください。）

❶小型特殊自動車取得の証明書など(販売店・農協で発行)に，軽自動車税を添えて市町村役所に届出る。

❷届出が済むとナンバプレートが交付されます。

❸ナンバプレートを車体の取付け位置に取付けてください。



■運転免許

公道走行時は，小型特殊自動車の運転可能な運転免許証が必要です。必ず所持してください。

■自動車損害賠償責任保険のお勧め

万一の交通事故補償に備え，任意保険に加入されることをお勧めします。

■小型特殊自動車とは

車体の大きさ	全　長	4.70m以下
	全　幅	1.70m以下
	全　高	2.00m以下
最高速度		15km/時以下
原動機の総排気量		1500cc以下

上記の条件を満足する構造を有する自動車で，このうち一つでも条件が満足しないと大型特殊自動車扱いとなりますので，次のようなことには特に御留意ください。

(1)認定を受けたエンジン以外は，搭載して運行することはできません。

(2)認定時の構造を変更(大径車輪やドッキングローダなどを装着)した状態では，運行することはできません。

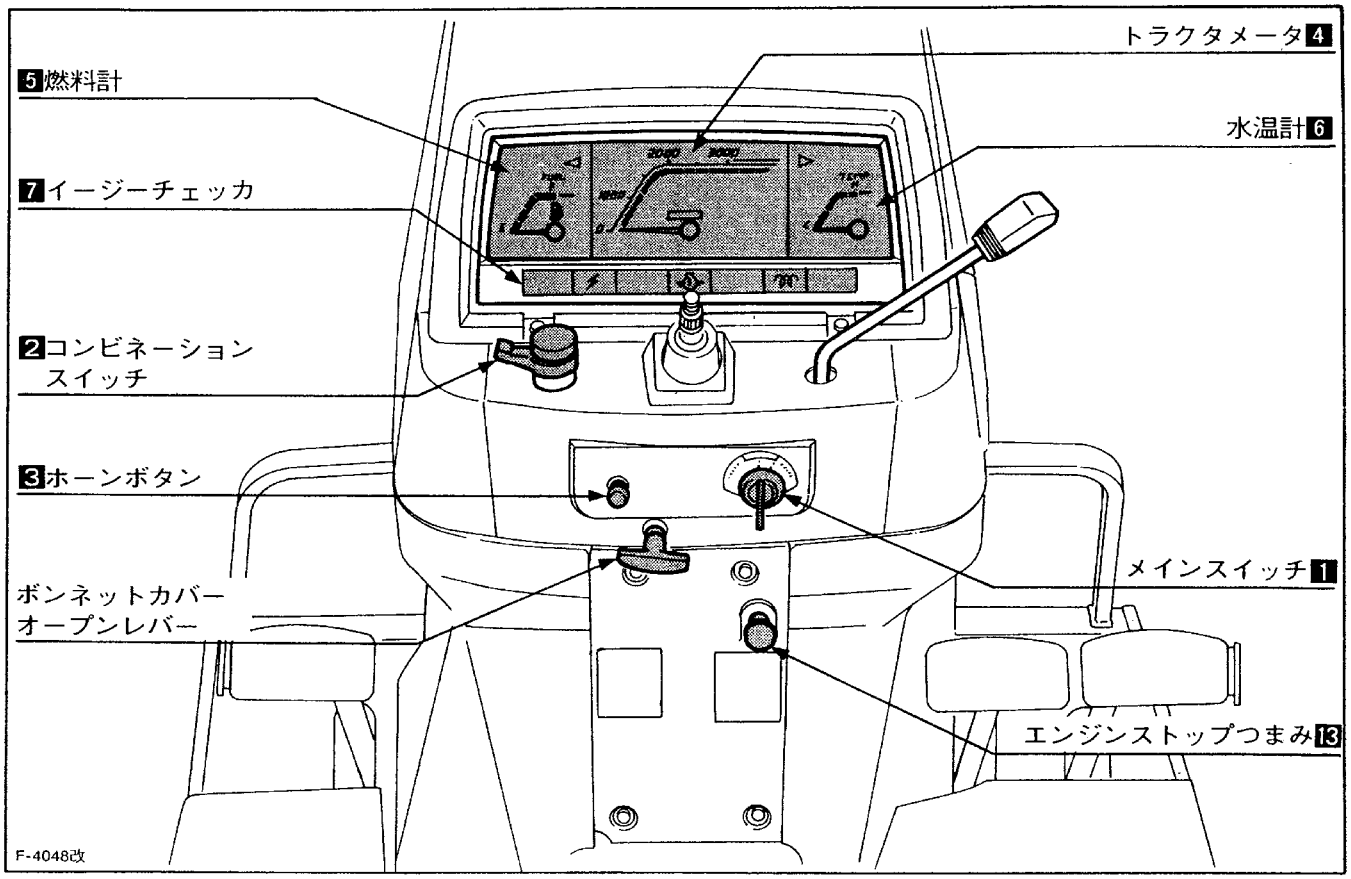
(3)エンジン及び本機で封印されているところはさわらないでください。封印が外されたと認められる場合は，一切の保証はできません。

注意

- 作業灯は「道路運送車両の保安基準」第42条(灯火の色等の制限)において，「走行中に使用しない灯火」とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

装置の知識について

スイッチとメータの取扱い



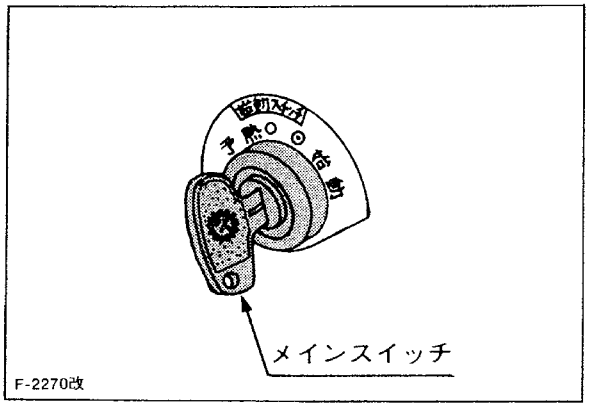
1メインスイッチ

○……キーが抜き差しできる位置。

⊙……エンジン回転中の位置。

予熱……燃焼室内が予熱される位置。

始動……クラッチペダルをいっぱい踏込んで，エンジンを始動する位置。
手を離せば自動的に「⊙」に戻ります。



2コンビネーションスイッチ

◆ライティングスイッチ

≡○……ヘッドランプ上向き照射位置。

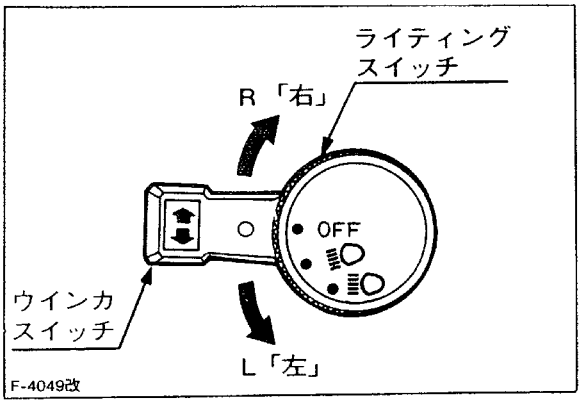
≡○……ヘッドランプ下向き照射位置。

ＯＦＦ…ヘッドランプ消灯位置。

◆ウインカスイッチ

L方向に操作すると左ウインカが点滅します。

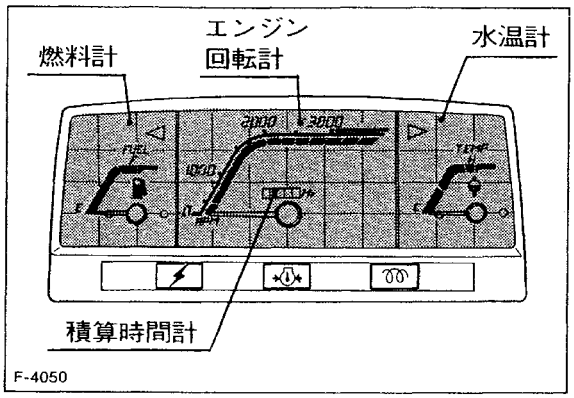
R方向に操作すると右ウインカが点滅します。



3 ホーンボタン

メインスイッチを「⊙」の位置にし，ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。

4 トラクタメータ



◆積算時間計

エンジンを定格回転で使用した場合の時間を示します。

白わく内の数字を 6 倍すると「分」単位の時間となります。〔例〕 0170(1)……170時間 6 分

◆エンジン回転計

1 分間のエンジン回転数を示します。

5 燃料計

メインスイッチ「⊙」「○」に関係なく，燃料タンク内の残量を示します。

注意

- 「E」に近づいたら早めに燃料を補給してください。からにすると燃料系統に空気が入るので，空気抜きが必要です。

6 水温計

メインスイッチが「⊙」のとき冷却水温を示します。

メインスイッチが「⊙」以外では，指針は「C」より下の位置にあります。

指針がレッドゾーンを示すときには，

(1)冷却水の有無・漏れ。

(2)ファンベルトのゆるみ。

(3)防虫網及びラジエータに，泥やゴミが付着していないか点検してください。

注意

- 必ずエンジンを停止して行なってください。

◆オーバヒートしたときの処置

オーバヒートしたときは，

❶作業を中止し，

❷エンジン回転を一旦アイドリング(約 5 分間)にしてから

❸エンジンを停止して，点検してください。

7 イージーチェッカ

オイルランプ

エンジン回転中，潤滑系統が異常のとき点灯するエンジンオイル油圧警告灯です。

メインスイッチを「⊙」にすると点灯し，エンジンを始動すると消灯します。

点灯したままのときは，エンジンオイル量を点検してください。

チャージランプ

エンジン回転中，充電系統が異常のとき点灯する充電警告灯です。

メインスイッチを「⊙」にすると点灯し，始動すると消灯します。

グローランプ

燃焼室内の予熱状況を示します。メインスイッチを「予熱」にすると約 5 秒間点灯し，始動可能になります。寒冷時には始動を容易にするため消灯後 5 秒程度「予熱」位置を保持してください。

始動のためメインスイッチを切換えるとき，「⊙」の位置で瞬間的に点灯することがありますが，故障ではありません。

注意

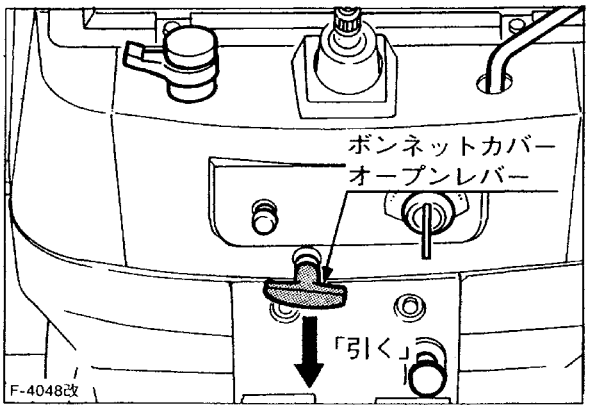
- イージーチェッカのみで日常点検は済ませず，点検は確実に行なってください。

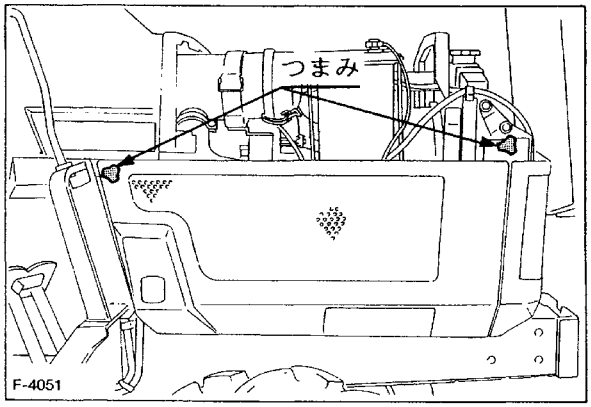
(36ページ仕業点検参照)

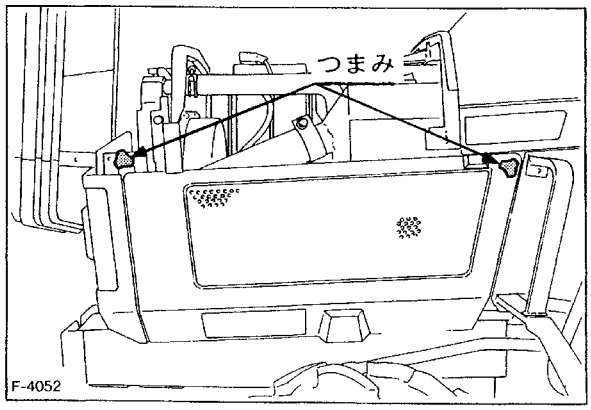
■ボンネット及び安全カバーの開けかた

(1)ボンネットカバーオープンレバーを引くとロックが外れ，持上げるとボンネットが開きます。
閉じるときはボンネットを上から押込んでください。

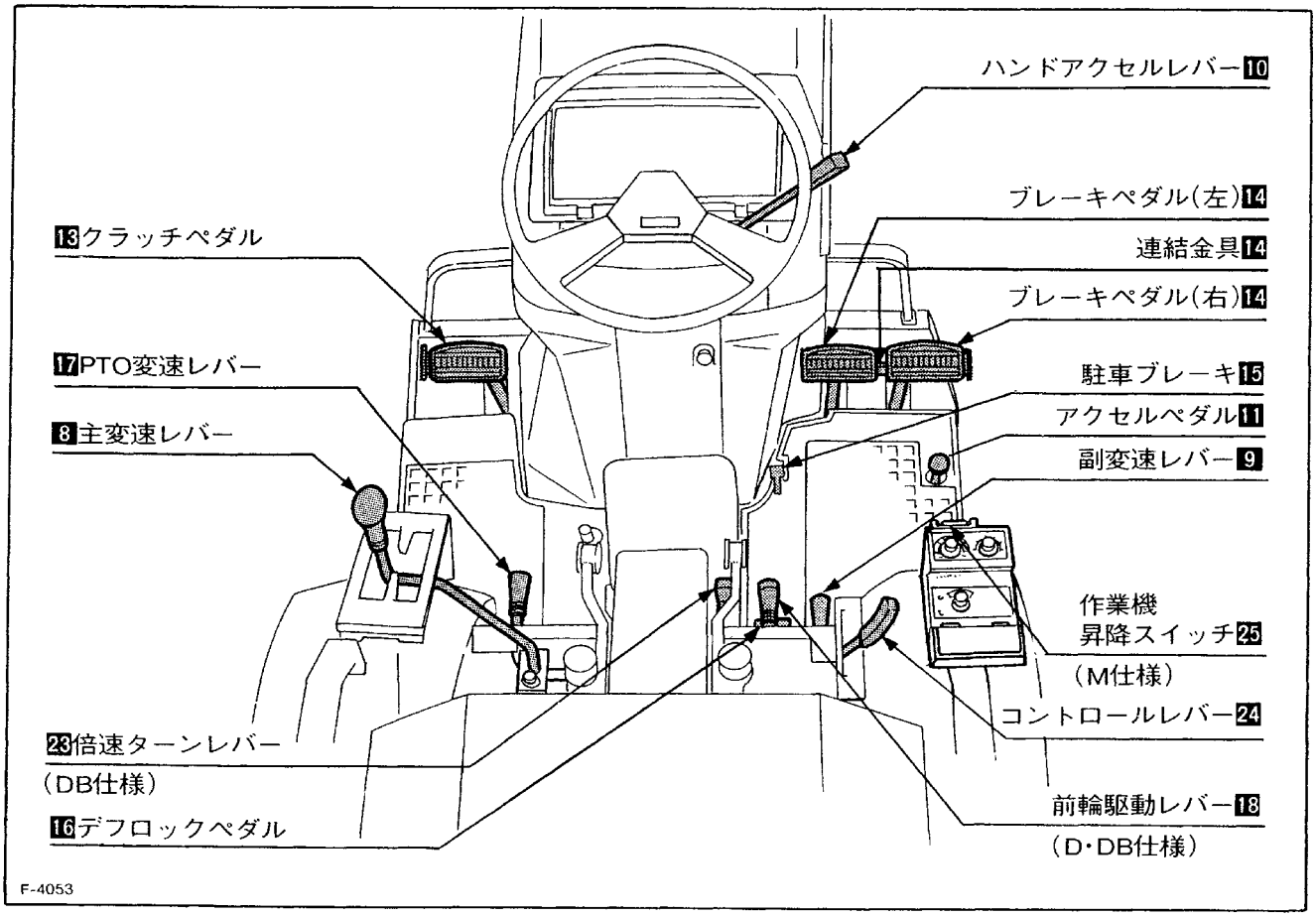
(2)安全カバー左右の取外しは，上部のつまみを外し前に寄せると取外せます。







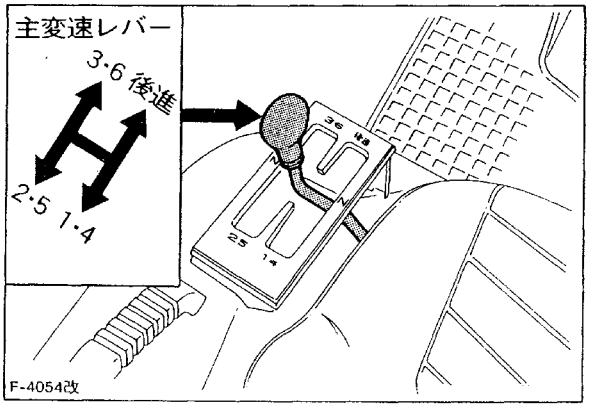
運転装置の取扱い

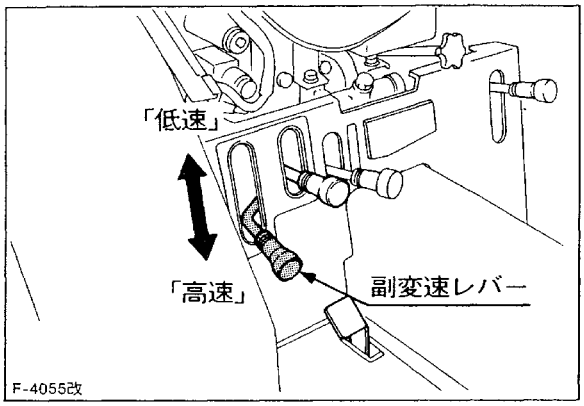


8主変速レバー

9副変速レバー

2本のレバーを組合せることにより，前進6段・後進2段の車速が得られます。





10ハンドアクセルレバーと 11アクセルペダル

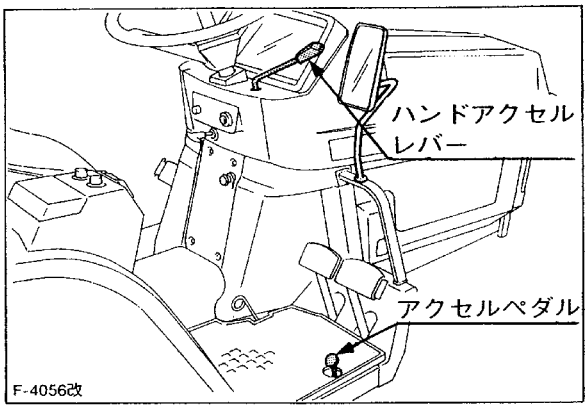
ハンドアクセルレバー……主に農作業時に使用する。

アクセルペダル……主に道路走行時に使用する。

アクセルペダルは，アクセルレバーと連動しており，

ペダルを踏込む……エンジン回転が上がる。

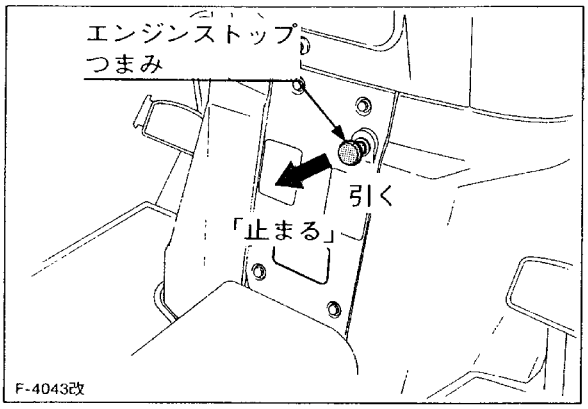
ペダルから足を離す……ハンドアクセルレバーのセット位置まで戻る。



12エンジンストップつまみ

つまみをいっぱい引張ると，エンジンが停止します。

〔エンジンの始動は，ストップつまみを押込んで行なってください。引っ張ったままでは始動しません。又，途中のままではエンジン出力が出ません。〕



13クラッチペダル

クラッチは，エンジン動力を各作動部に断続する装置で，

ペダルを踏込む……クラッチが切れる。

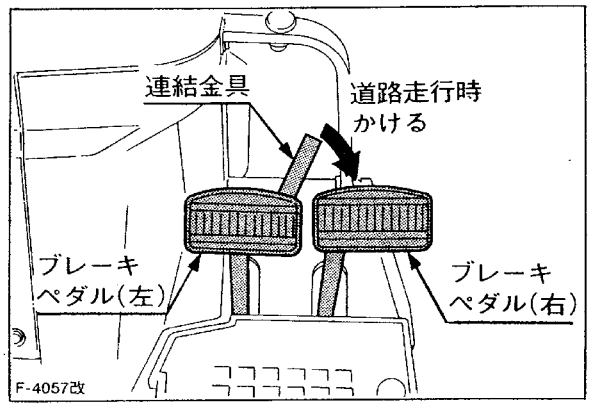
ペダルから足を離す……クラッチがつながる。

14ブレーキペダル

ブレーキは，強制的に機体を停止させる装置で，一般車両と異なり，左右それぞれ独立しており，後輪の片輪だけにブレーキをかけることができます。

連結金具を「かけた」状態……道路走行時。

連結金具を「外した」状態……農作業時。



安全ポイント

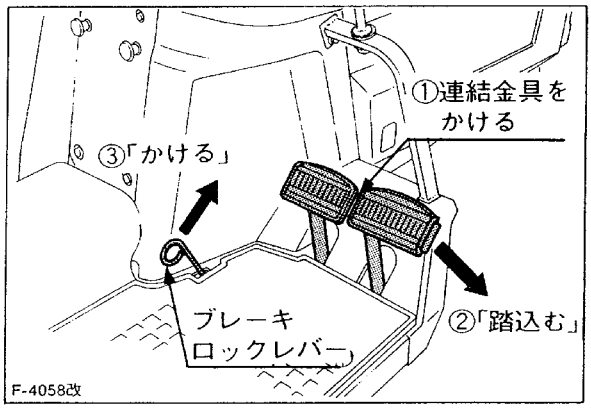
●道路走行中・登り坂・下り坂及びアゼ越え中は，ブレーキペダルの左右を連結金具で，必ず連結してください。

→ 納入品安全説明書14ページ参照

15駐車ブレーキ

ブレーキペダルを左右連結して踏込み，ブレーキロックレバーを上げると爪がみぞにかみ合い，駐車ブレーキがかかります。

外すときは，ペダルを踏込めば外れます。

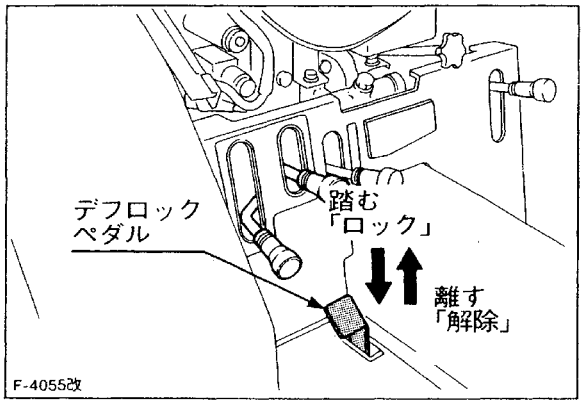


16デフロックペダル

左右の後輪が同じ回転速度で駆動される装置で，スリップ防止に効果があります。

ペダルを踏込む……ロックされる。

ペダルから足を離す……自動的に外れる。



◆デフロックの使い方

デフロックは，上手に使うと非常に役立ちますが，使用法を誤ると転倒などの危険や故障の原因にもなりますので，注意してください。

(1)農場への出入りやフロントローダ作業時など，片車輪がスリップして直進できないとき。

(2)農場の一部軟弱なところに片車輪が入込み，スリップして走行がしにくくなったとき。

(3)プラウ作業などけん引力を必要とする作業で，車輪がスリップしたとき。

注意

(1)デフロックを入れるときは，エンジン回転を下げてから行なってください。

(2)デフロックを入れているとき(デフロックペダルを踏む)は，絶対に旋回しないでください。旋回すると故障の原因になります。

(3)抜けにくいときは，クラッチを切るか，ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。
(強く踏むと故障の原因になります。)

安全ポイント

●デフロックを入れたままで旋回すると非常に危険です。旋回の前に必ず外してください。

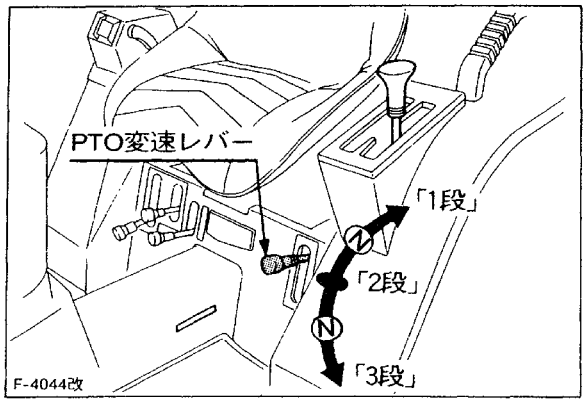
→ 納入品安全説明書12ページ参照

▶もし怠ると……

傷害事故を引越すことがあります。

17ＰＴＯ変速レバー

PTO軸(動力取出し軸)の回転速度を，３段階に変速できます。

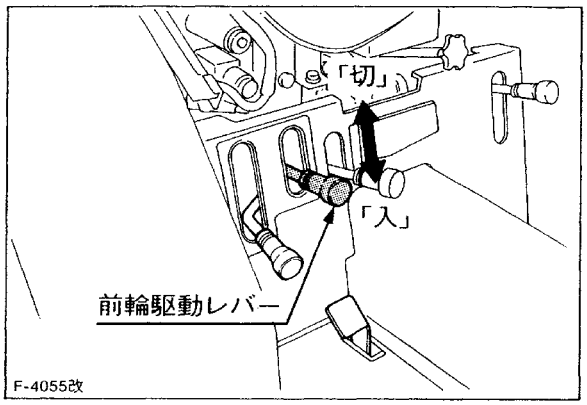


18前輪駆動レバー

前輪駆動の断続に使用するレバーで，クラッチペダルを踏込み，

レバーを「入」にする……前輪が駆動される。

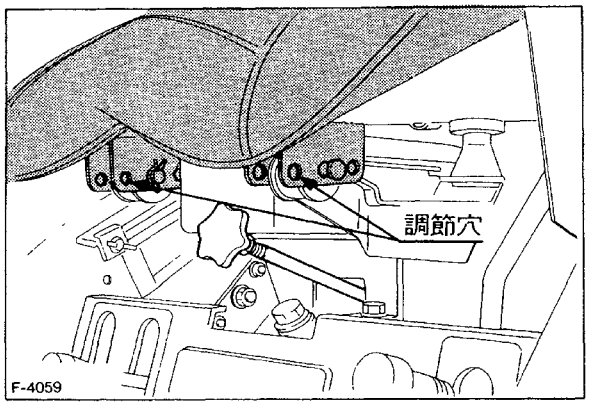
レバーを「切」にする……前輪駆動が切れる。



19シート

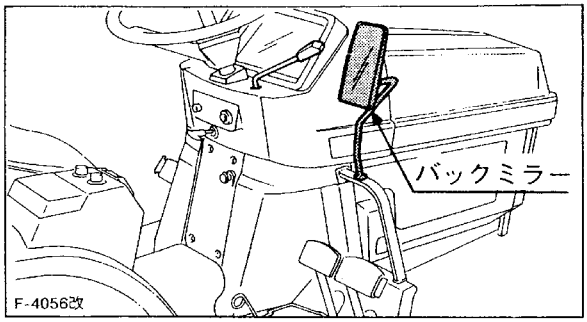
(1)身体の大きさに応じて楽な姿勢で運転していただくよう，ピン穴を移動して前後に３段階調節できます。

(2)雨のときはシートを前に倒しておくと，ぬれる心配がありません。



20バックミラー

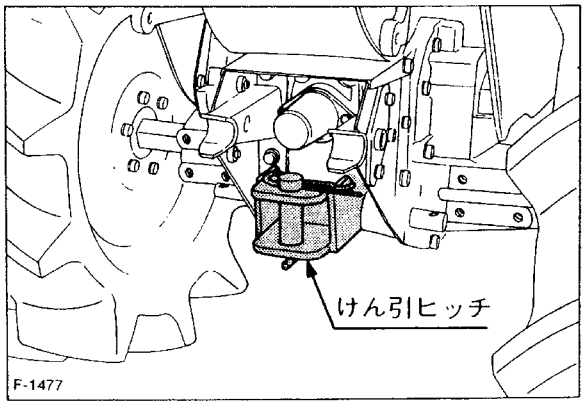
後方視野が充分に確認できる位置に調整してください。



21けん引ヒッチ(オプション部品)

けん引は，このトラクタ用に採用しているインプルメントのみにしてください。

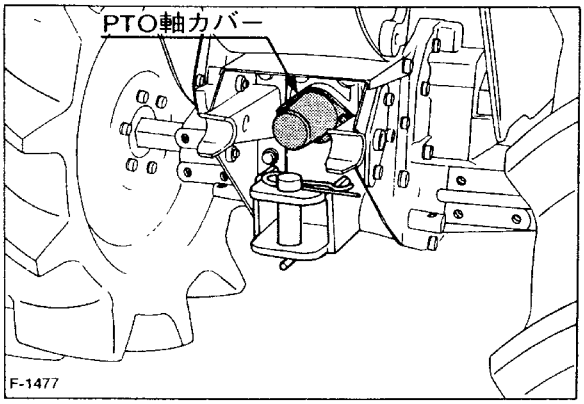
他の物をけん引する場合は，必ず販売店・農協に御相談ください。



安全ポイント

- けん引作業をするときは，必ずけん引ヒツチを使用してください。
  ▶もし怠ると……
  転倒による傷害事故を引起す恐れがあります。

22PTO軸カバー



安全ポイント

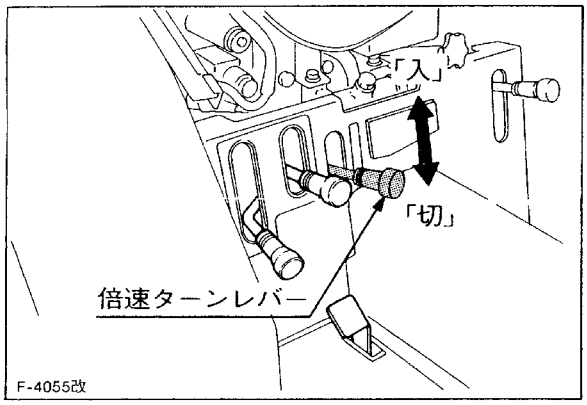
- PTO軸を使わないときは，PTO軸にグリースを塗布した後，カバーを取付けておいてください。
  ▶もし怠ると……
  巻込まれによる傷害事故を引起す恐れがあります。

23倍速ターンレバー【B仕様】

倍速ターンの断続に使用するレバーです。前輪駆動レバーを「入」にしてから操作してください。

レバーを「入」にする……倍速ターンが入る。

レバーを「切」にする……倍速ターンが切れる。



注意

(1)倍速ターンレバー「入」・「切」は，前輪タイヤが直進の状態から，左右各35°の間で行なってください。

(2)倍速ターンレバー「入」は，副変速レバーを「低」にして行なってください。副変速レバーが「高」のときは，倍速ターンレバーを「入」にすることができません。

◆倍速ターンの使い方

倍速ターンは，畑や水田などでのロータリ作業に役立ちますが，使用法を誤ると転倒などの危険や，故障の原因にもなりますので，注意してください。

注意

(1)ローダ，トレーラなど前輪に重荷重がかかるときは，使わないでください。

(2)前輪切角が35°～40°付近で4WDが切れます。これは中立位置となっているので，故障ではありません。

安全ポイント

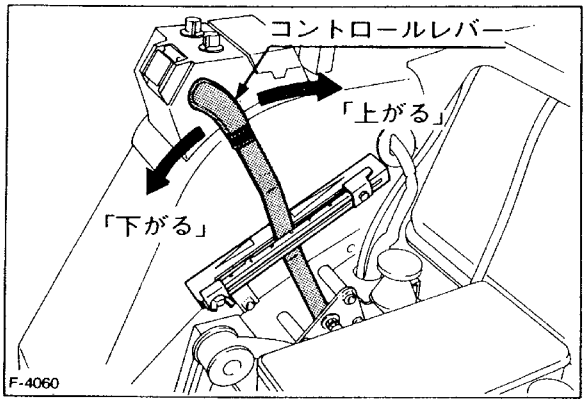
●倍速ターンに入れたままで，ほ場以外を走行すると危険です。ほ場から出る前に必ず倍速ターンレバーを「切」にしてください。
▶もし怠ると……
傷害事故を引起すことがあります。

作業機昇降装置の取扱い

油圧装置は，エンジン回転中は常に作動し，またクラッチの断続に関係なく作動します。

24コントロールレバー

コントロールレバーで作業機を自由に上下させる装置で，
レバーを後方に引く……作業機が上昇する。
レバーを前方に倒す……作業機が下降する。



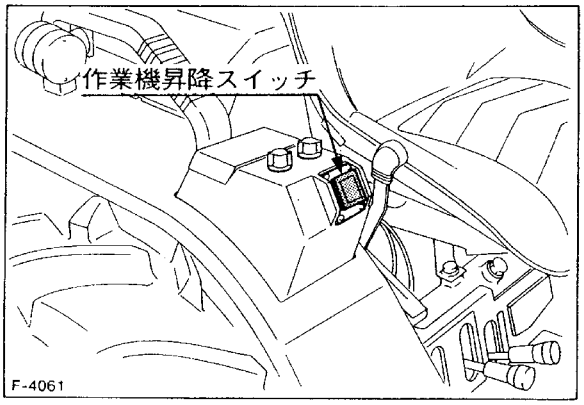
	レバー位置	作業機	作業機の位置
ポジション範囲（目盛り表示）	下げ方向に移動させる	下がる	この範囲では，作業機を任意の位置にセット・保持できます。
	上げ方向に移動させる	上がる	
フローティング範囲（目盛りなし）	下げ位置	下がる	この範囲では，作業機は止まらずいっぱいまで下がります。

◆コントロールレバー【M仕様】

安全を図り，次の取扱い特性があります。
(1)エンジン停止後はレバーを下降側に操作しても作業機は下降しません。
(2)エンジン始動後，レバーを元の位置（エンジン停止時のレバー位置）またはそれ以上に上昇側へ操作しないと作業機の昇降はできません。

25作業機昇降スイッチ【M仕様】

スイッチボタンで作業機を自由に上下させる装置で，ほ場内での旋回操作が便利になります。
スイッチを押込む(ランプ点灯)……作業機上昇
再度押し解除する(ランプ消灯)……作業機下降
スイッチを解除したときの下降位置はコントロールレバーで設定した位置になります。



注意

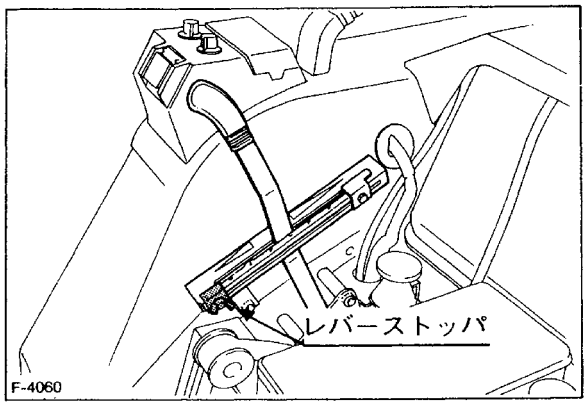
(1)危険防止のため，昇降スイッチの使用は，ほ場内作業に限定します。ほ場外(移動など)では必ずスイッチを解除し，コントロールレバーを使用してください。また，移動に際してはコントロールレバーが上昇位置にあることを確認してください。
(2)昇降スイッチでの作業機上昇位置はコントロールレバーで行なうときよりも，低く設定してあります。スイッチによる上昇位置が不足のときはコントロールレバーを使用してください。

26レバーストッパの使い方

❶コントロールレバーで，希望する作業位置を決めます。

❷その位置にレバーストッパを固定します。

❸その後は，コントロールレバーをレバーストッパに当るまで動かすことにより，同一の作業位置が得られます。



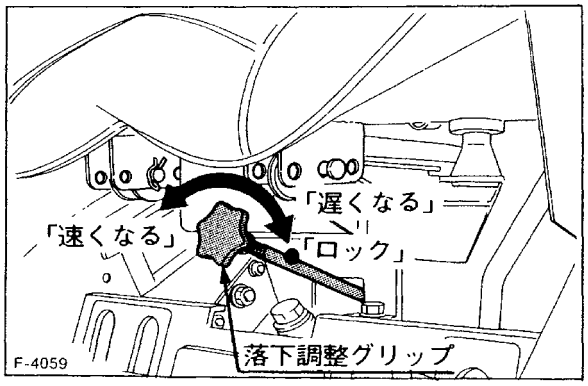
注意

●レバーガイド上昇側の端部にある固定ストッパは動かさないでください。動かすとコントロールレバーによる正常な昇降ができなくなります。

27作業機落下速度の調節

落下調整グリップを回すことにより調節できます。

落下調整グリップ	落下速度
右に回す	遅くなる
左に回す	速くなる
右に軽く締込む	ロックされる



●ロータリの落下速度は，上昇位置から接地するまで２～３秒が適当です。

注意

●油圧をロックするときはネジをいっぱいに締込まないで，軽く締込むだけにしてください。

安全ポイント

●ロータリなど作業機を点検する場合は，必ず落下調整グリップを締込んで作業機の落下を防止してください。
グリップを締込んだ後，コントロールレバーを「下がる」の方向に動かして，作業機が落下しないか必ず確認してください。

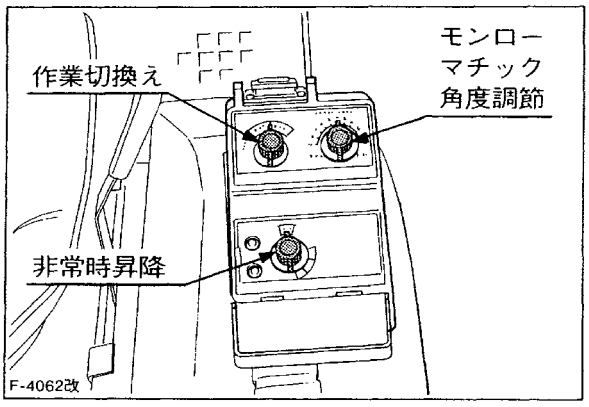
→ 納入品安全説明書12ページ参照

モンローマチック【M仕様】の取扱い

B-40のモンローマチックは，マイクロコンピュータで電子制御を行なっております。正しい取扱いですぐれた性能を発揮させてください。

28スイッチの取扱い

スイッチは非常時昇降用スイッチを除き，メインスイッチが「⊙」で「エンジン回転中」でないと作動しません。

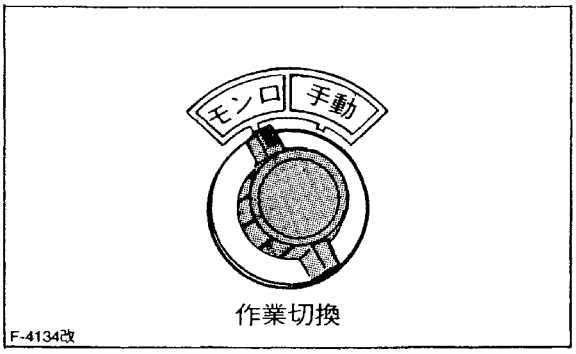


注意

●スイッチですので軽い操作力で作動します。無理な力を加えないでください。

◆作業切換えスイッチ

作業に応じて機能を選択するスイッチです。



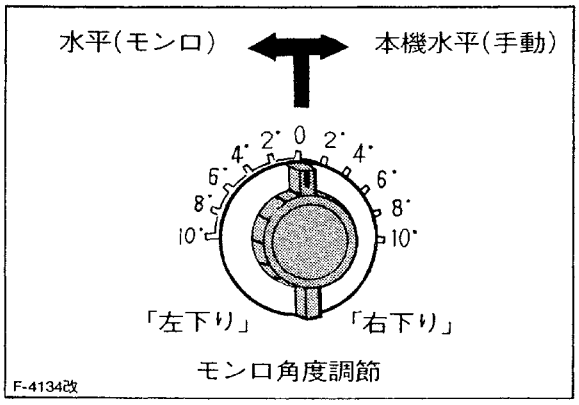
作業切換

「モンローマチック」…モンローマチックが自動的に作動します。

「手動」……「モンローマチック角度調節」スイッチを操作することにより，手動で作業機を傾けることができます。

◆モンローマチック角度調節スイッチ

作業機の姿勢を調整するときに使用します。



モンロ角度調節

(1)スイッチを「0」位置にしますと，作業切換えスイッチが「モンローマチック」のとき，作業機は水平に保持されます。作業切換えスイッチが「手動」のときは，作業機は機体と平行に保持されます。

(2)スイッチを「左下り」方向に回すと，作業機は左下りに保持されます。

(3)スイッチを「右下り」方向に回すと，作業機は右下りに保持されます。

●次のような作業に効果があります。

（作業切換えスイッチが「モンローマチック」のとき）

(1)モンローマチック角度調節スイッチが「0」の場合（トラクタ本体の傾きにかかわらず，作業機は水平になります。）

①水田でのあぜ際耕うん，枕地，凸凹地での均平耕うん。

②整地板，ドライブハローなどによる均平作業

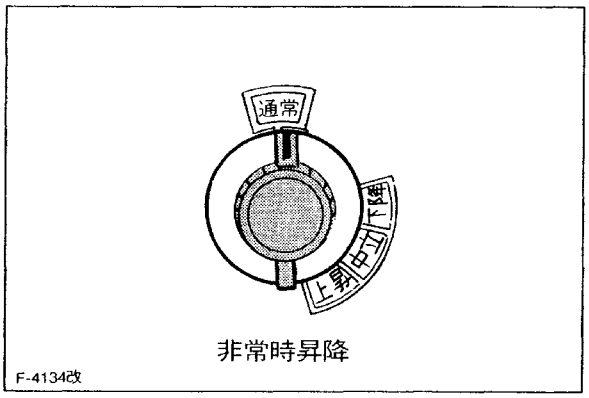
③畑での畝立て，畝崩し作業その他

(2)モンローマチック角度調節スイッチが「0」以外の場合

①プラウ作業，広幅畝立てなど

②傾斜地作業，その他

◆非常時昇降スイッチ【M仕様】



非常時昇降

❶「エンジン回転中」で装置のトラブルによりコントロールレバーや作業機昇降スイッチで作業機の昇降ができないとき……「上昇」「中立」「下降」の位置にスイッチを合せ，緊急用として使用する。使用後，販売店の診断を受けてください。

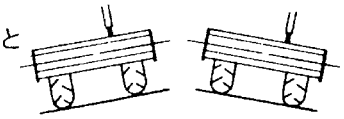
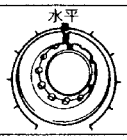
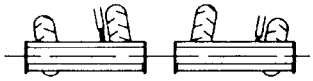
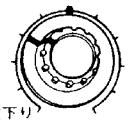
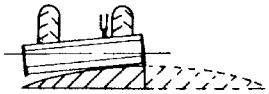
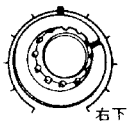
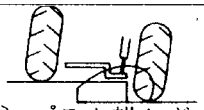
❷「エンジン停止」の状態で，作業機を下降させたいとき……メインスイッチを「⊙」にし「下降」の位置にスイッチを合せてください。

使用後はバッテリあがりを避けるため，速やかにメインスイッチを「○」に戻してください。

注意

●非常時以外は使用しないでください。使った後は必ずスイッチの位置を「通常」位置に戻してください。

■モンローマチック用スイッチの操作と作業機の動き

作業切換えスイッチ	コントロールレバーまたは作業機昇降スイッチ	モンローマチック角度調節スイッチ	作業機の動き	備考
モンローマチック	作業機上昇位置	——	本機と平行 	作業機が上昇すれば本機と平行になります。
	作業位置		水平  〔例〕ロータリ耕など	作業機が自動水平制御されます。
			左下り  〔例〕広幅畝立てなど	本機の傾きが変わっても作業機は一定の姿勢(角度)を保ちます。
			右下り  〔例〕プラウ耕など	本機の傾きが変わっても作業機は一定の姿勢(角度)を保ちます。

注意

(1)モンローマチック作業で，傾斜角が10°以上傾いたときは本機の安全弁が作動して，その状態では作業機の上昇ができなくなります。但し3秒後には安全弁の作動が解除され，上昇が可能になります。

(2)モンローマチックが不要なインプルメント作業(フロントローダ作業など)では，作業切換えスイッチを「手動」にして作業してください。

(3)センサなど電子部品にはスチームクリーナなどでの直接洗浄は避けてください。

安全ポイント

● 道路走行時には必ず作業切換えスイッチを「手動」にして走行してください。
又，落下調整グリップを締込んで作業機の落下を防止してください。

→ 納入品安全説明書12ページ参照

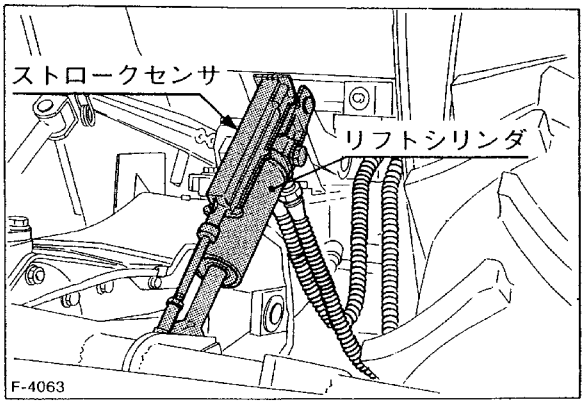
■インプルメントの取扱い

◆インプルメントの装着について

モンローマチックが働き，リフトシリンダが伸縮するとトラクタと作業機が接触する場合がありますので，接触しないことを確認してから使用してください。

◆リフトシリンダを取外す場合

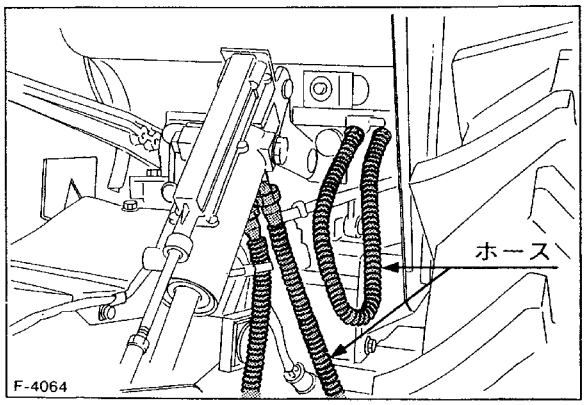
トレーラなどのけん引作業において，リフトシリンダを取外すときは，次の要領で行なってください。



❶コードクランプを外します。

❷ストロークセンサの配線を接手部で外し，接手部にはそれぞれキャップでカバーをしてください。

❸油圧ホース２本を接手部で外し，図のように接続してください。

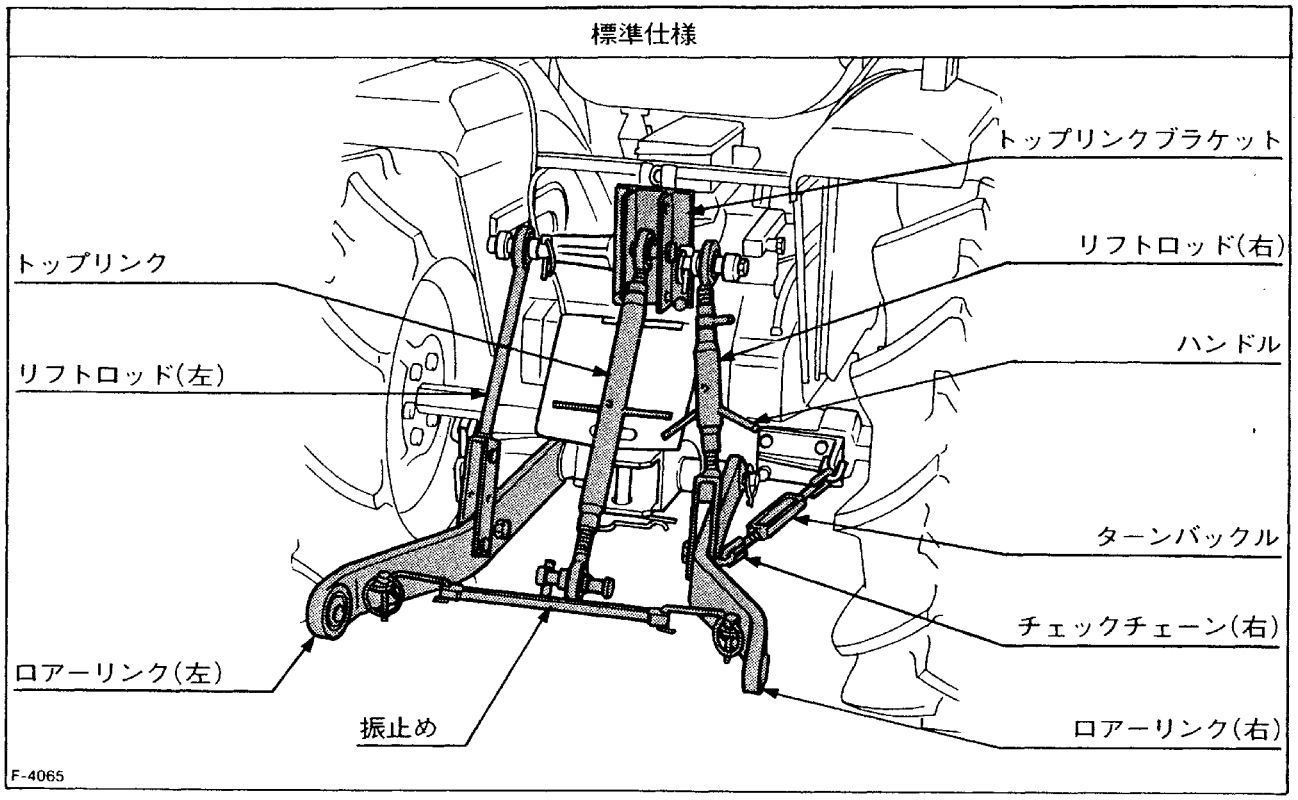


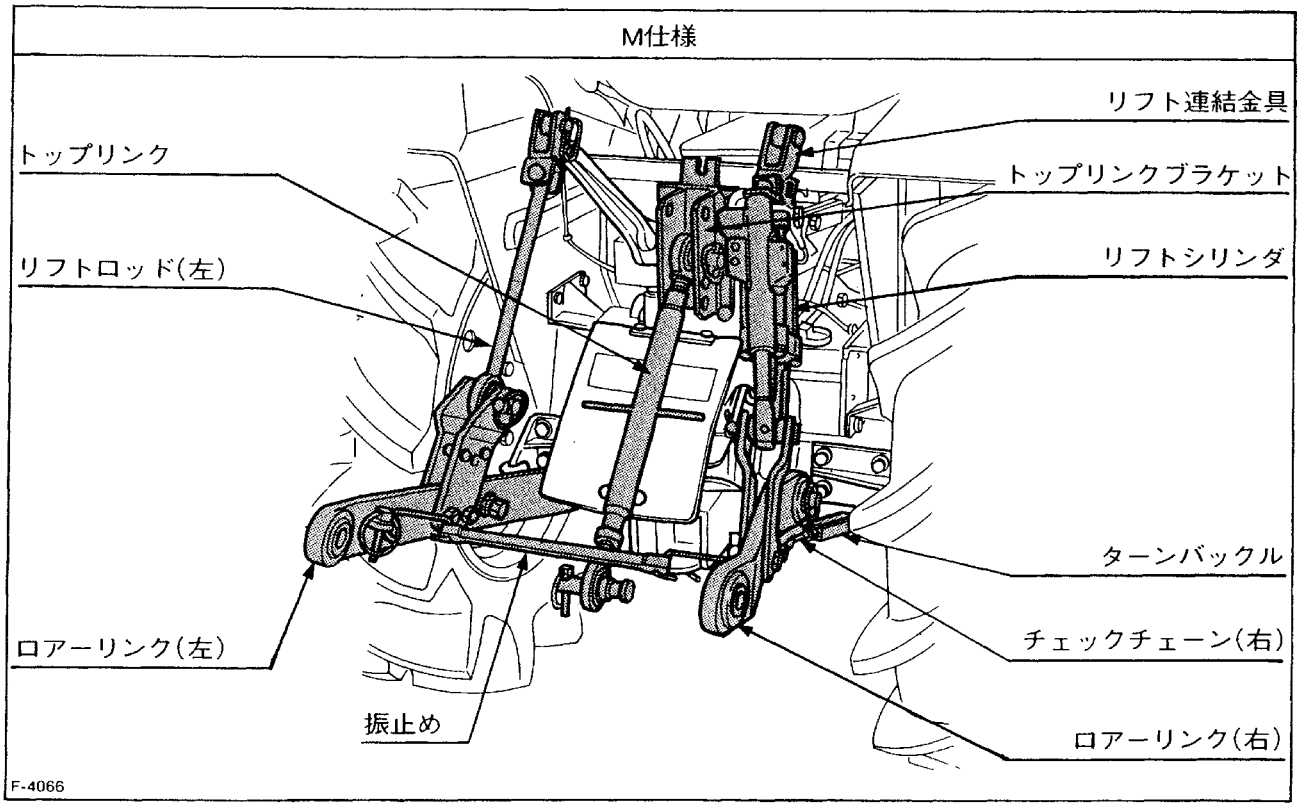
❹頭付きピンを抜き，リフトシリンダを取外してください。

注意

●ストロークセンサは破損しないように特に注意して取扱ってください。投げたり，水の中につけたり絶対にしないでください。

三点リンク装置の取扱い(一般作業機用)(オプション部品)





(1)3点リンクはJIS 0形です。

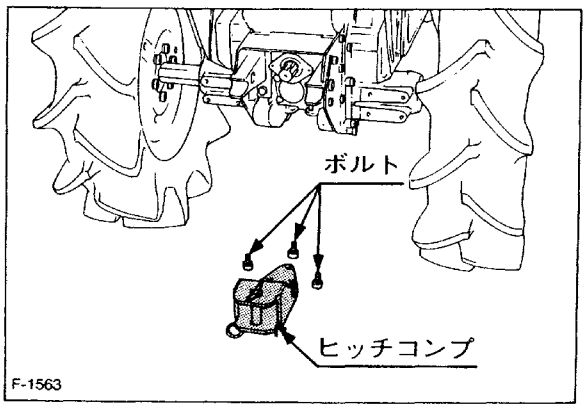
(2)後輪輪距を広げてください。

■三点リンクヒッチの取付け方【標準仕様】

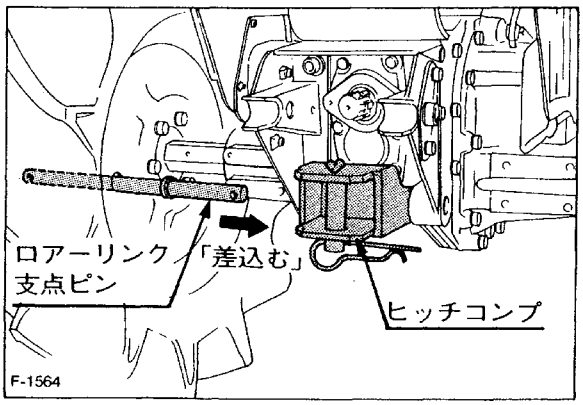
❶ロータリ装置を取外してください。

(25ページ参照)

❷ヒッチコンプを，ボルト３本でデフギヤーケース下部のねじ部に取付けます。



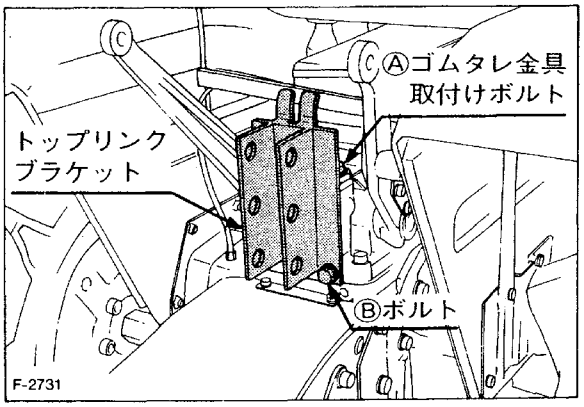
❸ロアーリンク支点ピンを，ヒッチコンプに図のように差込み，セットボルトで位置を固定します。



❹トップリンクブラケットの取付けは，ゴムタレ金具を締付けているボルト２本を外し，長いボルトに換えてゴムタレ金具の上に載せて共締めで取付けます。

●取付け方

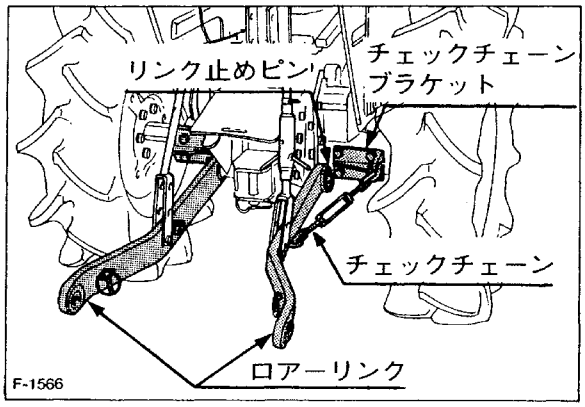
先にⒶの穴にM12のボルト２本で仮止めし，次にⒷの穴にM12のボルト２本で締付けます。その後で仮止めした２本のボルトを確実に締付けてください。



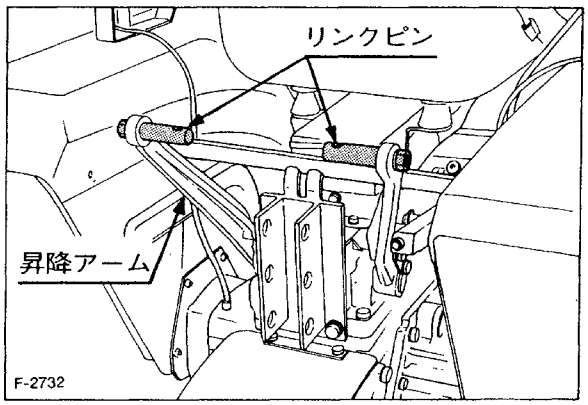
❺ロアーリンクカラーをロアーリンク支点ピンに差込みます。

❻ロアーリンク左右を，ロアーリンク支点ピンに差込み，リンク止めピンで抜止めをします。

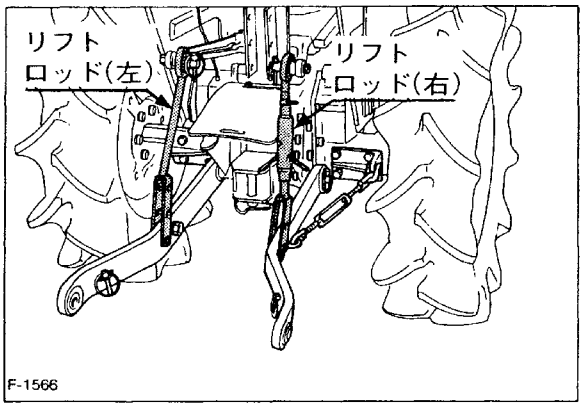
❼車軸ケースにチェックチェーンブラケットを取付け，チェックチェーンをピンで取付けます。



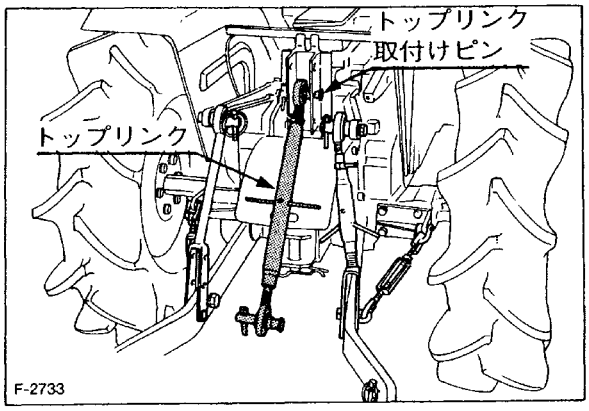
❽昇降アームにリンクピンを取付けます。



❾リフトロッド右(ハンドルが付いている側)をロアーリンク右と昇降アーム右に，リフトロッド左をロアーリンク左と昇降アーム左に，それぞれピンで取付けます。



⑩トップリンクを，トップリンク取付けピンで取付けます。



■三点リンクヒッチの取付け方【M仕様】

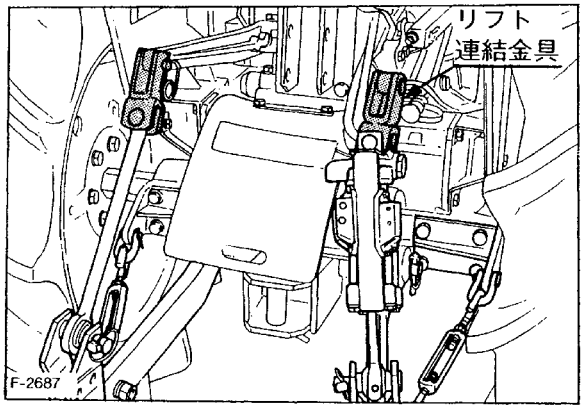
❶ロータリ装置を取外してください。

（27ページ参照）

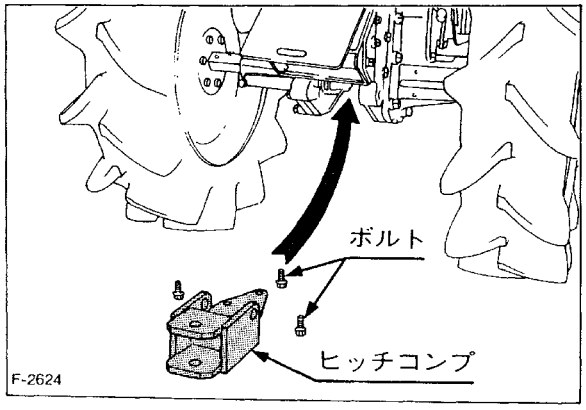
❷リフト連結金具を３点リンク用に組換え，スナップピンで止めてください。

注意

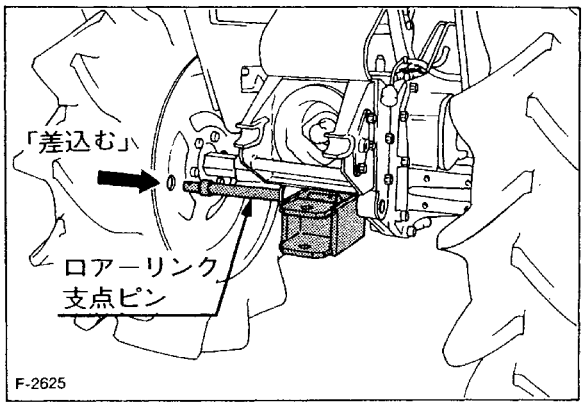
●ロータリを取付けるときは，標準装備されていたリフト連結金具に戻してください。



❸ヒッチコンプを，ボルト３本でデフギヤーケース下部のねじ部に取付けます。



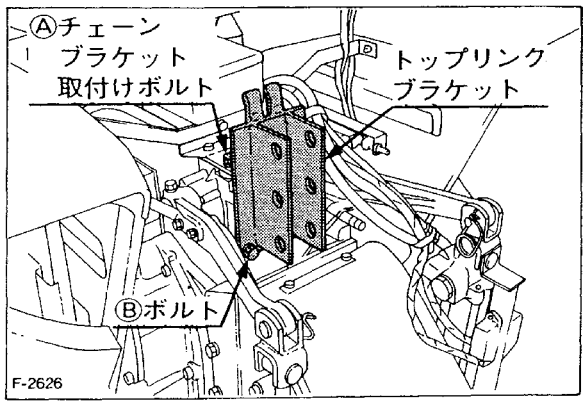
❹ロアーリンク支点ピンを，ヒッチコンプに図のように差込み，セットボルトで位置を固定し，ロックナットで止めます。



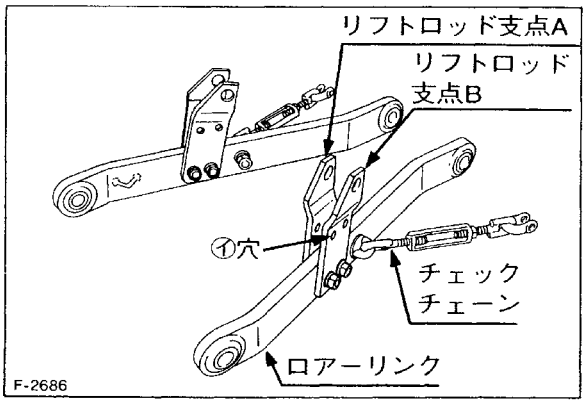
❺トップリンクブラケットの取付けは，ゴムタレ金具を締付けているボルト２本を外し，長いボルトに換えてゴムタレ金具の上に載せて共締めで取付けます。

●取付け方

先にⒶの穴にM12のボルト２本で仮止めし，次にⒷの穴にM12のボルト２本で締付けます。その後で仮止めした２本のボルトを確実に締付けてください。



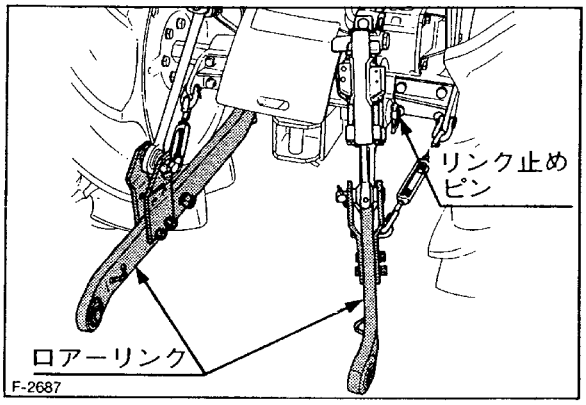
❻ロアーリンクにリフトロッド支点A・Bをボルトで取付け，チェックチェーンをナットで取付けます。



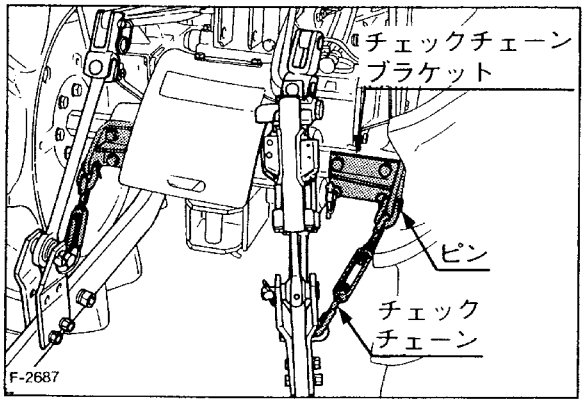
地上高を高くする場合は，(㋑)の穴に取付けてください。

❼ロアーリンクカラーをロアーリンク支点ピンに差込みます。

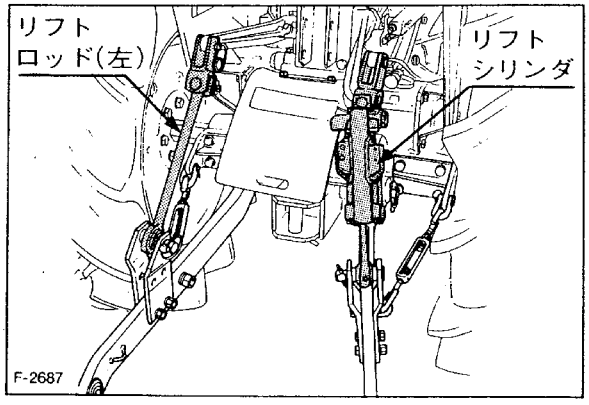
❽ロアーリンク左右を，ロアーリンク支点ピンに差込み，リンク止めピンで抜止めをします。



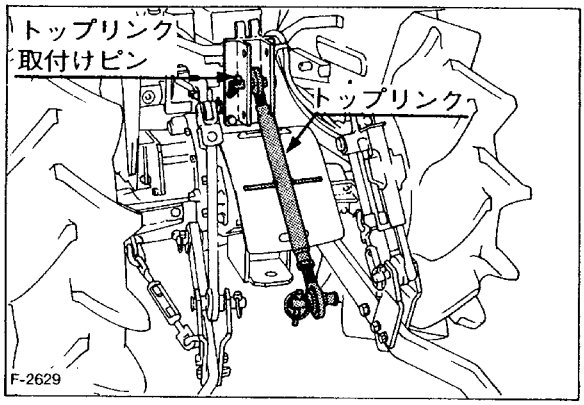
❾車軸ケースにチェックチェーンブラケットを取付け，チェックチェーンをピンで取付けます。



❿トラクタのリフトシリンダをロアーリンク右に，トラクタのリフトロッド左をロアーリンク左に，それぞれピンで取付けます。

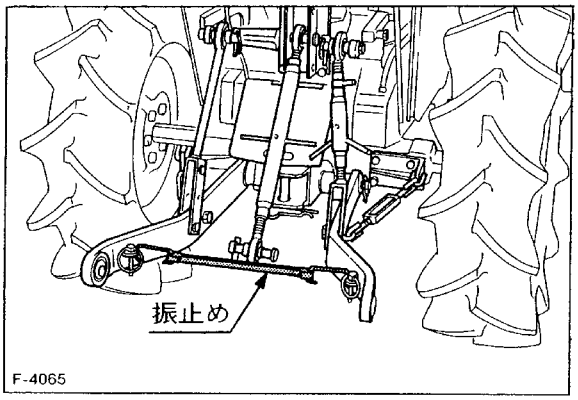


⓫トップリンクを，トップリンク取付けピンで取付けます。



■作業機を取付けないときの注意

作業機を取付けないときは，ロアーリンクが後輪に当らないように，左右振止めをしておいてください。



■トップリンクの調節

(1)伸縮させて，作業機の傾きを調整してください。

(2)トップリンク取付け位置は，作業機の種類によって違います。

安全ポイント

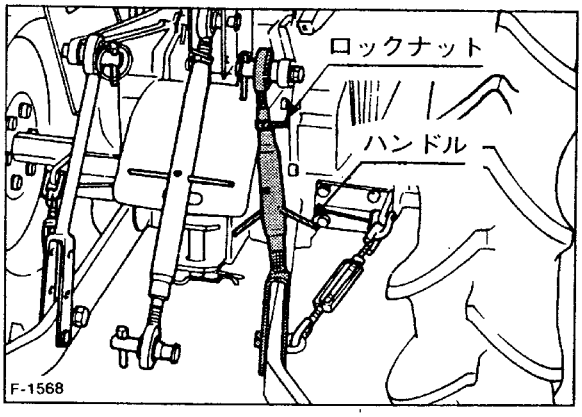
● トップリンク調整ネジのねじ込み長さが，必ず1.5cm以上になるように確認してください。

▶もし怠ると……

落下による傷害事故を引起す恐れがあります。

■リフトロッドの調節【標準仕様】

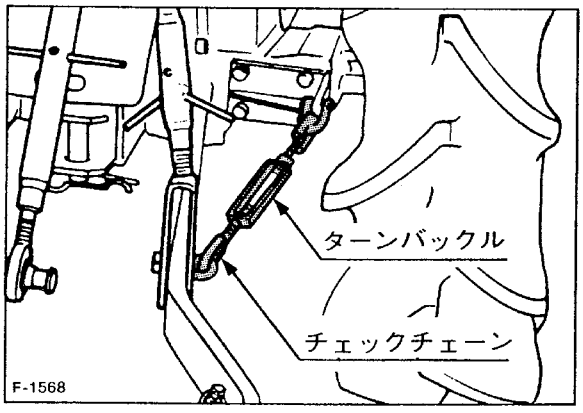
リフトロッド右には，伸縮用のハンドルが付いていますので，このハンドルを操作して，作業機の左右の水平を保つように調節してください。



■チェックチェーンの調節

ターンバックルを回して，作業機の横振れを制限してください。

作　業　機	チェーンの張り具合
プラウ，ハロー， サブソイラ， ディガー，	ゆるめる （作業機が横方向に 5 ～ 6 cm動く程度）
ロータリ，モアー， ヘイレーキ，テッダ， リッジャ，カルチベータ	軽く締める

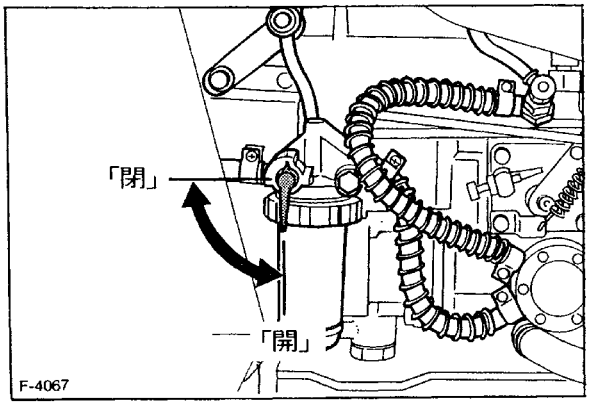


上手な運転のしかた

エンジンの始動について

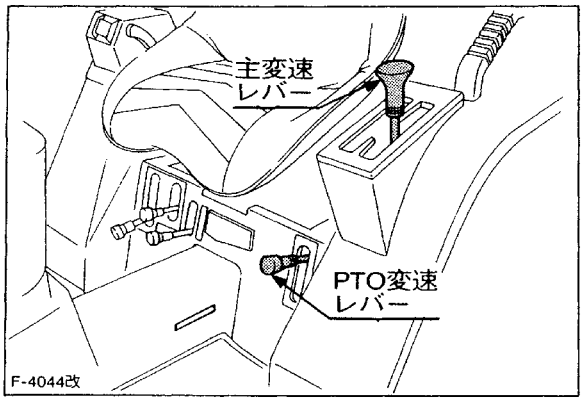
■始動のしかた

❶燃料コックを「開」にします。

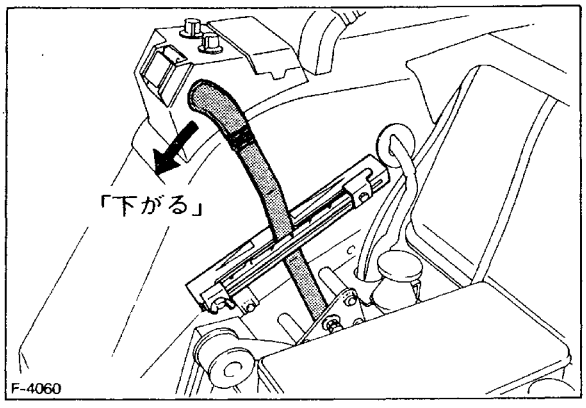


❷エンジンストップつまみ(ロッド)を押込みます。
(7ページ図参照)

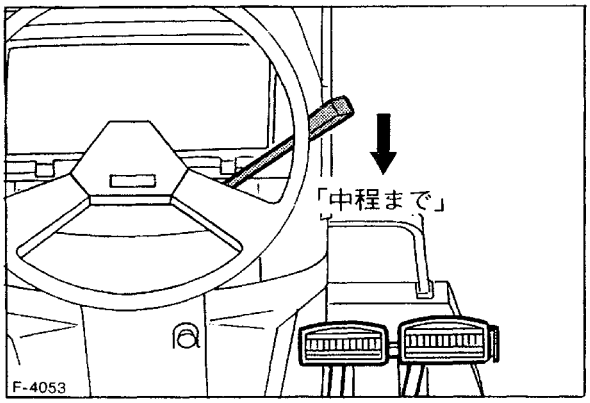
❸主変速レバー及びPTO変速レバーを「中立」にします。



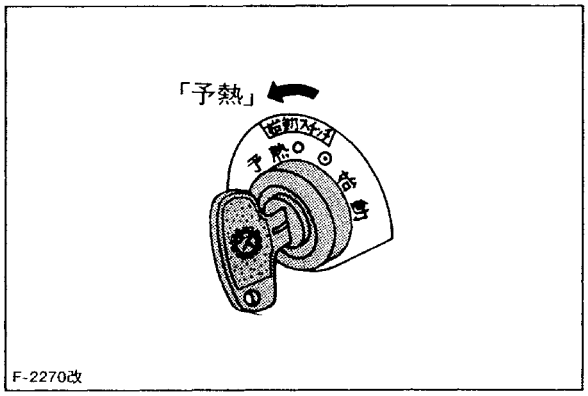
❹コントロールレバーを「前方に倒し」作業機を下げます。



❺ハンドアクセルレバーを「中程」まで引きます。

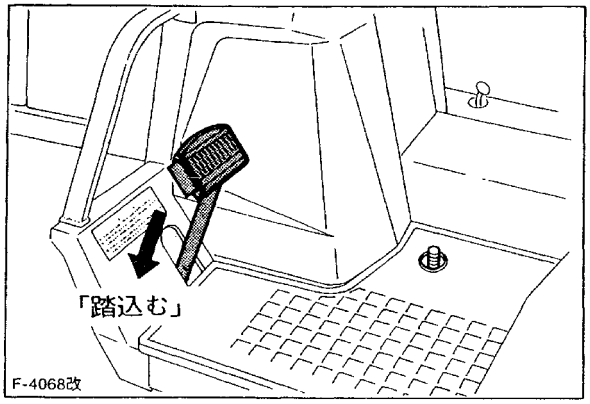


❻メインスイッチにキーを差込み，「予熱」位置に回します。
(グローランプは約5秒間点灯します)



予熱時間は，0℃以上……約5秒間予熱。
0℃未満……約10秒間予熱。
(グローランプは約5秒で消灯しますが，連続して約10秒間予熱ののち始動してください。)
ただしエンジンが暖っている場合は，この操作はいりません。

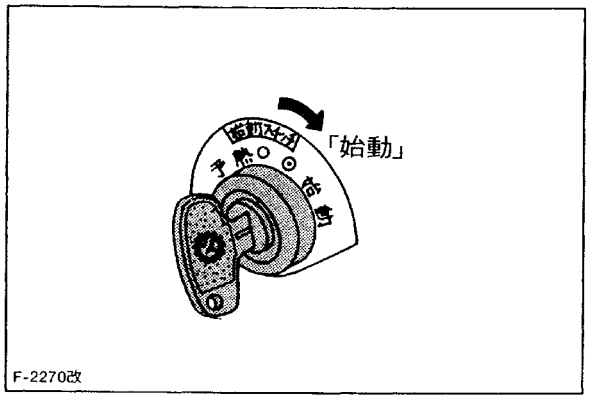
❼クラッチペダルを踏込みます。



注意

●クラッチペダルをいっぱい踏込まないと，安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。

❽メインスイッチのキーを「始動」位置に回します。



注意

●セルモータは，大電流を消費しますので，10秒以上の連続使用は避けてください。
10秒以内で始動しなかった場合は，いったんスイッチを切って，30秒以上休止してから同じ操作を繰返してください。

❾エンジンが始動したら，キーから手をはなしてください。自動的に「⊙」に戻ります。

注意

●エンジン回転中は，キーを始動位置にしないでください。

❿クラッチペダルからゆっくり足を離し，そのまま5分程度暖機運転しましょう。

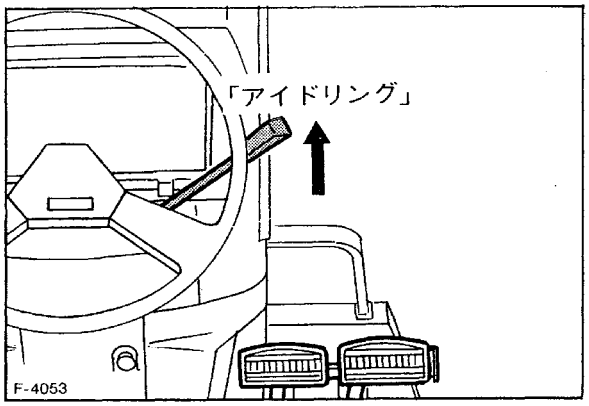
注意

●エンジン回転中は，キースイッチを絶対に切らないでください。

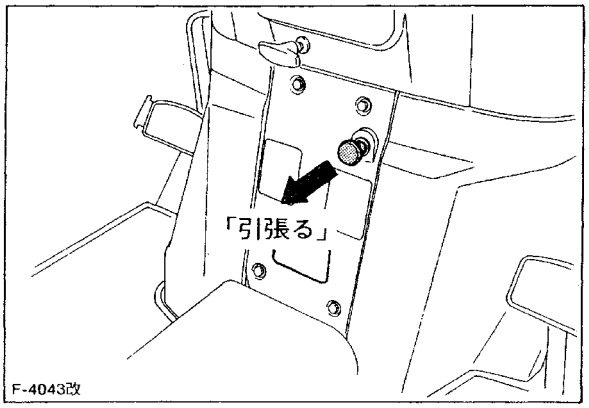
エンジンの停止について

■停止のしかた

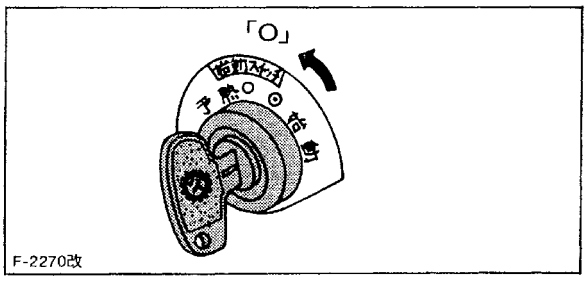
❶ハンドアクセルレバーをいっぱい前へ押して，アイドリング状態にします。



❷エンジンストップつまみ(ロッド)をいっぱい引張ると，エンジンは止まります。



❸キーを「O」にし，必ずキーは抜きましょう。



ならし運転(最初の約60時間)

この期間中は，特に次のことを厳守してください。

(1)急なスタート，急ブレーキは慎んでください。

(2)必要以上のスピードや負荷をかけないようにしましょう。

(3)運転は，エンジンが充分暖まってから行なうようにしましょう。

(4)悪路や傾斜地では，速度を落としゆっくりと走行しましょう。

暖機運転について

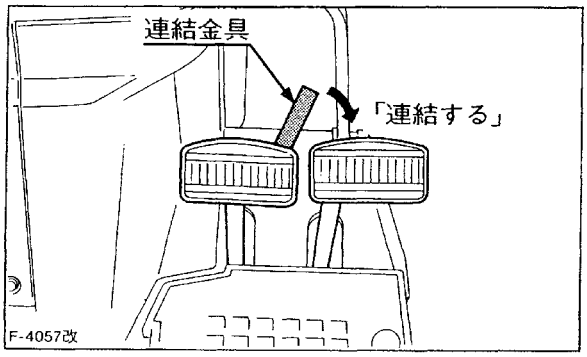
始動後，約５分間は負荷をかけずに暖機運転をしてください。オイルを各メタルに充分ゆきわたらせるためで，始動してからすぐ負荷をかけると，運転部分の焼付きや破損など故障の原因になりますので御注意ください。

注意

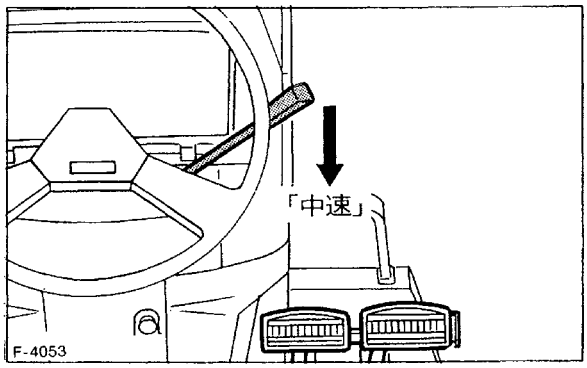
- 暖機運転中は駐車ブレーキを必ず使用しましょう。

発進・走行のしかた

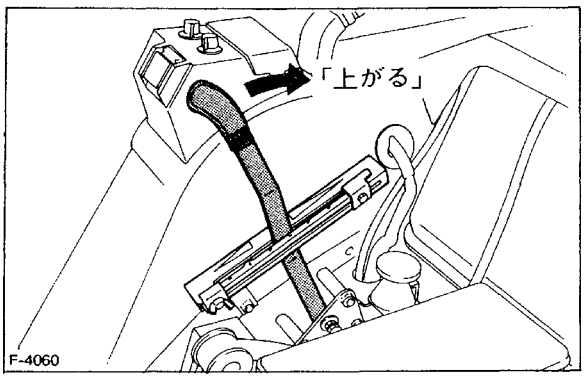
❶ブレーキペダルが左右連結されていることを確認してください。



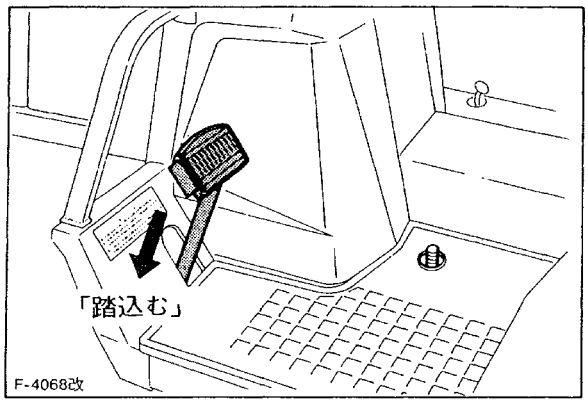
❷エンジン回転をアイドリングから中速回転にします。



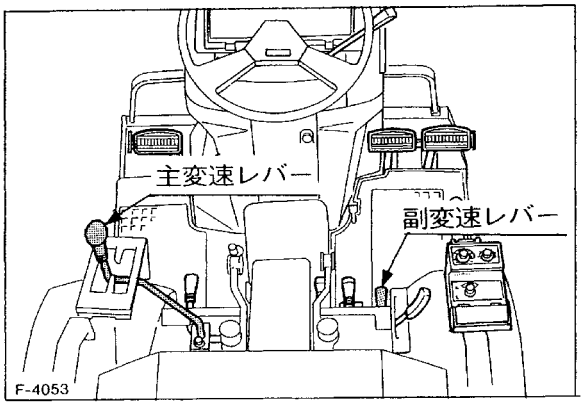
❸コントロールレバーを「後方に引き」作業機を上げます。



❹クラッチペダルをいっぱいまで踏込みます。



❺主・副変速レバーを希望する位置に入れます。



注意

- 走行中に変速することはできません。必ずトラクタを停止させ，クラッチペダルを踏込んでから行なってください。

❻クラッチペダルをゆっくり離せば，トラクタが動き始めます。

注意

(1)走行中は，クラッチペダルの上に足を乗せないようにしましょう。
足を乗せるとクラッチがすべっている状態で摩耗が早くなります。

(2)クラッチペダルの操作は，切るときは早く，つなぐときはゆっくり操作してください。

安全ポイント

- トラクタを動かす前には，前後左右に注意してください。
  ▶もし怠ると……
  傷害事故を引起すことがあります。

停車のしかた

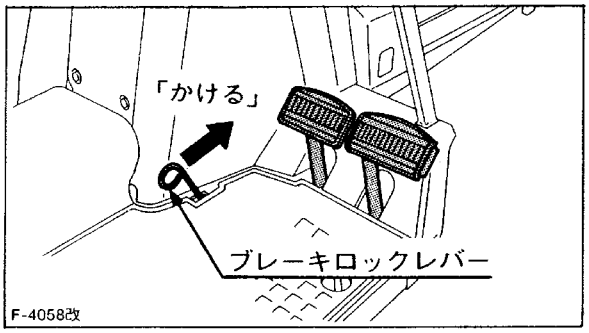
❶ハンドアクセルレバーを前方に押して，エンジン回転をアイドリング状態にします。

❷クラッチ及びブレーキペダルを踏込みます。

❸完全に停止してから，主変速レバーを「中立」にします。

❹作業機を取付けている場合は，コントロールレバーをゆっくり「前方に倒し」作業機を下げます。

❺駐車ブレーキを確実にロックしてください。



❻エンジンストップつまみ(ロッド)でエンジンを停止します。

注意

(1)トラクタを坂道の途中で止めておく場合は，タイヤに必ず車止めをしておきましょう。

(2)トラクタを停止するときは，草やワラの上に止めないでください。
マフラ排気口に草やワラが触れると火災の恐れがあります。

(3)作業を終えて，シートをトラクタにかけるときには，マフラ，エンジンが冷えてからにしてください。

(4)停車時，空吹かしをしたり，高回転にしたりすると排気管の熱や，排気ガスにより，ワラなどに着火する恐れがあります。

旋回のしかた

旋回するときは，できるだけエンジン回転を落とし，ゆっくりと旋回してください。

安全ポイント

●高速で回ると，横転する危険があります。デフロックペダルの解除を確認して，必ずスピードを落としてゆっくりと回ってください。
▶もし怠ると……
傷害事故を引起すことがあります。

坂道での運転のしかた

(1)坂道状況に応じた安全なスピードで，エンジンにできるだけ負担をかけないように走行しましょう。

(2)登り坂ではノッキングさせないように早めに遅い変速位置にしましょう。

(3)下り坂ではエンジンブレーキを活用しましょう。
車速を下げるほどエンジンブレーキはよくききます。

安全ポイント

→ 納入品安全説明書６及び14ページ参照

(1)ブレーキペダルの連結及びデフロックの解除を確認してください。

(2)坂道では主変速を中立にしたり，クラッチを切ったりしないようにしましょう。

(3)下り坂では，エンジン･ブレーキを活用し，クラッチペダルは絶対踏込まないようにしましょう。
▶もし怠ると……
傷害事故を引起すことがあります。

ほ場への出入り時の注意

(1)ブレーキペダルの左右の連結を確認してください。

(2)耕作地への出入りは，高低差が大きいと危険です。
アユミ板などを利用してください。

(3)耕作地への出入りは，直角に行なってください。

(4)登り始めは，作業機を下げて進むと，前輪が浮き上がりません。
トラクタの前・後輪があぜに上がると同時に作業機を上げます。
常に前・後輪のバランスを考えながら操作するようにしてください。

安全ポイント

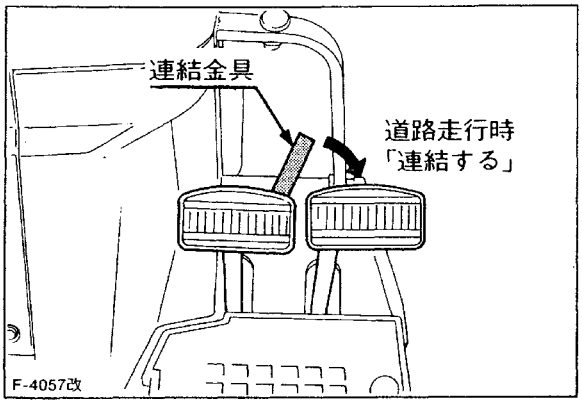
→ 納入品安全説明書８ページ参照

トラックへの積込み，積降ろしのしかた

トラックへの積込みは，バックで(副変速は低速)行なってください。
万一，途中でエンストした場合は，すぐブレーキペダルを踏込み，その後徐々にブレーキをゆるめ，いったん道路まで降ろし，改めてエンジンを始動してから行なってください。
左右のブレーキペダルは，必ず連結しておいてください。

公道走行中の注意

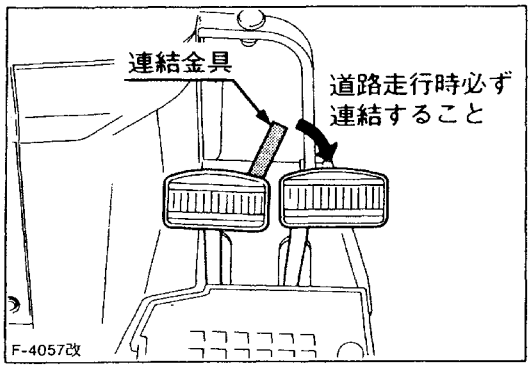
(1)公道走行中進路方向を変えるときは，方向指示器で進路方向を他の自動車に知らせます。
(2)夜間走行中，対向車とすれちがうときは，ヘッドランプを下向き照射にし，対向車の妨害にならないように注意しましょう。
(3)左右のブレーキペダルは，必ず連結しておいてください。



(4)ロータリなど作業機を装着して公道を走行すると，「道路運送車両法」に違反することもあるので注意しましょう。

安全ポイント

(1)道路を走行するときは，必ず左右のブレーキペダルを連結してください。
▶もし怠ると……
ブレーキが片ぎきになり，車体が急旋回して，転倒・転落・衝突などの傷害事故を引起すことがあります。



(2)道路を走行するときは，関係法規を守り安全運転を心がけましょう。
▶もし怠ると……
交通事故を引起すことがあります。
(3)運転者のほかは乗せないようにしましょう。
→ 納入品安全説明書 4 ページ参照
▶もし怠ると……
傷害事故を引起すことがあります。
(4)溝のある農道や両側が傾斜している農道を通るときは，特に路肩に注意しましょう。
→ 納入品安全説明書 6 ページ参照
▶もし怠ると……
転落による傷害事故を引起すことがあります。
(5)ロータリなど作業機を装着して道路を走行すると，トラクタの前部が軽くなって，ハンドルの切れが悪くなり危険です。
→ 納入品安全説明書 4 ページ参照
(6)踏切を渡る場合は必ず一旦停止し，列車通過の有無を確認の上，速かに渡ってください。

ロータリ装置について

安全ポイント

●ロータリの取付け・取外しは,平たんな場所を選び,トラクタとロータリの間に立たないようにしましょう。

▶もし怠ると……

傷害事故を引起すことがあります。

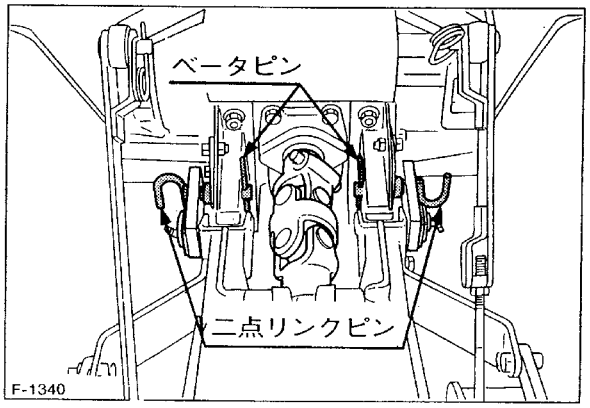
ロータリ装置の取外し・取付け【標準仕様】

■取外し方

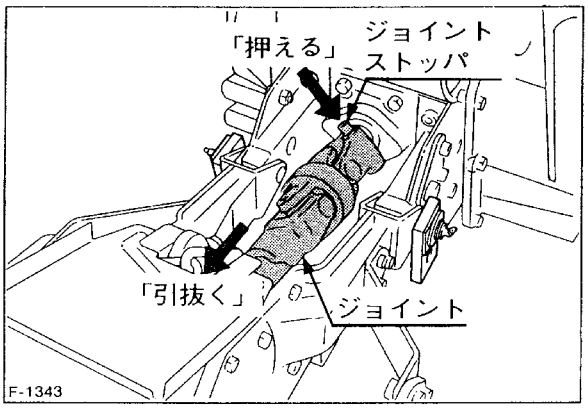
❶コントロールレバーでロータリ部を耕うん爪の先端が，地上から約10cmの位置になるまで降ろします。

❷エンジンを停止します。

❸ベータピンを抜き，二点リンクピンを抜きます。



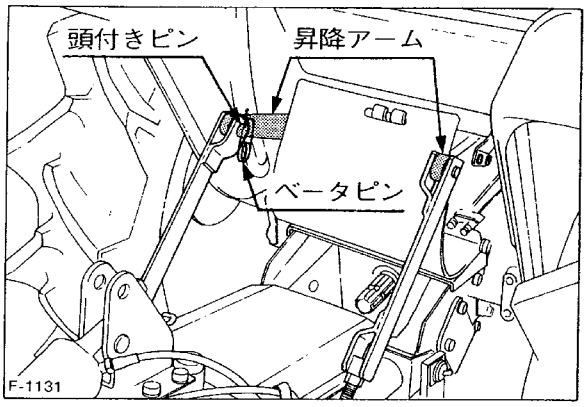
❹ジョイントストッパを押え，ロータリ側へジョイントを引抜きます。



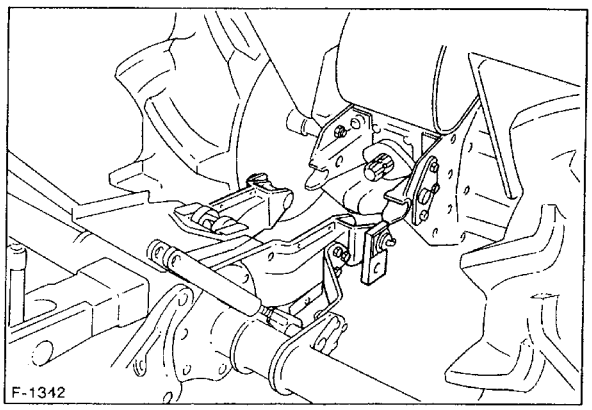
注意

●ジョイントを引抜いた状態では，ジョイントはロータリ側の軸に差込まれたままになりますが，ロータリを下向きにすると脱落するので，紛失しないよう注意してください。

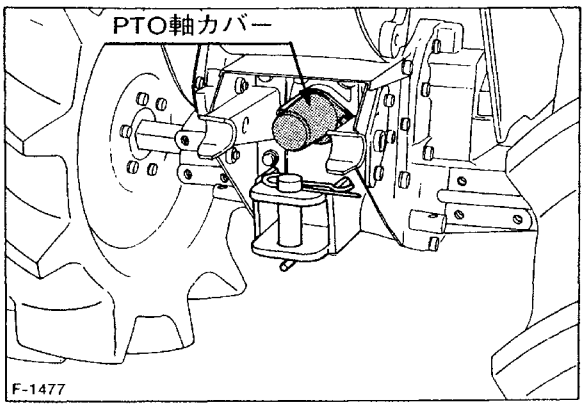
❺ロータリ装置をコントロールレバーで接地させ，昇降アーム左右のベータピンと頭付きピンを抜きます。



❻ロータリ装置の耕うんカバーを持って，静かに後方に引張ると，ロータリ装置が外れます。



❼ロータリ装置を外した後は，PTO軸にカバーを取付けてください。
（PTO軸カバーは出荷部品箱に入っています。）

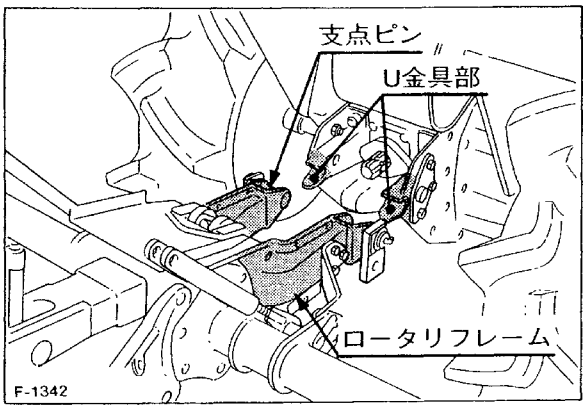


■取付け方

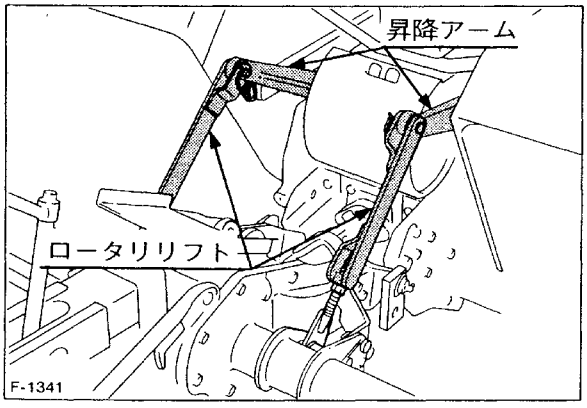
路面の平らな場所を選び，取外しと逆の方法で行なえますが，油圧を利用して簡単に取付けることもできます。

❶ロータリ装置の取付け部が，トラクタの取付け部と接触するまで，トラクタを後進させます。

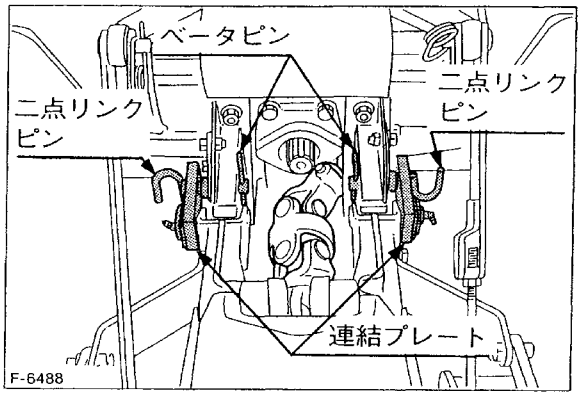
❷２点リンクブラケットのU金具部に，ロータリフレームの支点ピンを合せます。



❸コントロールレバーで，昇降アームをいっぱい下げ，左右の昇降アームとロータリリフトを，頭付ピンとベータピンで連結します。



❹連結が終ると，コントロールレバーで，ロータリ部を約10cm位吊上げてエンジンを停止し，連結プレートを連結ピン穴に合せ，二点リンクピンを差込み，ベータピンで止めます。

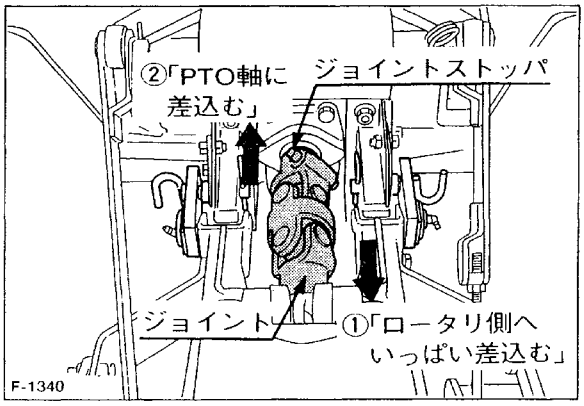


❺ロータリ側へジョイントをいっぱい差込み，ジョイントストッパを押え，PTO軸にセットします。

注意

(1)ジョイントストッパが作動しにくいときは，注油すると軽く動きます。

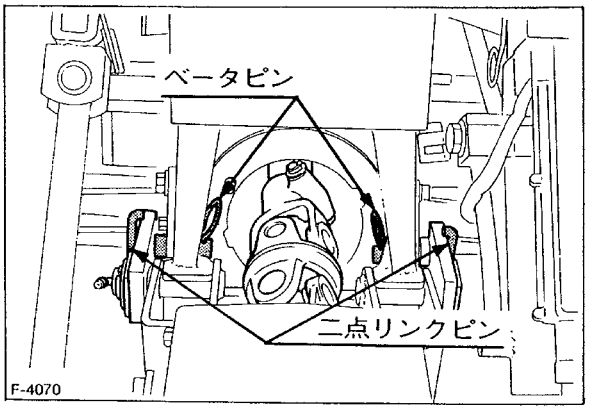
(2)ジョイントストッパが，確実に軸のみぞにはまり込んでいるか確認してください。



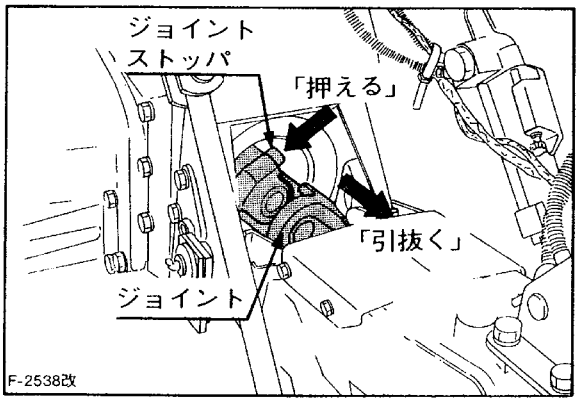
ロータリ装置の取外し・取付け【M仕様】

❶ロータリ装置をコントロールレバーで接地させ，エンジンを停止します。

❷ベータピンを抜き，二点リンクピンを抜きます。



❸ジョイントストッパを押え，ロータリ側へジョイントを引抜きます。



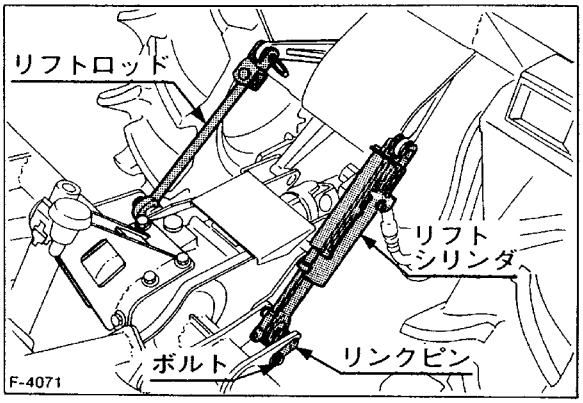
注意

●ジョイントを引抜いた状態では，ジョイントはロータリ側の軸に差込まれたままになりますが，ロータリを下向きにすると脱落するので，紛失しないよう注意してください。

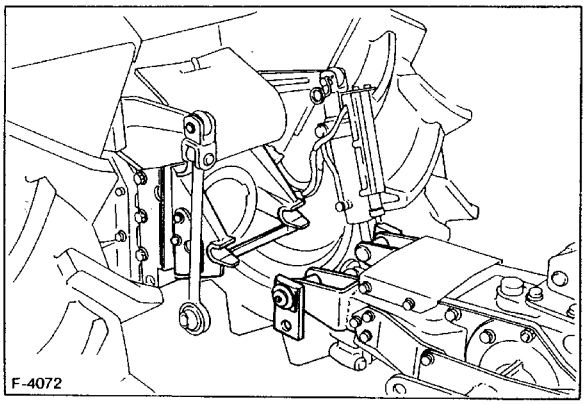
❹ボルトを外し，リンクピンを抜いて，ロータリからリフトロッド及びリフトシリンダを外します。

注意

●リンクピンを抜くと，カラーが脱落しますので，紛失しないよう注意してください。

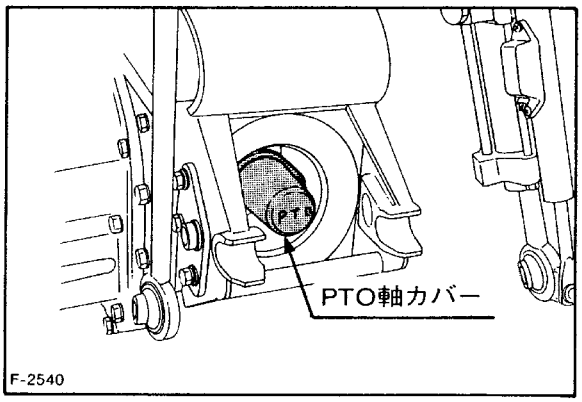


❺ロータリ装置の耕うんカバーを持って，静かに後方に引張ると，ロータリ装置が外れます。



❻ロータリ装置を外した後は，PTO軸にカバーを取付けてください。

（PTO軸カバーは出荷部品箱に入っています。）

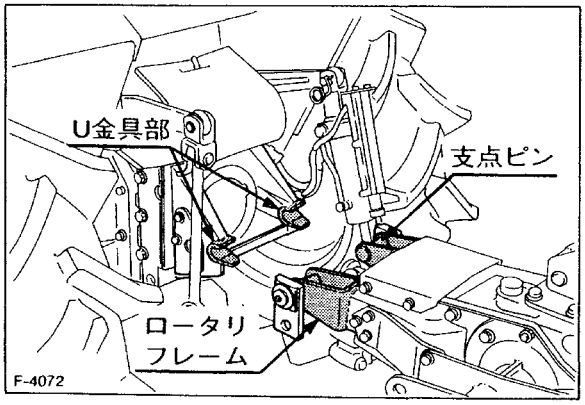


■取付け方

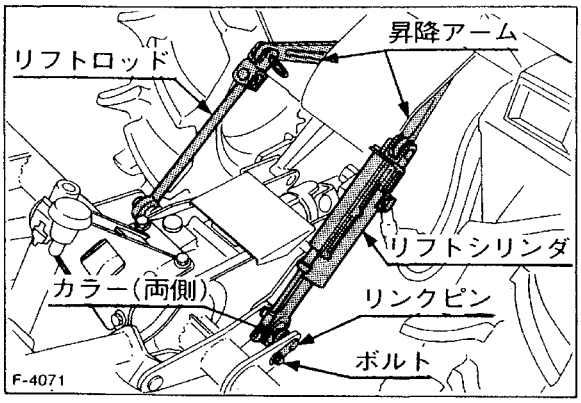
路面の平らな場所を選び，取外しと逆の方法で行なえますが，油圧を利用して簡単に取付けることもできます。

❶ロータリ装置の取付け部が，トラクタの取付け部と接触するまで，トラクタを後進させます。

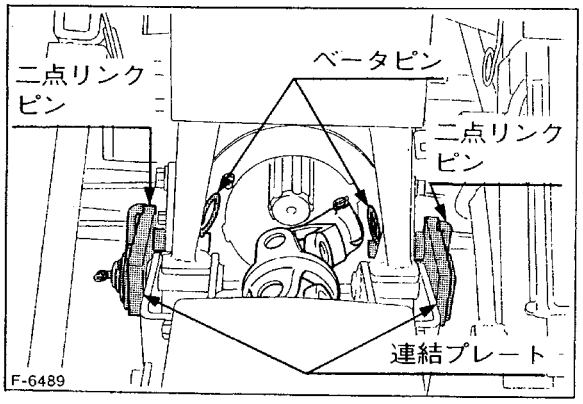
❷2点リンクブラケットのU金具部に，ロータリフレームの支点ピンを合せます。



❸コントロールレバーで，昇降アームをいっぱい下げ，リフトロッド及びリフトシリンダをリンクピン(カラーも入れる)でロータリに止め，ボルトを締付けます。



❹連結が終ると，コントロールレバーで，ロータリ部を約10cm位吊上げてエンジンを停止し，連結プレートを連結ピン穴に合せ，二点リンクピンを差込み，ベータピンで止めます。

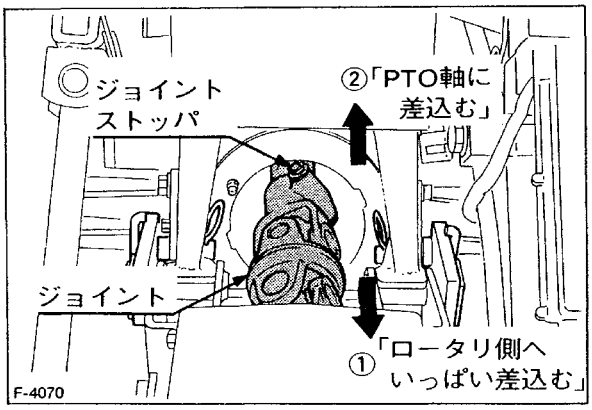


❺ロータリ側へジョイントをいっぱい差込み，ジョイントストッパを押え，PTO軸にセットします。

注意

(1)ジョイントストッパが作動しにくいときは，注油すると軽く動きます。

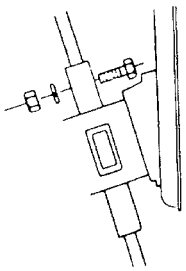
(2)ジョイントストッパが，確実に軸のみぞにはまり込んでいるか確認してください。



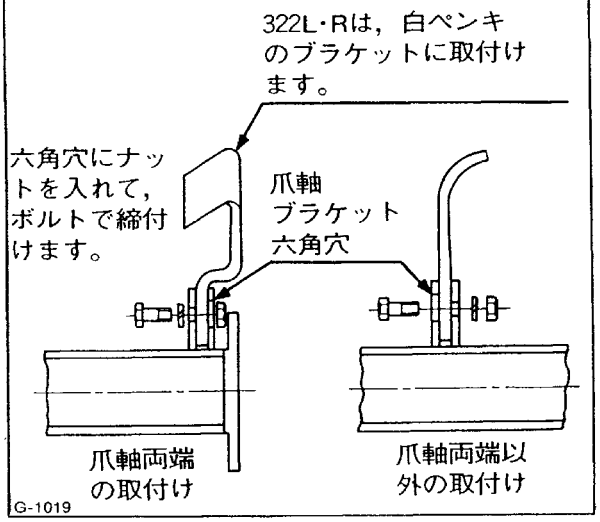
耕うん爪の取付け方

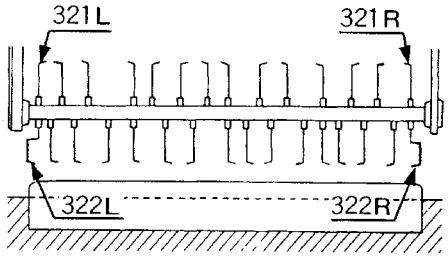
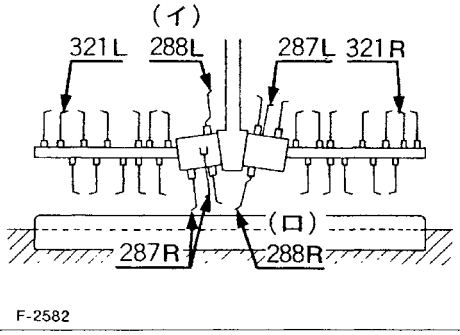
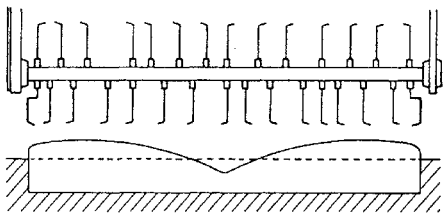
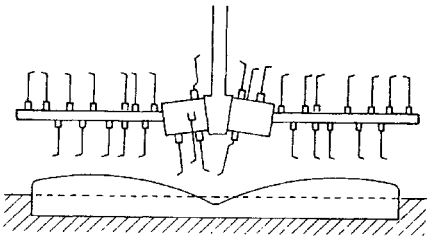
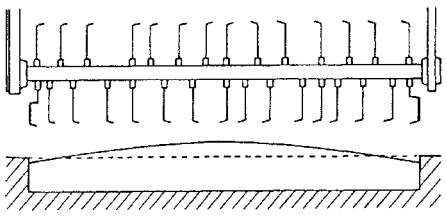
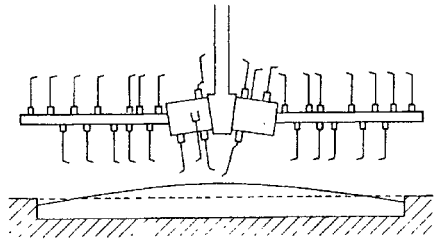
■なた爪の取付け方

【センタドライブ仕様】
チェーンケース寄りの傾斜爪軸ブラケット左右それぞれ3個に，爪取付けボルトを取付けるときは，ブラケットが真上になったときに，図のように内から外向きに取付けます。



【サイドドライブ仕様】

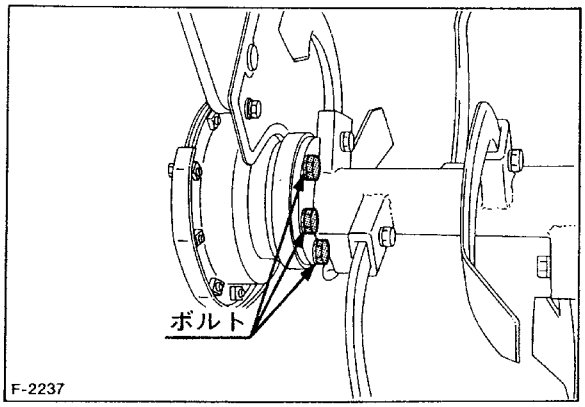


耕うん方法 ＼ ロータリ装置	サイドドライブ仕様 RS1204 (M)	センタドライブ仕様 RK1204 (M)
均平耕うんの場合		 F-2582
平面耕うん，畝立て，畝くずしの場合		
内盛り耕うんの場合	 F-1780改	 F-1535改

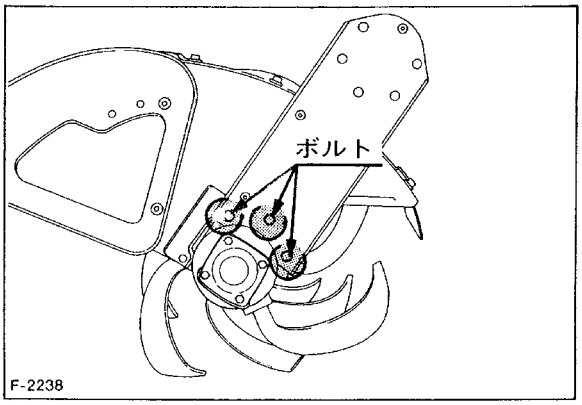
爪軸コンプの着脱方法【サイドドライブ仕様】

◆取外し方

❶爪軸のロータリケース側(左側)のボルトを外します。



❷爪軸ホルダとサイドフレームを結合しているボルト３本を取外します。



❸右端の爪軸ホルダを180°回転します。

❹爪軸を回転し，耕うん爪がサイドフレームに接触しない位置をさがします。

❺爪軸を右側に移動させると外れます。

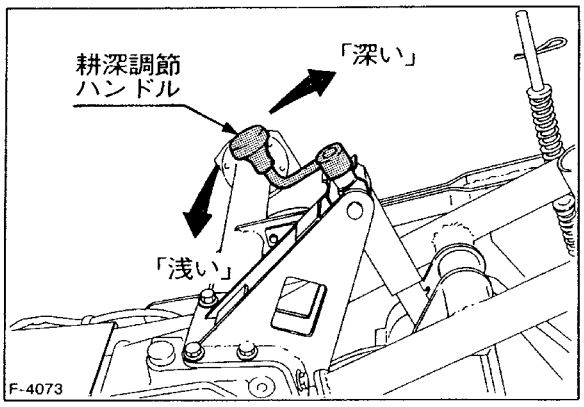
◆取付け方

取付けは上記の逆の順序で行なってください。

後２輪装置の取扱い

■耕深の調節

各種作業の耕うん深さは，耕深調節ハンドル(レバー)で行なってください。



安全ポイント

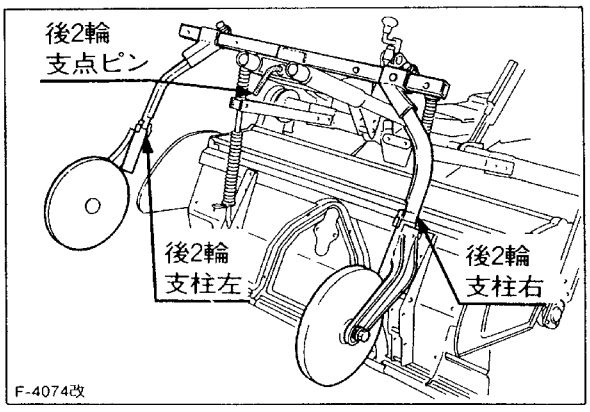
- 耕深調節は，トラクタを前進させながら機体側方からの調節は絶対さけてください。
  ▶もし行なうと……
  傷害事故を引起すことがあります。

■後２輪支点ピンでの調節

後２輪装置は，乾田・湿田別によって，ピンの差換えで取付け高さが変えられます。

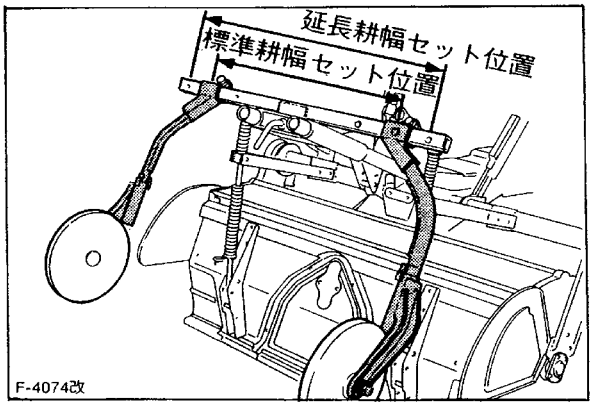
湿田耕うんの場合はフレームの下側に取付け，乾田耕うんの場合は上側に取付けてください。

下側に取付けるときは，後２輪支柱左・右も取付けを変更してください。



■耕うん幅による調節

耕うん幅に応じて，後２輪の間隔を調節できます。



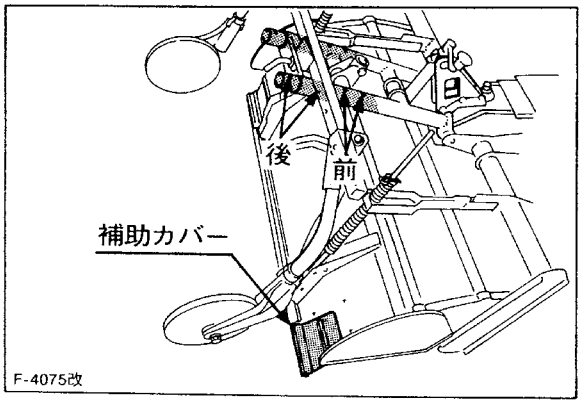
■後２輪位置の調節

後２輪は作業別によって、後２輪支えホルダを動かして前後に調節できます。

一般耕うん・整地作業の場合は後側に取付け，マルチ・片培土作業の場合は前側に取付けてください。

注意

- **片培土機を取付けるときは，右側の補助カバーを取外してください。**

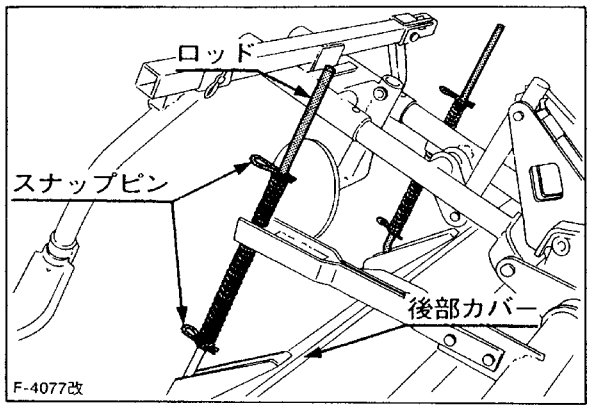


後部カバーの調節

後部カバーでの均平作業は，ロッド下側のスナップピンの差込み穴の位置を換えて，必要な均平圧に調節して御使用ください。

上の穴にすれば均平圧は強くなり，下の穴にすれば弱くなります。

ロッド上側のスナップピンで，ロッドの長さを調節してください。



ロータリ耕うん法

■隣接耕うん法

耕作地の条件が良い場合は，隣接耕うんが能率的で作業も簡単です。

❶前輪タイヤ・後輪タイヤは最小幅にします。

❷速度は１～２速で爪回転を１～３段にして，図のような要領で耕うんを始めます。

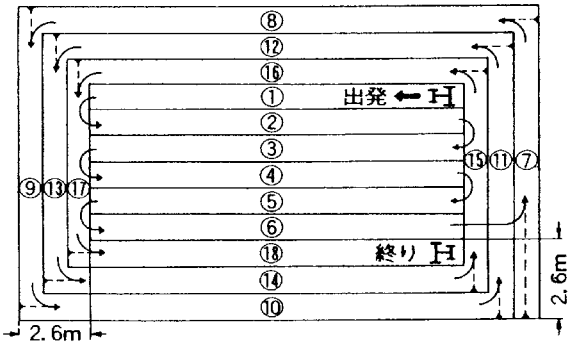
❸耕作地の周囲を約2.6m残して，直進耕うん後３回の回り耕を行ないます。

❹耕うん順序は隣り合せに進め，前・後輪タイヤがいちど耕うんした所に落ちないように，気をつけながら運転します。

❺サイドドライブロータリ(RS形)は，サイドフレーム側があぜぎわになるようにして，あぜぎわ耕うんを行ないます。

◆隣接耕うんの順序

←進行方向 ←……いったんバック



G-1008

(1)図の長方形部分１枚が，直進１回で耕うんされる耕作地を示します。

(2)図のような順序をとるのは，いちど耕うんした所を後輪タイヤで踏まないための，最善の方法です。

(3)したがって出発点は，トラクタが最後に外へ出る場所によって決まります。

(4)直進が終って，つぎの直進に移るまでは，ロータリを必ず上げて旋回します。

■一畝おき耕うん法

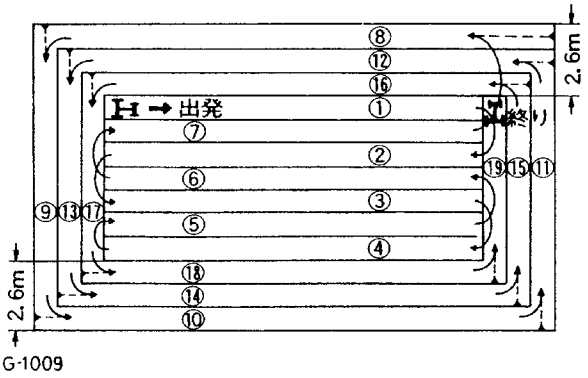
この方法は，従来の耕うん機と同じ要領で，取扱いも簡単なため，よく用いられます。

❶耕作地の周囲を約2.6m開けて耕うんを始めます。

❷最初直進して一畝おきに耕起した後，残りを耕起し，最後に回り耕３回で仕上げます。

❸一畝おきに残す幅は，タイヤの内側面より幾分少ない方が，残耕を少なくし美しく仕上がります。又前輪は，後輪の中心線上又は外側に合すように調節すれば，作業が楽です。

◆一畝置き耕うんの順序

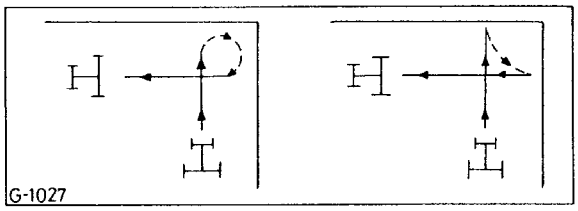


G-1009

(1)一畝おき耕うんは，小回りのむずかしい場合用いる方法です。その他は隣接耕うんと同じです。

(2)図では，バックによる方向転換を示していますが，回転して方向を変えることもできます。

■トラクタの方向転換



G-1027

ロータリ畝立て作業

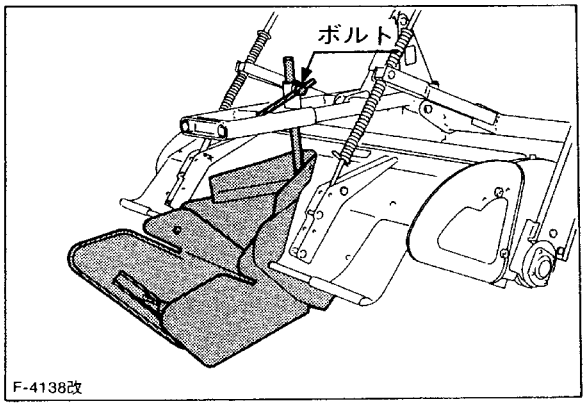
■畝立て器の取付け

畝立て器は，取付けブラケット穴に下から差込み，作業状態に応じて取付け高さを変えて，ボルトで取付けてください。(畝立て器とボルトはオプションアタッチメント部品)
後部カバーとの組合せに二つの方法があります。

◆後部カバーのVカットを使用する場合

畝の上面が平らに成形されるので植付け畝として使用できます。

❶爪の配列は外向きにします。
❷後２輪は取外します。
❸畝立てカバーを取外します。
❹後部カバーのVカット形状に畝立て器を添わせて取付けてください。

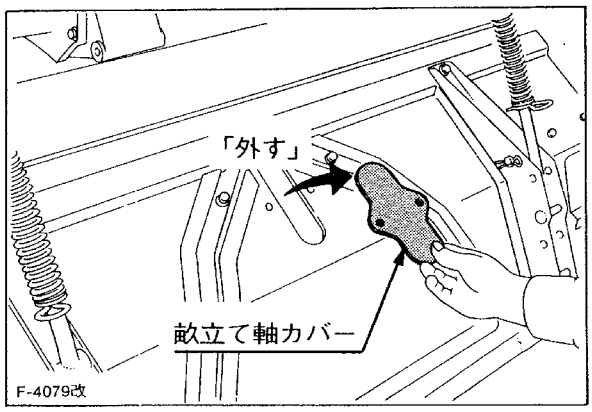


❺後部カバー押えバネをフリーにするか又は少し縮めて，後部カバーを軽く地面に接触させてください。

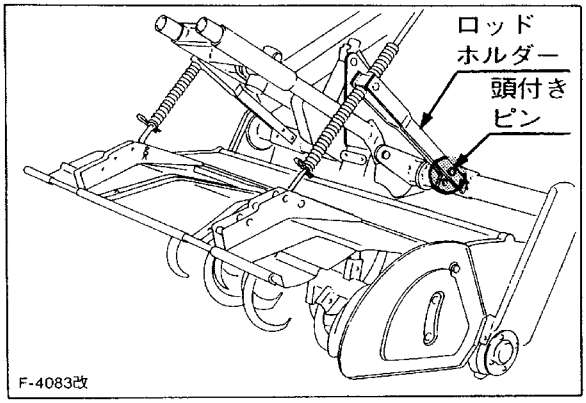
◆後部カバーの下側から取付ける場合

排水用畝などを立てるときに簡便です。

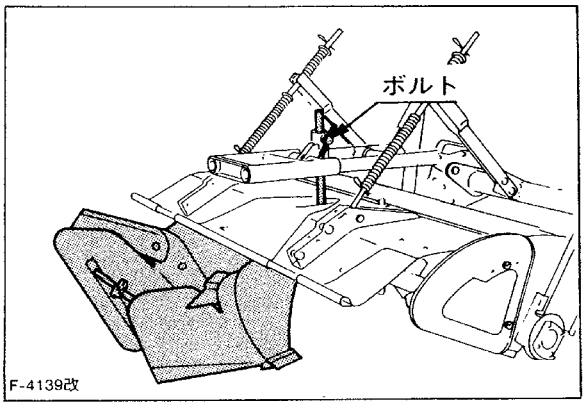
❶爪の配列は外向きにします。
❷後２輪は取外します。
❸後部カバーの畝立て軸カバーを取外して、紛失しないように工具箱に入れておきます。



❹ロッドホルダの前部頭付きピン(1本)を抜き，ロッドホルダを後上りに取付けて，後部カバーが上に持上げられるようにします。



❺後部カバーの下側から畝立て器を取付けます。



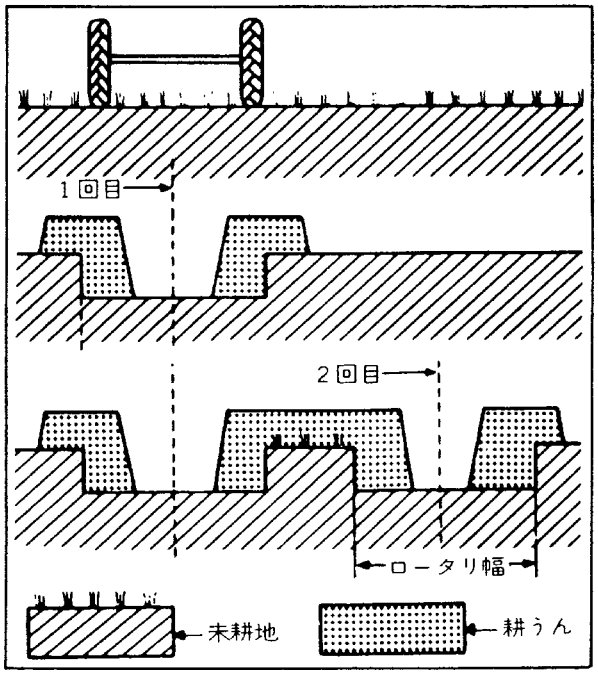
■作業方法

◆有心畝立て法(一畝おき畝立て法)

この方法は最も能率的ですが，一畝おき全面耕うん畝立て法と同じく，耕うん幅によって畝幅が制限されます。

❶畝立て器を取付けて，

❷一畝おき耕うんをします。



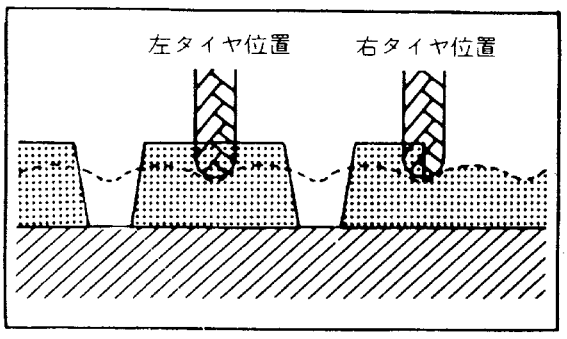
◆全面耕うん後の畝立て法

この方法は，畝幅を自由に選ぶことができ，土塊が均一で細い畝もできます。

❶まず，ロータリで全面耕うんを行なってから，

❷畝立て器を取付けて，畝立て作業をします。

この場合は，畝立てをするほ場全部を荒起しした後，爪を外向きに付け直してから，畝立て作業を行なうと美しく仕上がります。

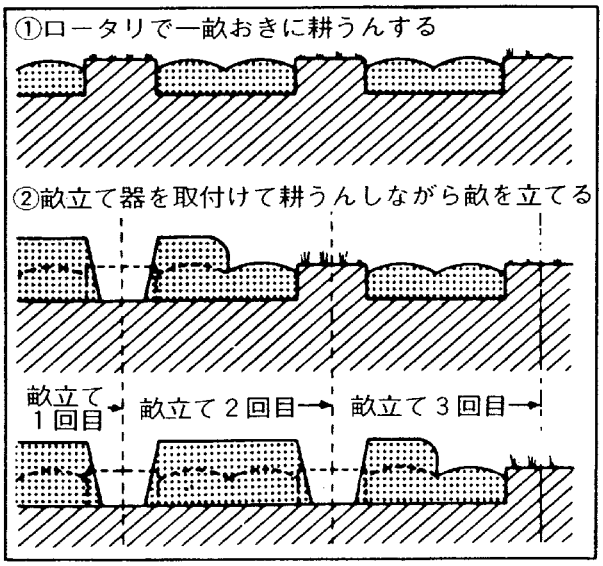


◆無心畝立て法
(一畝おき全面耕うん畝立て法)

この方法は，全面耕うん後の畝立て法に比べて能率的です。しかし，耕うん幅によって畝幅が制限されます。

❶まず，畝幅を決めると，一畝おきに耕うんします。

❷畝立て器を取付けて，残しておいた部分を耕うんしながら，畝立て作業をします。



以上はほんの一例です。地方によって条件が異なりますから，土地条件に合った方法をお考えください。

注意

- 耕うん状態のままで，無理にハンドルを切って旋回すると，爪を曲げたり，後2輪やチェーンケースを破損する原因になりますから注意してください。

安全ポイント

→ 納入品安全説明書12ページ参照

- 爪の交換・爪取付けボルトの点検などは，安全のため，必ずエンジンを止め，落下調整グリップを締込み油圧をロックして，ロータリの落下を防止してから，作業を始めてください。

農場での取扱いの注意

農場で作業を行なう場合は，作物・耕地の形状・水田・湿田・畑などによって作業方法が異なります。トラクタの性能を充分に発揮させるために，農場に応じた作業方法を研究して，能率よく作業を行なってください。

(1)作業機を後部に装着すると，前輪にかかる重量が変わり，前輪が浮き上がりやすくなります。クラッチを入れる場合は，クラッチペダルから足を静かに離すようにしてください。

(2)**農場への出入りは，つぎの事項に注意してください。**

- あぜから農場に降りる場合，高低差が大きいとロータリー部があぜにつかえ，ロータリー部を損傷するだけでなく，後輪が浮いて動けなくなりますから，アユミ板を使用するか，あぜの傾斜を小さくしてください。
- 農場からあぜ道に上がる場合は，アユミ板を使用してください。
- あぜの登り始めは，ロータリの爪回転を止めて下に下げ，前進すると前輪の浮き上がりが少なくてすみます。あぜ道に上がると同時にロータリ部を上げてください。
- 代かき作業などでタイヤがぬれていると，ちょっとした傾斜地でも，スリップすることがあります。このような場合には，できるだけアユミ板を御使用ください。
- 農場の出入りぐらいと簡単に考えず，事前に農場ごとに出入り用のあぜ道などの対策を立てておきましょう。

安全ポイント

(1)ブレーキペダルの左右の連結を，必ず確認してください。
(2)あぜ道と農場への出入りは，斜めに登り降りせず，直角に行なってください。
(3)D仕様は，あぜを上がるとき，4輪駆動の特色を生かして，バックで上がると格段に上がる能力が増します。

(3)農場に入って作業を行なう場合は，旋回性を高めるため，ブレーキペダルの連結金具を外し，左右のブレーキが別々に使用できる状態にしてください。

(4)落下調整グリップによって，落下速度を調節してください。(11ページ参照)
ロータリ耕うんではゆっくりと落下させ，プラウなどでは早く落下させるようにしてください。

(5)あぜぎわで旋回する場合，コントロールレバーで作業機を上げ，ステアリングハンドルを切ると共に，旋回側のブレーキペダルを踏むと，小回り旋回が行なえます。

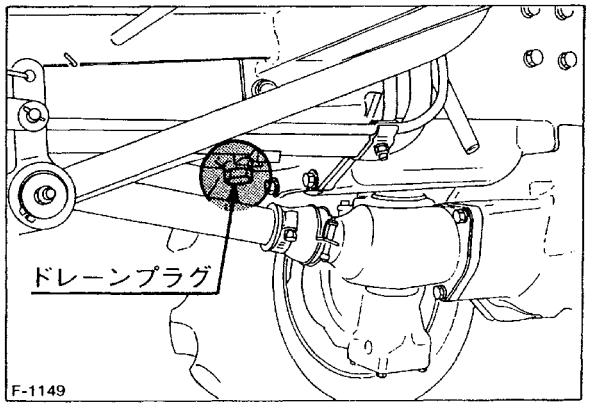
安全ポイント

●あぜぎわで旋回するときは，必ず速度を下げてください。
高速で急旋回をすると大変危険です。
▶もし怠ると……
傷害事故を引起すことがあります。

(6)作業別によって，走行速度が異なります。作業目的と条件に合せてお決めください。

(7)軟弱地や重けん引作業においては，左右の車輪の抵抗が不釣合となって，片側のタイヤが空転することがあります。このような場合は，デフロックペダルを踏むと，空転を防ぎ，けん引力が出ます。

(8)湿田耕起が代かき作業でフレームまで水につかったようなときには，クラッチハウジング下部のドレーンプラグを外し，水が中に入ってないか確認してください。



作業前の点検について(仕業点検)

点検箇所

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。仕業点検は毎日欠かさず行なってください。

※印は，次に作業要領が説明してあります。

■点検は次の順序で実施してください。

(1)前日の異常箇所

(2)トラクタの周りを歩いて

- ランプ類の点灯及び汚れ，損傷
- ナンバプレートの汚れ，損傷
- タイヤの空気圧，き裂，損傷，摩耗……※1
- タイヤなどの足回りのボルトやナットのゆるみ
- 反射器の汚れ，損傷
- ミッションオイルの量及び汚れ……※2
- 冷却水，オイル漏れ，燃料漏れの点検
- PTO軸カバーの取付け
- 燃料フィルタの水，沈殿物の点検
- 後2輪支点ピンの注油……※3

(3)ボンネットを開けて

- エンジンオイルの量及び汚れ……※4
- 冷却水の量，ラジエータキャップのしまり※5
- エアークリーナのホコリの詰まり……※6
- ファンベルトの張り具合，損傷……※7
- バッテリ液の量……※8
- バッテリ，配線，マフラ部の清掃……※16
- 防虫網の清掃

(4)ロータリの周りを歩いて

- 耕うん爪及び爪軸取付けボルトのゆるみ
- ロータリケースのオイル量
  【サイドライブ仕様】……※9
  【センタドライブ仕様】……※10
- ロータリ各部のボルト・ナットのゆるみ
- ユニバーサルジョイントのロックピンのロック状態の確認……※11

(5)運転席に座って

- 燃料計の作動
- 燃料は充分か，燃料キャップの締付け
- イージーチェッカの点滅具合
- トラクタメータの作動
- ウインカランプの点滅
- ホーンの作動
- バックミラーの写影
- ヘッドランプの作動
- コントロールレバーによる油圧昇降及び作業機取付けピンの脱落
- ブレーキペダルの遊び……※12
- クラッチペダルの遊び……※13
- ハンドルの遊び・ガタ……※14

(6)エンジンを始動して徐行しながら

- 排気ガスの色，異常音の点検……※15
- ブレーキの効き，片効き
- ハンドルの重さ，振れ，取られ
- 駐車ブレーキの作動

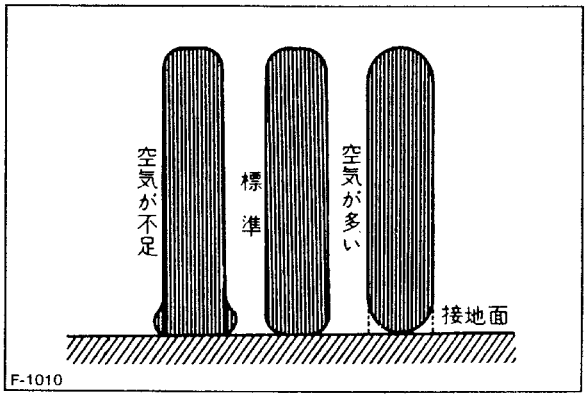
点検のしかた

1 タイヤの空気圧

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。外観から判断する目安は下図のとおりです。

◆標準空気圧

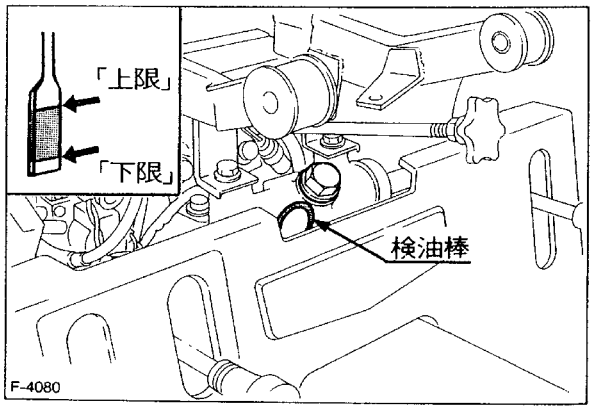
	空気圧（kg/cm²）
前　輪	1.2
後　輪	1.6



2 ミッションオイルの量

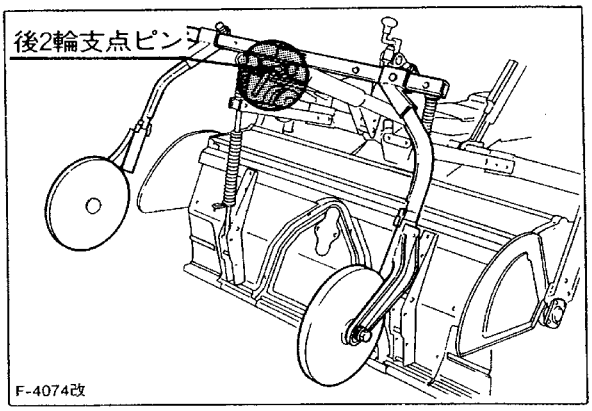
❶検油棒を抜いて先端をきれいにふき，差込んでから再び抜き，「刻印の間」にオイルがあるかを調べます。

❷下限の刻印以下の場合は補給が必要ですが，上限以上には入れないでください。（給油は42ページ）



3 後2輪支点ピンの注油

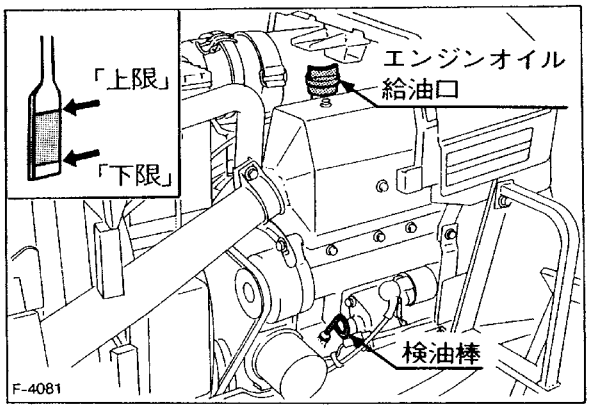
オイル又はグリースを注油してください。



4 エンジンオイルの量

❶検油棒を抜いて先端をきれいにふき，差込んでから再び抜き「下限と上限の間」にオイルがあるかを調べます。

❷下限以下の場合は補給が必要ですが，上限以上は入れないでください。（給油は42ページ）



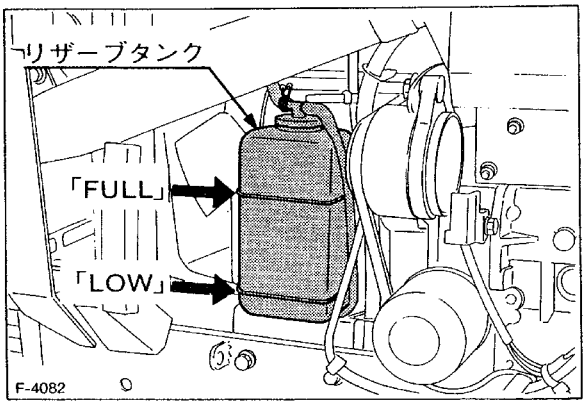
注意

(1)点検するときは，本機を水平な場所に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示さないことがあります。

(2)オイル量はエンジン始動前かエンジンを止めてから約3分以上たってから点検してください。そうでないと，オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量は測れません。

5 冷却水の量

ラジエータには，リザーブタンクが付いており，ラジエータ内の冷却水が少なくなると，リザーブタンクから自動的に補給される構造になっています。
冷却水の量はリザーブタンク内の量を点検してください。「FULLからLOWの範囲」であれば正常です。
(給水は44・45ページ)



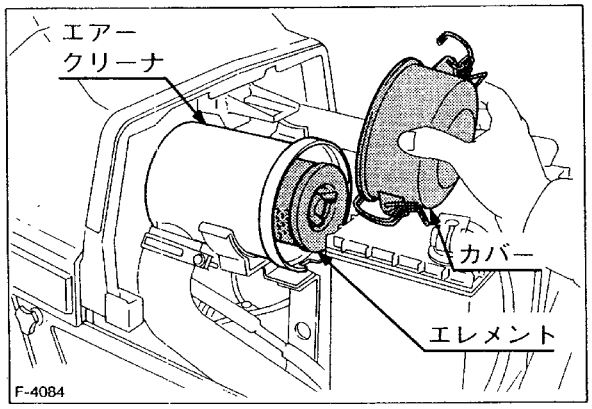
注意

- ラジエータ本体のキャップは，冷却水点検及び交換するとき以外は開けないでください。

6 エアークリーナのホコリの詰まり

エアークリーナは，吸入空気中に含まれているゴミを取る装置で，吸入空気中に砂塵などが含まれているとシリンダライナやピストンリングの摩耗を早め，出力不足になります。

(1)カバー内に「ホコリ」がたまっていないか確認してください。



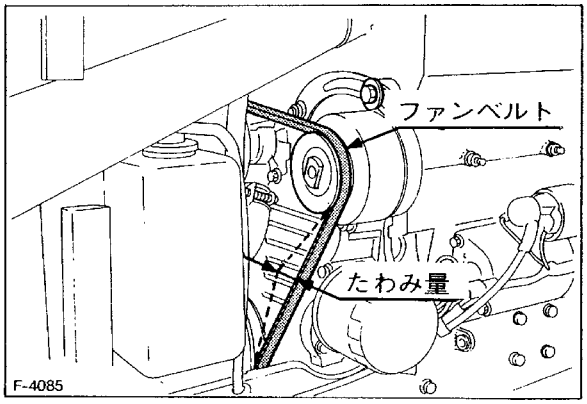
(2)エアークリーナエレメントに「ゴミ」がたまっていないか確認してください。

注意

- エアークリーナカバーの取付けは，カバー裏面の TOP ⇧ が，上向くように取付けてください。組付けを誤ると，カバー内にチリやホコリがたまらず，エレメントに直接付着して，エレメントの寿命を著しく短くします。

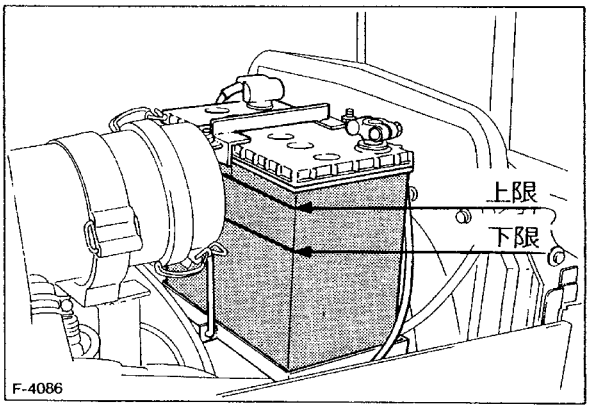
7 ファンベルトの張り具合，損傷

ベルトの調整が悪いと，オーバヒートや充電不足の原因になります。
ベルトの中央部を指先で押えて，たわみ量が「約7mm程度」あるか確認してください。又，き裂やはがれがないかを調べます。(調整は50ページ)



8 バッテリ液の量

バッテリはMFバッテリを使用しておりますので，従来品に比べ，液減りの度合が少なくなっております。側面に2本の線(レベル)がありますので，その間に液面があればよく，少ないときは上側の線(レベル)まで蒸留水を補給してください。(補給は46ページ)



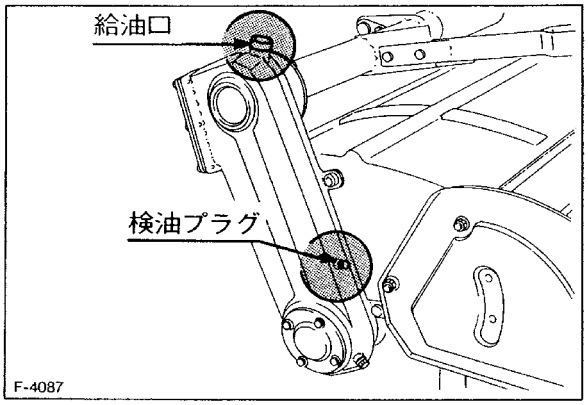
注意

- バッテリに液が不足するとバッテリを傷め，多いと液がこぼれて車体の金属部を腐蝕させます。

9ロータリケースオイルの量【サイドドライブ仕様】

❶耕うん爪が接地するまでロータリ部を降ろし，検油プラグを外してオイルが「流れ出る」か調べます。

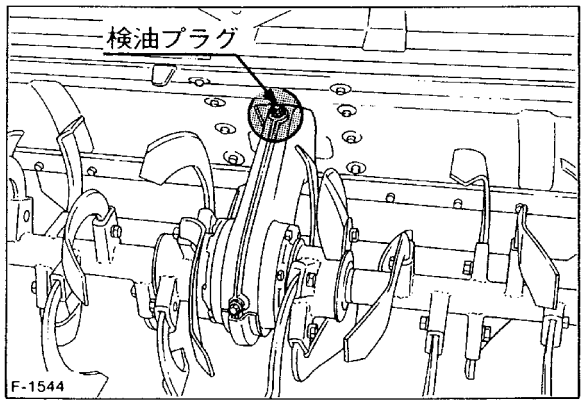
❷流れ出ない場合は補給が必要です。(給油は43ページ)



10ロータリケースオイルの量【センタドライブ仕様】

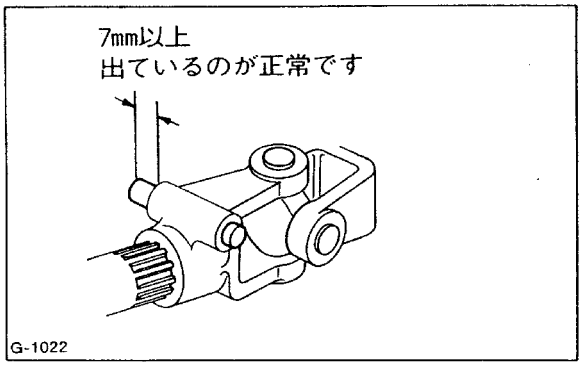
❶耕うん爪が接地するまでロータリ部を降ろし，検油プラグを外してオイルが「流れ出る」か調べます。

❷流れ出ない場合は補給が必要です。(給油は43ページ)



11ユニバーサルジョイントロックピンのロック状態の確認

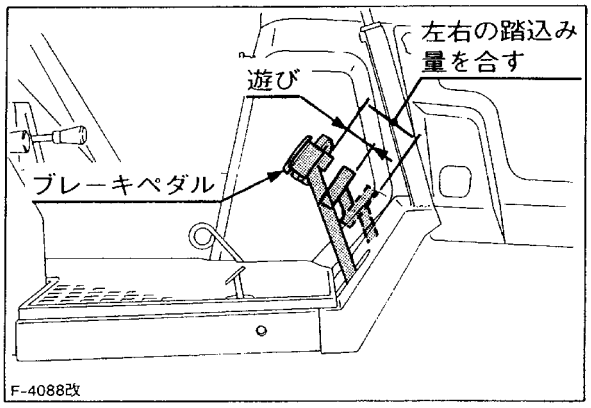
ロックピンが正確にみぞにはまったかどうかの確認は，ピンの頭が「7mm以上」出ているかどうかを調べます。



12ブレーキペダルの遊び

ブレーキの調整が悪いと，人身事故にもつながります。常に作動状態に注意してください。

ペダルを踏んで遊び量を「20～30mm」及び左右ブレーキの踏込み量が不均一になっていないかを調べます。(調整は50ページ)

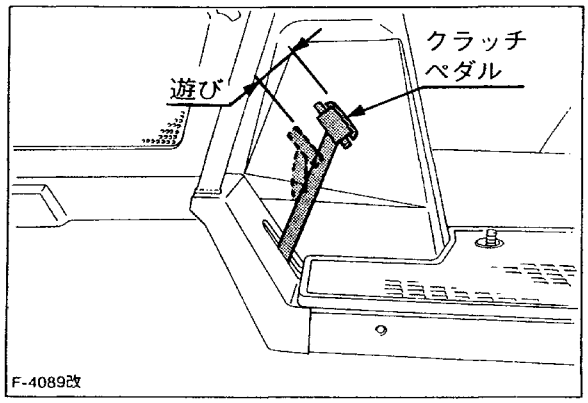


初期なじみにより遊びが大きくなった場合は，適宜調整を行なってください。

13クラッチペダルの遊び

クラッチの調整が悪いと，使用中クラッチのスリップ原因になり，充分に動力を伝えることができません。

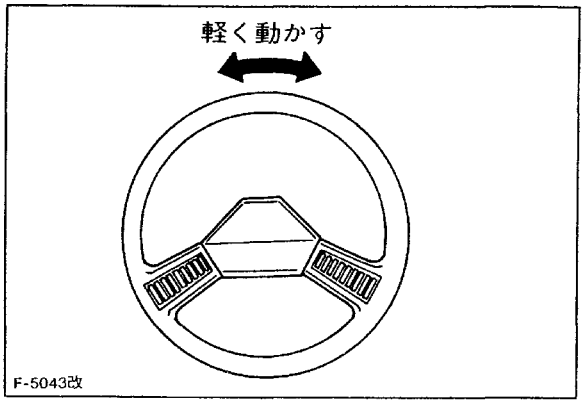
クラッチペダルの遊び量が「20～30mm」あるかを確認してください。(調整は50ページ)



14ハンドルの遊び，ガタ

ハンドルの調整が悪いと，ハンドルが重くなったり，直進性が悪くなったりします。

ハンドルを軽く左右に動かしたときの遊び量が「30mm以下」であるか調べます。(調整は51ページ)



15排気ガスの色

無色……正常

黒色……燃料が濃すぎるための不完全燃焼です。

白色……エンジンオイルが燃えています。ただし，気温の低い場合は水蒸気が白く見えることがあります。

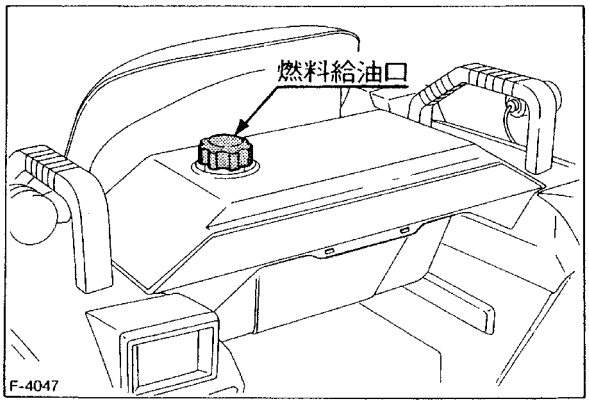
16配線及びエンジン周りの清掃

バッテリ，配線及びマフラやエンジン周辺部にワラくずゴミや燃料の付着などがあると，火災の原因となり危険です。毎日作業前に点検し，きれいに取除いてください。

トラクタの簡単な手入れと処置

燃料について

燃料には，「クボタディーゼル重油又はディーゼル軽油」を使用してください。



注意

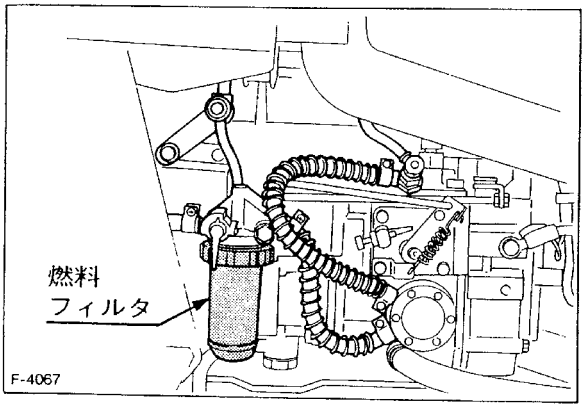
(1)燃料中にゴミや砂が混入していると，燃料噴射ポンプが作動不良になりますので，必ずこし網を通して補給してください。

(2)燃料キャップが締まっているか確認してください。

■燃料フィルタ

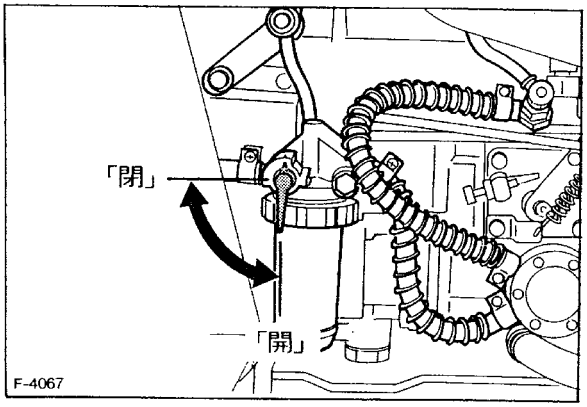
燃料中に含まれる水・ゴミがフィルタ内に沈澱します。水・ゴミがたまったらコックを閉じ，こし器を外し，水・ゴミを取除いてください。

このときは，必ず空気抜きをする必要があります。

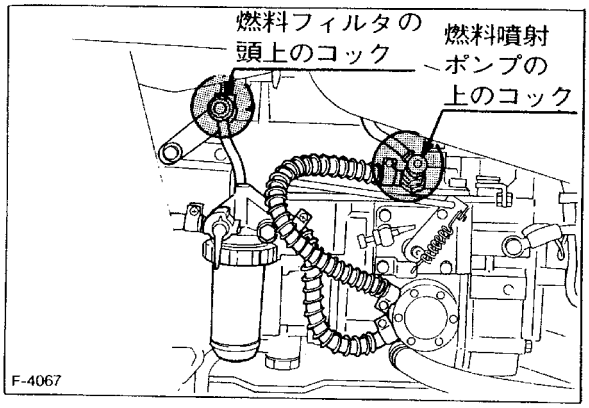


空気抜きのしかた

❶燃料コックを「開」にします。



❷燃料噴射ポンプの上のコック，及び燃料フィルタの頭上のコックを開きます。



❸タンクに燃料を約半分(油面ゲージの中程)まで入れます。

❹燃料フィルタの頭上のコックを閉じます。

❺燃料をタンクが満たんになるまで入れます。

❻エンジンを始動し，約１分間運転後，停止します。

❼燃料噴射ポンプの上のコックを閉じます。

注意

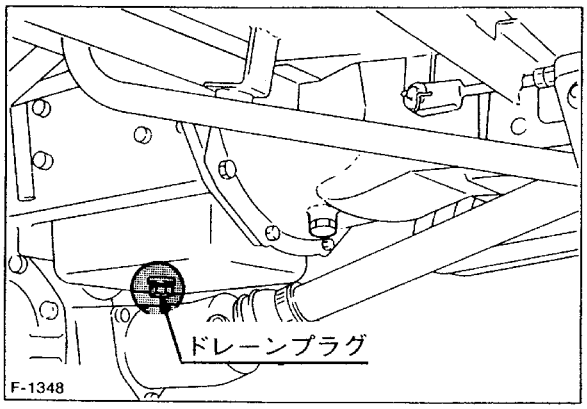
- 空気抜きをするときのほかは，必ず燃料噴射ポンプの上のコック及び燃料フィルタの頭上のコックは閉じておいてください。エンストの原因になります。

各部への給油と交換

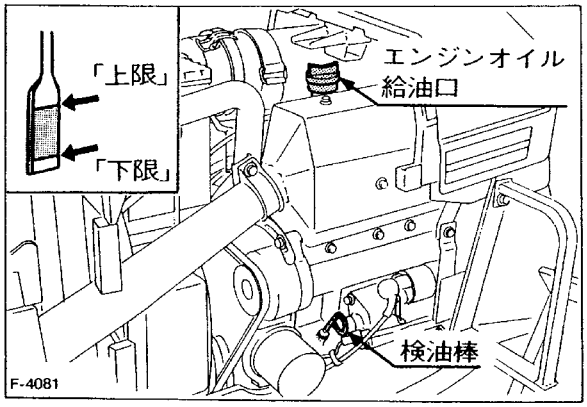
使用するエンジンオイル，ミッションオイル，ギヤーオイルは，必ず「クボタ純オイル」を使用してください。(66ページ参照)

■エンジンオイルの交換

❶ドレーンプラグを外してオイルを出します。

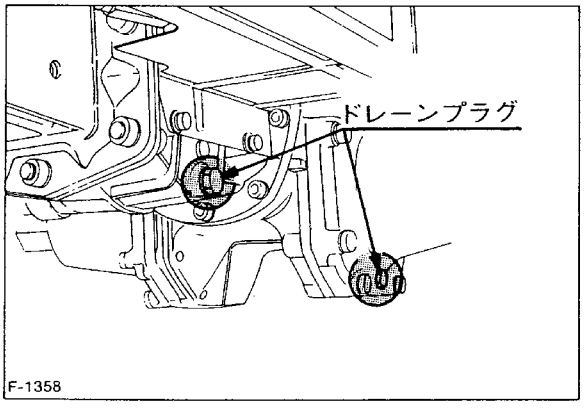


❷エンジンオイルを給油口から，規定量まで入れてください。

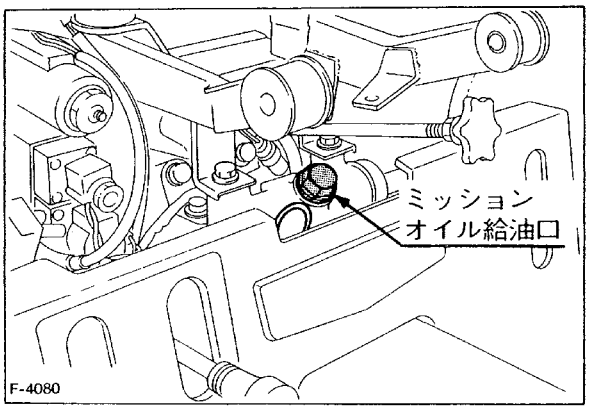


■ミッションオイルの交換

❶ドレーンプラグを外してオイルを出します。

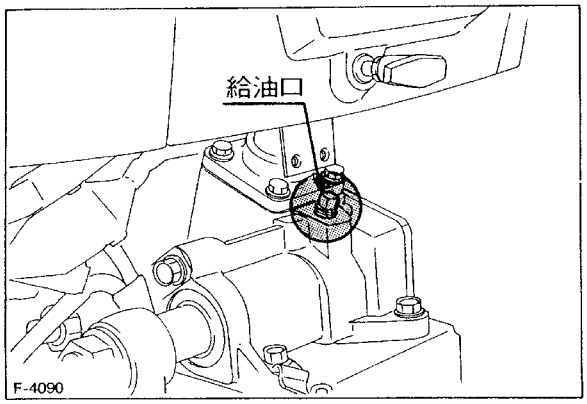


❷ミッションオイルを給油口から，規定量まで入れてください。



■ステアリングギヤーボックスのオイルの補給

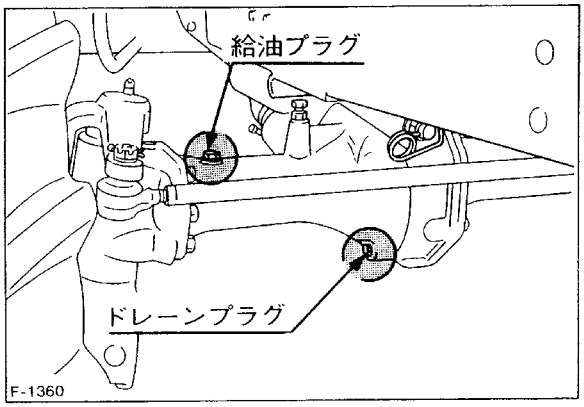
不足している場合は，給油口の下までミッションオイルの補給が必要です。



■前デフギヤーケースのオイルの交換

❶ドレーンプラグを外してオイルを出します。

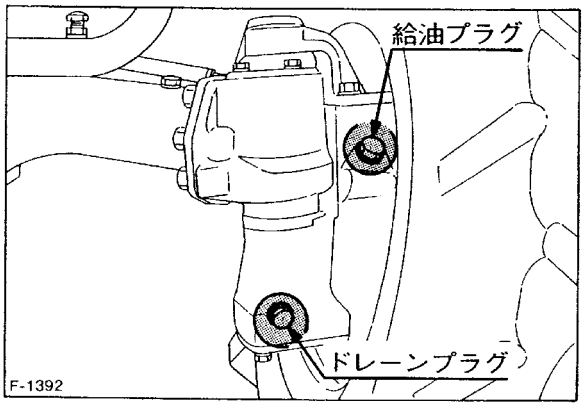
❷新しいオイルを給油口から，規定量まで入れてください。



■前車軸ケース右･左のオイルの交換

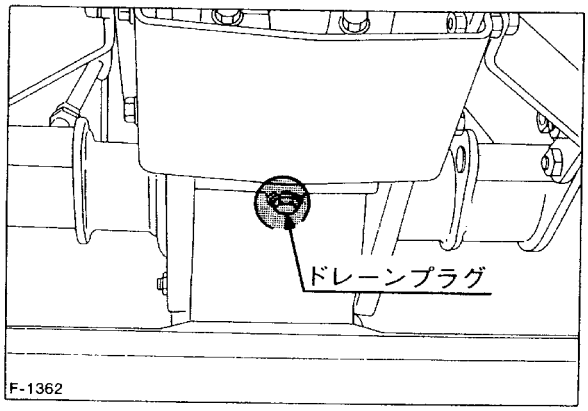
❶左右のドレーンプラグを外してオイルを出します。

❷新しいオイルを左右の給油口から，規定量まで入れてください。

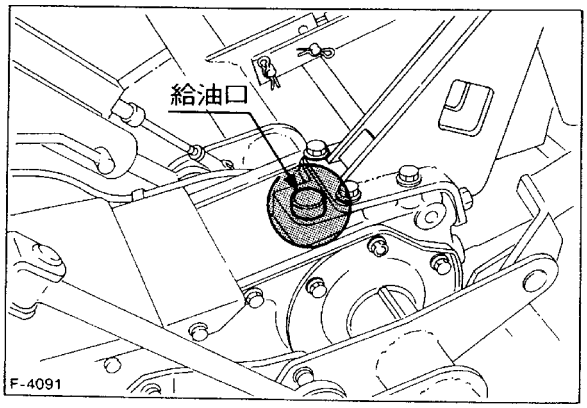


■ベベルギヤーケースのオイルの交換　【サイドドライブ仕様】

❶ロータリ部を上げて，ドレーンプラグを外してオイルを出します。



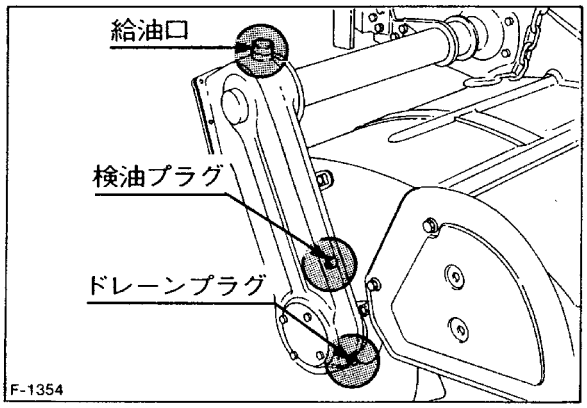
❷耕うん爪が接地するまでロータリ部を降ろし，新しいオイルを給油口から，規定量まで入れてください。



■ロータリケースのオイル交換【サイドドライブ仕様】

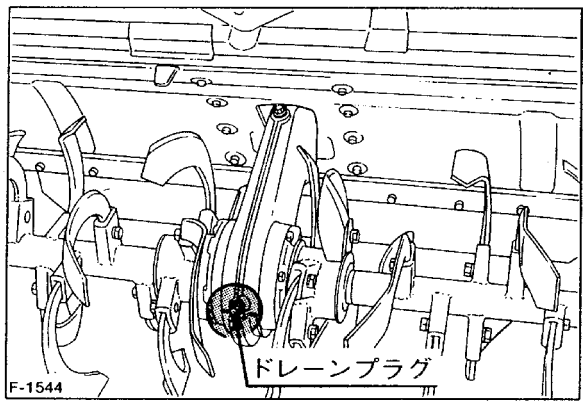
❶ロータリ部を上げて，ドレーンプラグを外してオイルを出します。

❷耕うん爪が接地するまでロータリ部を降ろし，新しいオイルを給油口から，規定量まで入れてください。

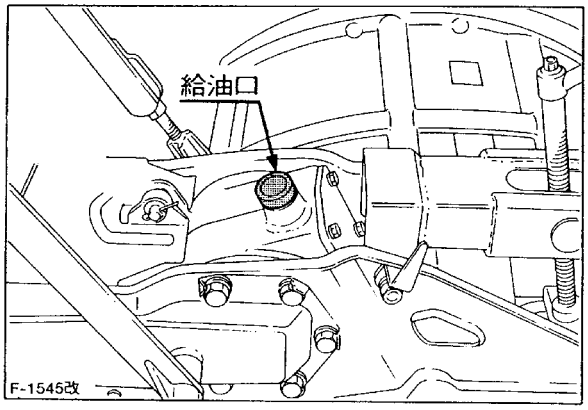


■ロータリケースのオイル交換【センタドライブ仕様】

❶耕うん爪が接地するまでロータリ部を降ろし，ドレーンプラグを外してオイルを出します。



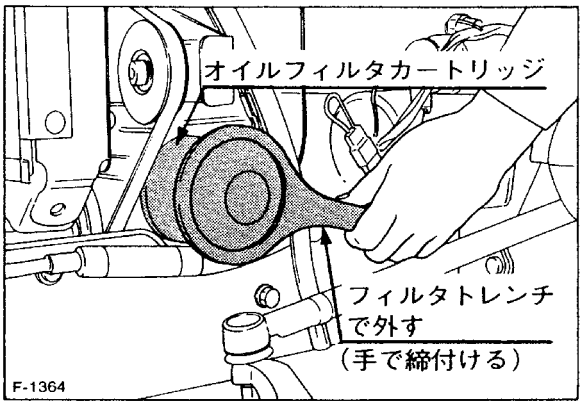
❷新しいオイルを給油口から，規定量まで入れてください。



各フィルタの交換

■エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

❶付属のフィルタレンチで取外します。



❷新しいカートリッジのOリングにオイルを薄く塗布してから，手で確実に締付けます。

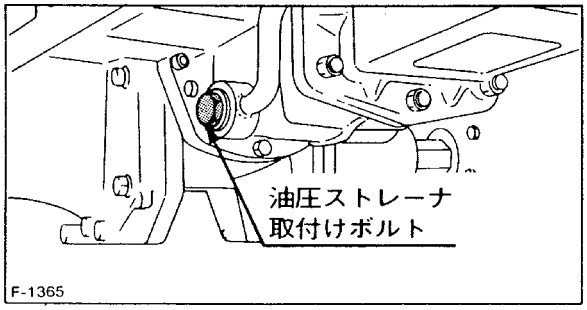
❸エンジンオイルを規定量まで補給します。

❹約５分間運転し，オイルランプの作動に異常がないか確認してからエンジンを止めます。

❺再びオイルゲージで油面を確認し，不足していれば補給する必要があります。

■油圧ストレーナの清掃

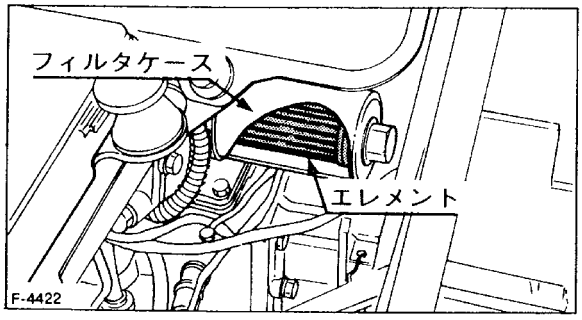
付属のスパナで取外し，洗浄します。



■油圧オイルフィルタエレメントの交換

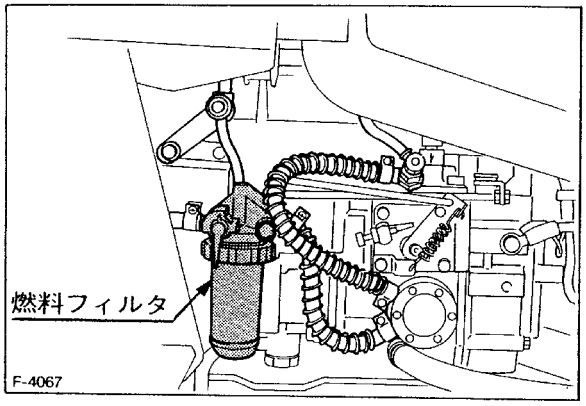
〔M仕様〕

付属のスパナでフィルタケースを取外し，エレメントを交換します。



■燃料フィルタエレメントの交換

❶燃料フィルタのコックを閉じてください。



❷カップ上部のリテーナリングを戻してカップを外し，内部を軽油で洗浄します。

❸新しいフィルタエレメントと交換します。

注意

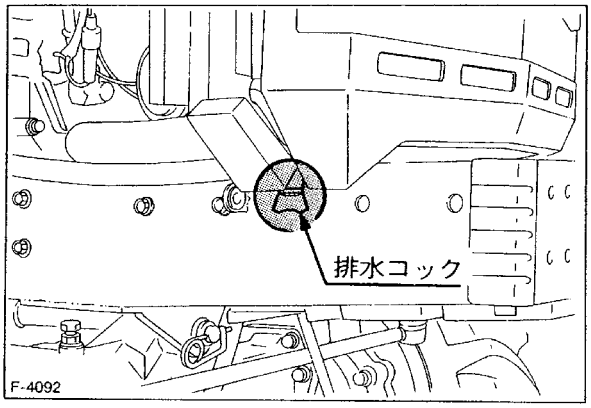
(1)組付けるときは，チリやホコリが付着しないように注意しましょう。

(2)エレメントを交換した後は，必ず空気抜きを行ないましょう。(41ページ参照)

冷却水の交換

■交換のしかた

❶前車軸フレーム右側の排水コックとラジエータキャップを開き，冷却水を全部出します。リザーブタンクの排水は，ラジエータキャップのオーバフローパイプを外し排水します。



❷水道の水でラジエータ内を洗浄し，排水コック，オーバフローパイプを取付けます。

❸ラジエータ及びリザーブタンクに冷却水を給水してください。

❹ラジエータキャップを取付けます。

■冷却水の補給

通常は補給の必要はありませんが，リザーブタンクの冷却水がLOW以下の場合は，「FULLのレベルのすぐ下」まで補給してください。
FULL以上は入れないでください。

安全ポイント

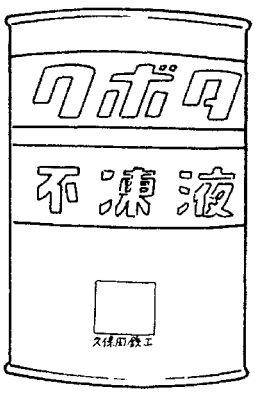
●ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出することがありますので，停止後10分以上たって冷えてからにしてください。
▶もし怠ると……
熱湯によりヤケドすることがあります。

■不凍液の使い方

不凍液は水の凍結温度を下げる効果をもっており，冷却水凍結によるシリンダやラジエータの損傷を防ぎます。
冬期気温が０℃以下になるようなときは，必ずパーマネントタイプ(PT形)の不凍液を清水と混合し，ラジエータ及びリザーブタンクに補給してください。(工場出荷時は，不凍液ロングライフクーラントが入っています。)

注意

(1)不凍液の混合比は，メーカや気温によっても多少異なりますので，メーカの取扱説明書に従ってください。
(2)不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。
不凍液には防錆剤が入っておりますので，保浄液を混入するとスラッジが生成することがあり，エンジン部品に悪影響を与えます。



Z-1007

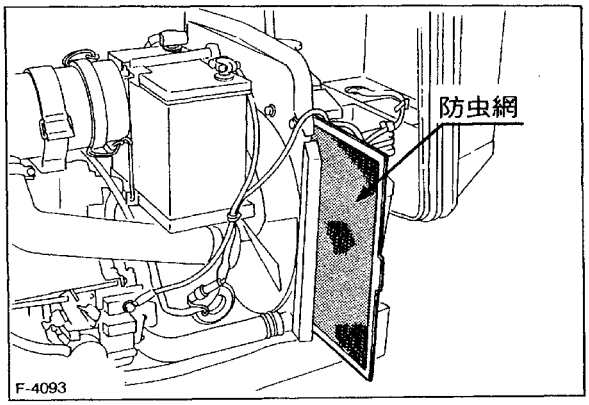
(3)クボタ不凍液の有効使用期間は，２年間です。

■防虫網の清掃

水田や夜間作業に使用すると，防虫網に草の実やこん虫が付着し詰まることがありますので，こんなときは防虫網を清掃してください。

注意

●ワラ灰や枯草ゴミの上での作業には，点検・清掃をこまめに行ない，エンジンがオーバヒートを起さないようにしてください。



F-4093

■ラジエータコアーの清掃

フィンとチューブの間にまでゴミが入った場合は，水道水(圧力水)で流してください。

注意

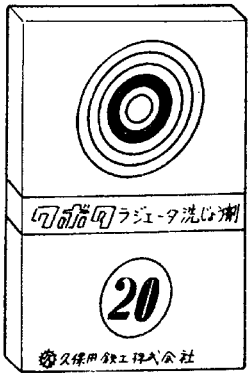
- ヘラやドライバなど固いもので清掃してはいけません。特殊フィンを傷めラジエータの機能をなくす原因になります。

■ラジエータの洗浄

洗浄には，クボタラジエータ洗浄剤No. 20を使用すれば，水アカなどきれいに洗浄できます。

- 500時間使用ごと，
- 不凍液を混入するとき，
- 不凍液混入から水だけに変えるとき，

などに使用してください。



Z-1009

■ラジエータから水もれした場合

(1)少しの水もれの場合は，クボタラジエータセメントNo. 40を使用すれば，止まります。

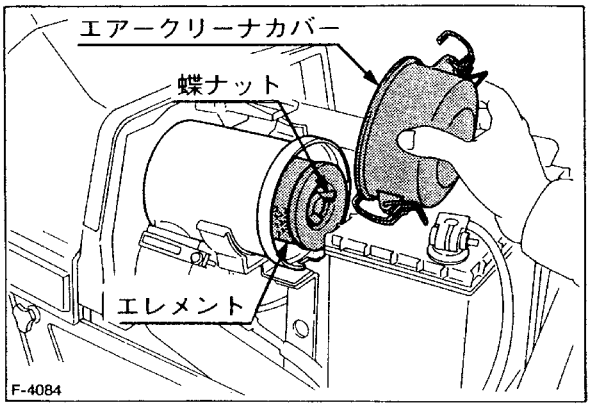
(2)水もれが激しい場合は，お買い上げいただいた販売店・農協に御相談ください。

エアークリーナエレメントの交換

■エレメントの外しかた

❶エアークリーナカバーを外し，蝶ナットを外します。

❷エアークリーナを少し持ち上げ，エレメントを取出します。



■エレメントの清掃

エレメント清掃は，エレメントの内側から空気を吹付けるか，又は軽く手で振ってゴミを取除いてください。

■エレメントの交換

エレメントの交換は1年間使用後，又は6回掃除ごとに交換が必要です。

注意

(1)乾式エレメントを使用していますので，オイルを使用してはいけません。

(2)エレメントは，清掃・交換以外は不必要にさわらないでください。

バッテリ液の点検と交換

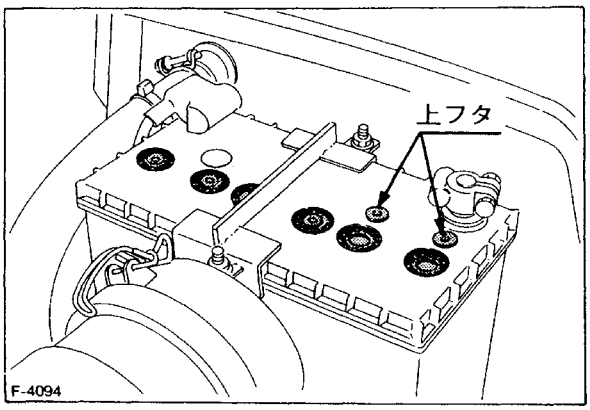
バッテリはMFバッテリを使用しておりますので従来品に比べ，液減りの度合がきわめて少なくなっています。側面に2本の線(レベル)がありますので，その間に液面があればよく，少ないときは下記要領で上側の線(レベル)まで蒸留水を補給してください。

◆MFバッテリの補水のしかた

(1)バッテリ上フタの補水キャップ(6個)を外します。2～3㎜の丸棒を補水キャップの穴に入れて上に持上げるとキャップが外れます。

(2)6個の補水穴から蒸留水をまんべんなく上側の線(レベル)まで補水します。

(3)キャップを元の穴に押込みフタをします。



注意

(1)バッテリに液が不足するとバッテリを傷め，多いと液がこぼれて車体の金属部を腐触させます。

(2)バッテリの充電は必ず本体から取外して行なってください。取付けたままで充電すると，電装品の損傷の他に配線などを傷めることがあります。なお急速充電はできるだけ避けてください。

(3)バッテリにコードを接続するときは，⊕と⊖を間違わないようにしてください。間違うとヒュージブルリンクが故障します。

(4)バッテリからコードを外すときは⊖側，取付けるときは⊕側から行なってください。逆にすると，工具が当った場合にショートします。

(5)充電は，バッテリの⊕を充電器の⊕に，バッテリの⊖を充電器の⊖にそれぞれ接続して，普通の充電法で行なってください。

(6)バッテリの寿命がなくなり新品のバッテリと交換する場合には，必ず取扱説明書の指定した容量のバッテリを使用してください。

(7)バッテリを外し，再度取付けるときには，バッテリの⊕，⊖のコードを元どおりに配線し，まわりに接触しないように締付けてください。

安全ポイント

●バッテリ液を身体や服に付けないようにしてください。付着したときは，すぐに水で洗い流してください。

▶もし怠ると……

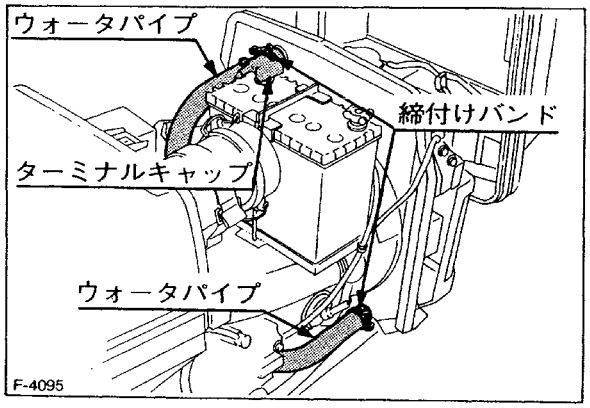
希硫酸によって，ヤケドすることがあります。

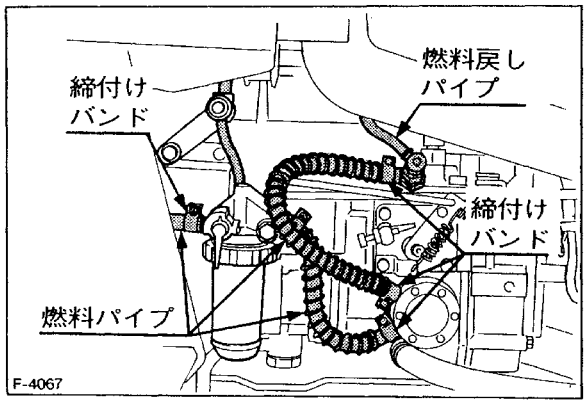
パイプ類の点検

燃料パイプやラジエータホースなどのゴム製品は，使わなくても老化する消耗品です。締付けバンドと共に2年ごと，又は傷んだときには新品と交換する必要があります。

(1)パイプ類や締付けバンドがゆるんだり，傷んでいないか常に注意してください。

(2)燃料パイプ類を交換する場合は，必ず空気抜きをする必要があります。





注意

●交換時にパイプや噴射ポンプなどにゴミが入らないように注意してください。ゴミが入ると噴射ポンプの作動不良の原因になります。

安全ポイント

●燃料パイプが破損していると，燃料もれを起しますので，必ず点検しましょう。

▶もし怠ると……

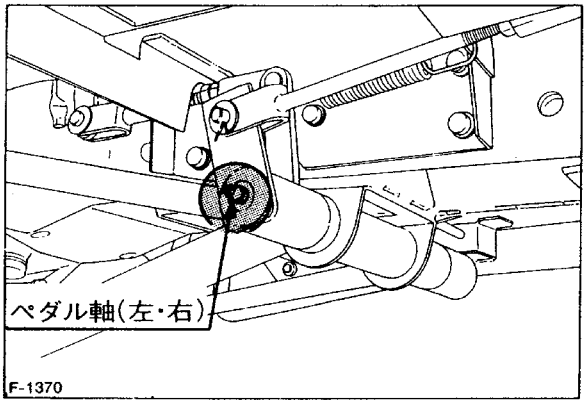
火災など傷害事故を起します。

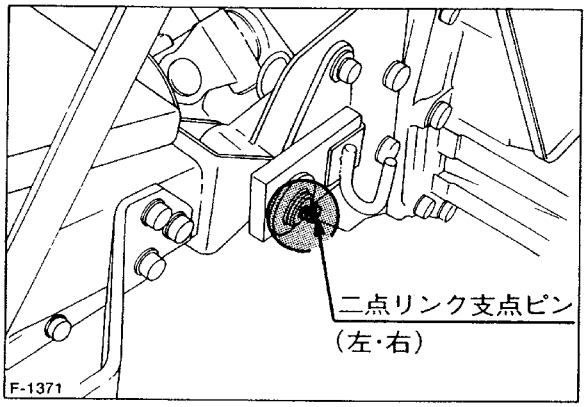
グリースの注入箇所

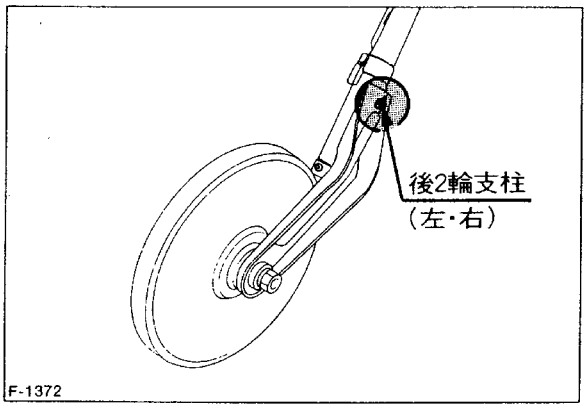
通常のグリースアップは，定期点検箇所一覧表に従って行なってください。ただし，代かき作業などで泥水の中に入ったときは，１日の作業が終った後必ずグリースアップをしておきましょう。
グリースは，「クボタ推奨グリース」を使用してください。(67ページ参照)

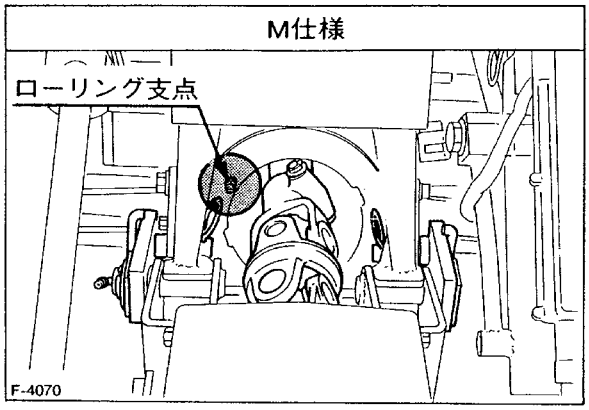
■各部へのグリース注入

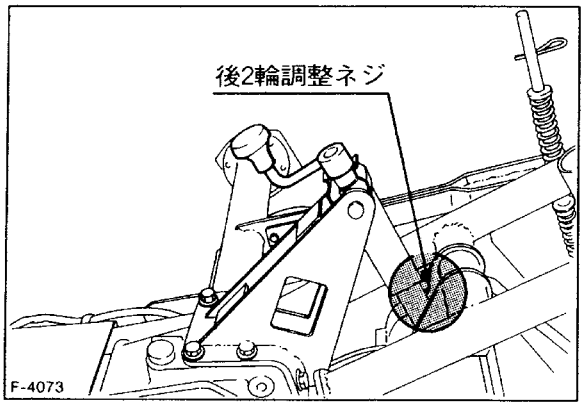
シャーシグリースを少量注入します。







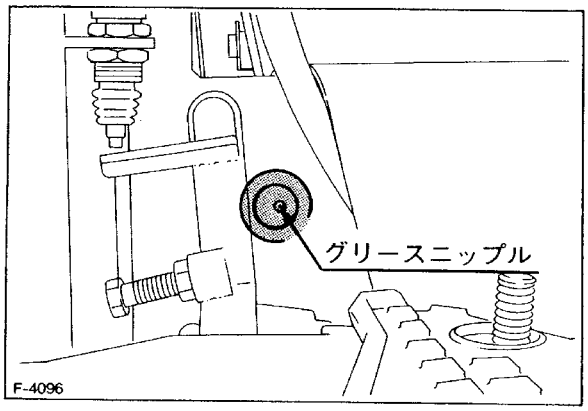




■クラッチレリーズハブ

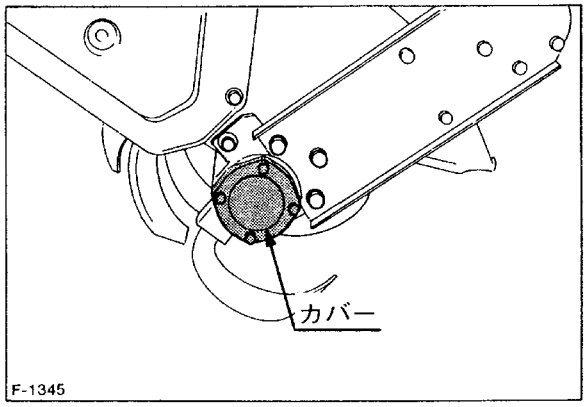
フットカバー左を外して，ベアリンググリースを極少量注入します。

（グリースポンプ２押し程度）



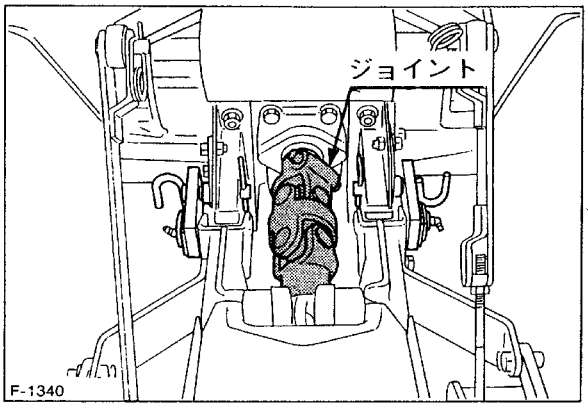
■ロータリサイドフレーム【サイドドライブ仕様】

サイドフレーム下部のカバーを外して，ベアリンググリースを注入します。



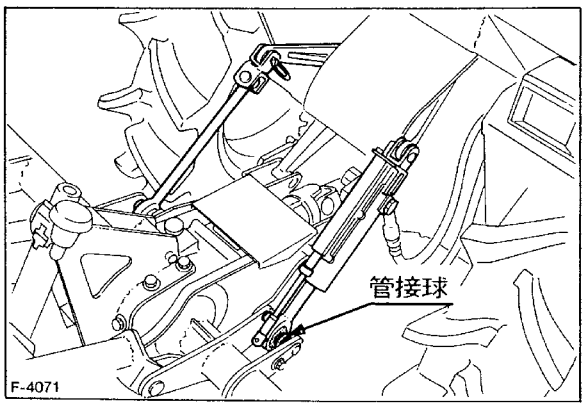
■ジョイントのスプライン部へのグリースの塗布

ジョイントを外して，PTO軸及びロータリ側の軸に，ベアリンググリースを薄く塗布します。



■管接球へのグリースの塗布【M仕様】

リフトシリンダ・リフトロッドの管接球の球面にシャーシグリースを塗布してください。



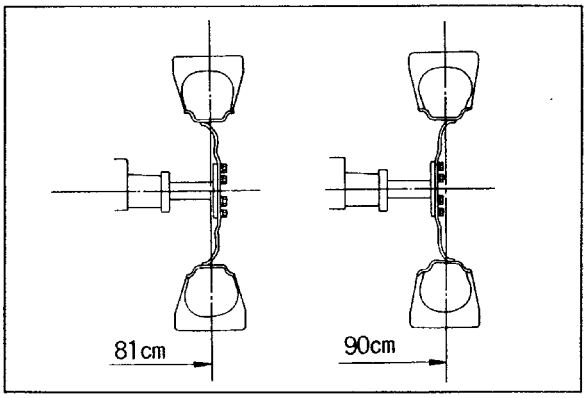
輪距の調整

■前輪

前輪の輪距は変更できません。

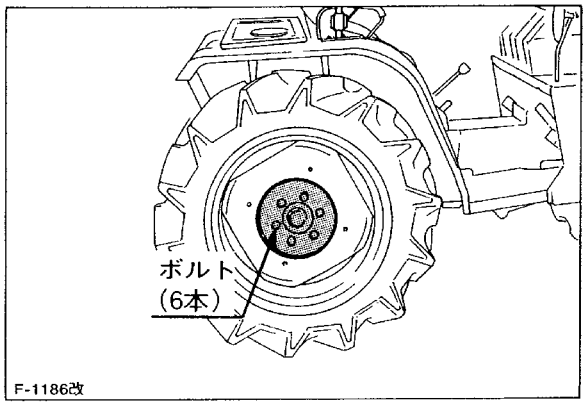
■後輪

後輪の輪距は2段階に調節できます。



❶ジャッキで左右の後輪を浮かします。

❷ボルト・ナットをゆるめてタイヤを外し，左右を入換えます。



注意

(1)タイヤは，側面の矢印が前進時の回転方向に合うように取付けてください。

(2)ストレークは，標準輪距(81cm)のときだけ取付けられます。

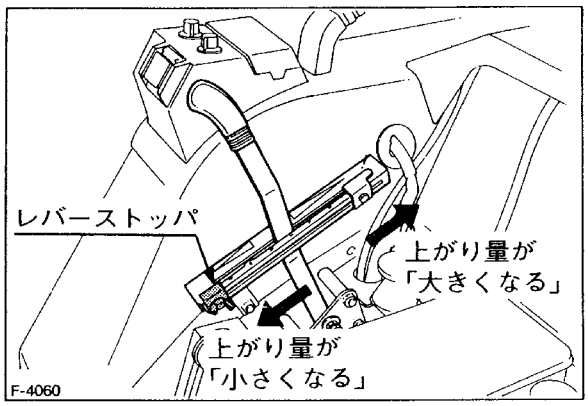
(3)後輪ウエイトは，標準輪距(81cm)のとき取付けられます。

安全ポイント

●けん引作業・傾斜地での作業などの場合は，輪距を広くして使用してください。
最小輪距では，左右のバランスが不安定になります。
▶もし怠ると……
転倒による傷害事故を起すことがあります。

作業機持上げ量の調整

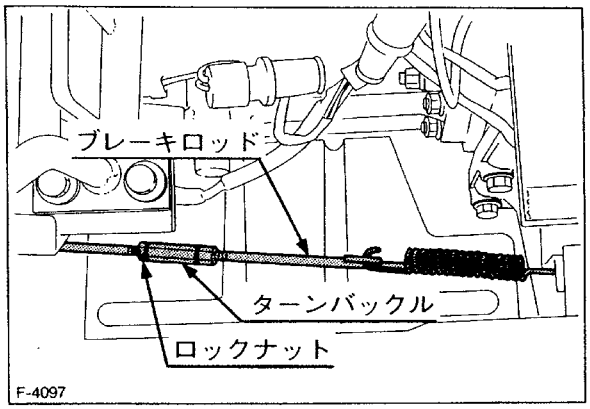
レバーストッパの位置を前後させることによって，作業機の上がり量を調節します。



ブレーキの調整

ターンバックル側のロックナットをゆるめ，ターンバックルを回して，ペダルの遊びを調整します。調整後はロックナットを確実に締付けておいてください。

ブレーキペダルを踏込んだとき，駐車ブレーキロックが確実に作動するかを確認してください。



安全ポイント

- 調整時必ず左右のペダルの踏込み量を合せてください。合っていないとブレーキが片ぎきになります。

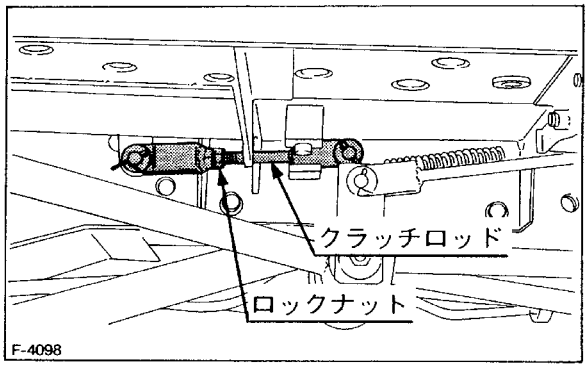
  ▶もし怠ると……

  傷害事故を引起すことがあります。

クラッチの調整

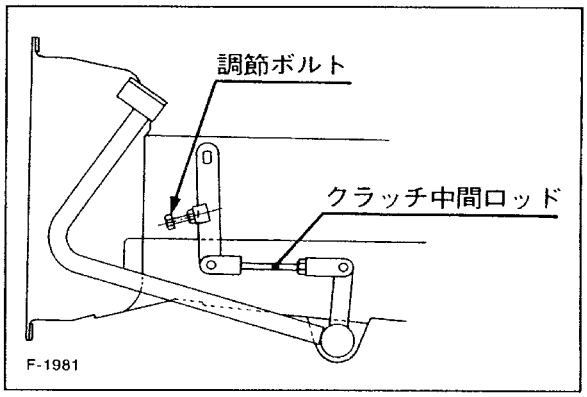
ナットをゆるめ頭付ピンを外してクラッチロッドで，ペダルの遊びを調整します。

調整後はナットを確実に締付けておいてください。



注意

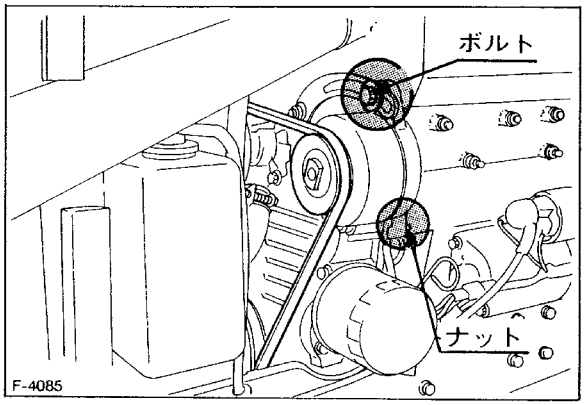
- 調節ボルトは，クラッチペダルの最大踏込み量を規制して，クラッチのダイヤフラムのオーバーストロークを防ぐもので，工場出荷時に調節して固定ロックしてありますので，さわらないようにお願いします。



ファンベルトの調整

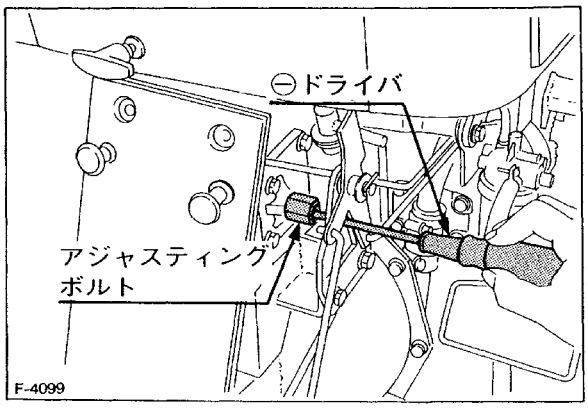
ダイナモを取付けているボルトとナットをゆるめて，ダイナモを動かして調整します。

調整後はナットを確実に締付けておいてください。



ステアリングハンドルの調整

フットカバー右を外し，ゴムキャップを取外してロックナットをゆるめ，ドライバでアジャスティングボルトを回して遊びを調整します。
調整後は，ナット及び袋ナットを確実に締付けておいてください。

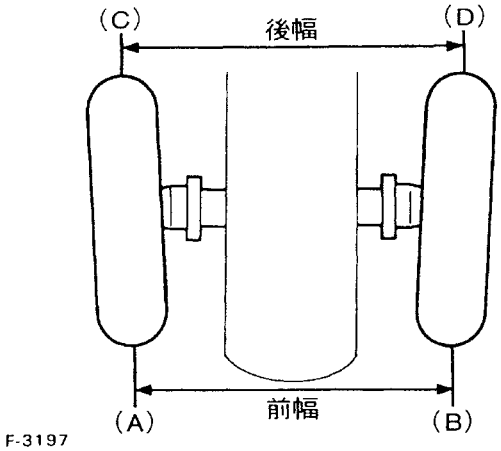


トーインの点検調整

トーインの調整が悪いと，ハンドルを取られたり，異常に振れることがあります。

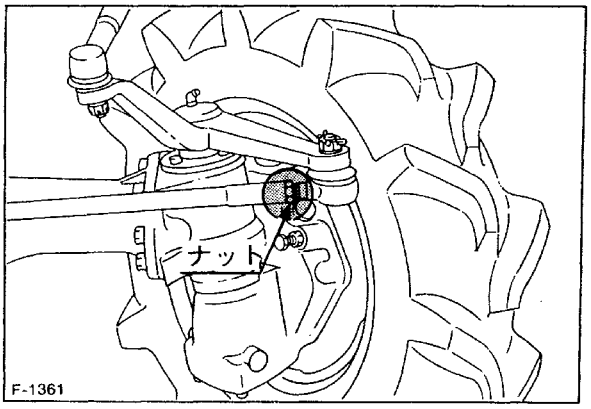
■トーインの点検

前輪の前幅(AB)と後幅(CD)を測り，(CD)−(AB)＝2～8㎜になっているかを調べます。



■トーインの調整

タイロッドのナットをゆるめて調整します。
調整後はナットを確実に締付けておいてください。



前車軸支持部ガタの点検調整

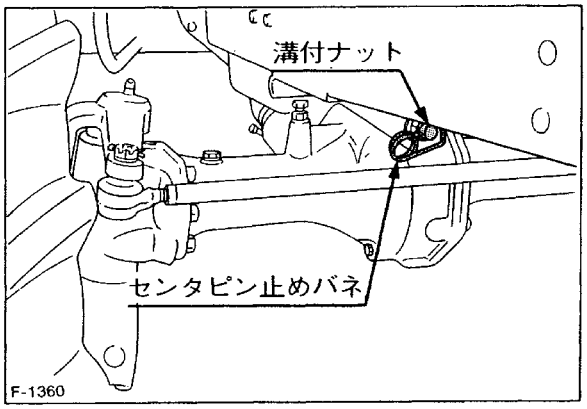
前車軸支持部の調整が悪いと，前輪が著しく振れたり，ハンドルに振動が伝わってきます。

■支持部ガタの点検

前後方向のガタを点検し，ガタがあれば調整します。

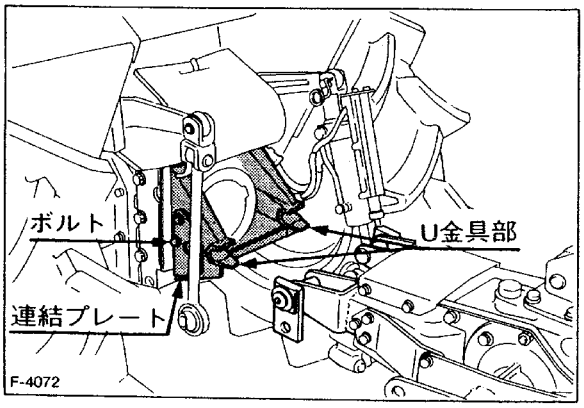
■支持部ガタの調整

センタピン止めバネを外し，溝付ナットを締込んでガタを調整します。



ロータリ連結部の調整

2点リンクブラケットU金具部と，ロータリフレーム支点ピンとの間に，遊びが出たときは，連絡プレートの取付ボルトをゆるめ，ロータリ部をコントロールレバーで持上げ，ガタをなくし，二点リンクピンが軽く動くことを確認の後，連結プレート取付ボルトを締付けてください。

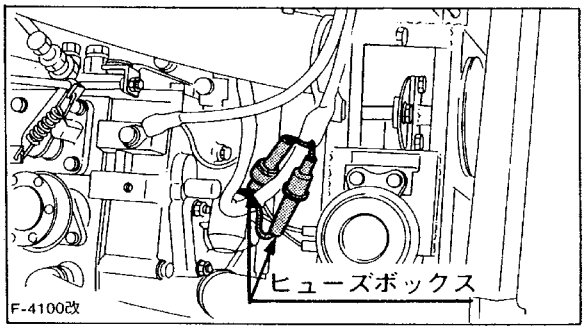


電気配線の点検及び ヒューズ，ランプの交換

配線のターミナル(端子)部のゆるみは接続不良になり，また配線が損傷していると電気部品の性能を損なうだけでなくショート(短絡)，漏電または焼損など思わぬ事故になることがあります。
傷んだ配線は早めに交換・修理してください。

■ヒューズの交換

❶ヒューズボックスのフタを外す。
❷ヒューズを外す。
❸切れたものと同容量のヒューズと交換する。

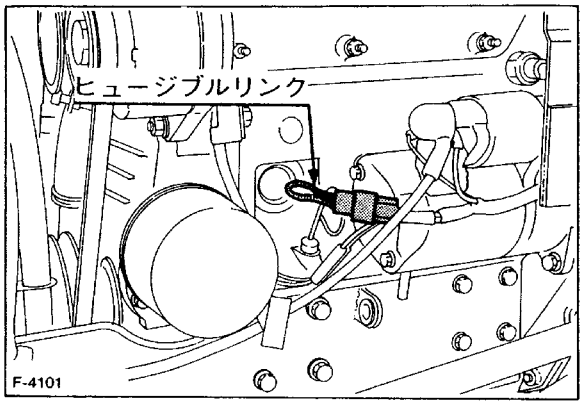


注意

(1)ヒューズを交換してもすぐに切れてしまう場合は，針金や銀紙などで代用せず，販売店か農協で点検，修理してください。
(2)トラクタにラジオなどを取付けるときの電源取出しは，販売店・農協・弊社支店又は㈱クボタアグリに御相談ください。

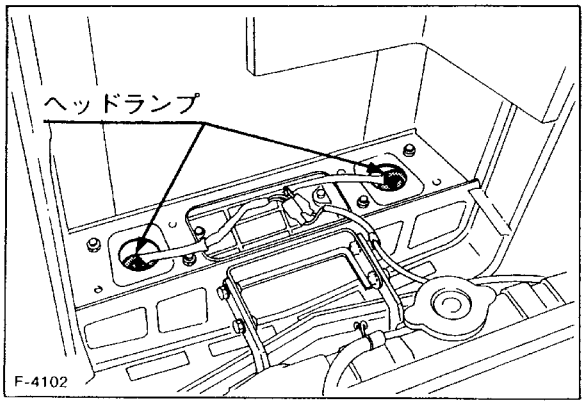
■ヒュージブルリンクの交換

ヒュージブルリンクは，配線を保護するためのものです。もし切れた場合は，必ず切れた原因を調べ，決して代用品を使用せず，純正部品を使用してください。

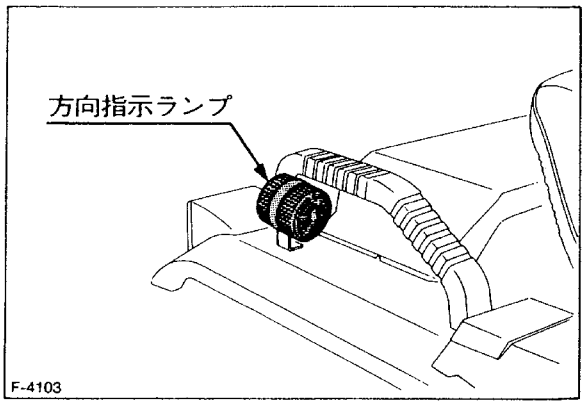


■ランプ類の交換

(1)ヘッドランプ



(2)方向指示ランプ



長期格納時の手入れ

トラクタを長い間使用しない場合は，次の要領で整備してから格納しましょう。

(1)不具合箇所は整備してください。

(2)エンジンオイルを交換し，５分ほど運転し各部にオイルをゆきわたらせてください。

(3)定期点検箇所一覧表の項目を確認するようにしてください。

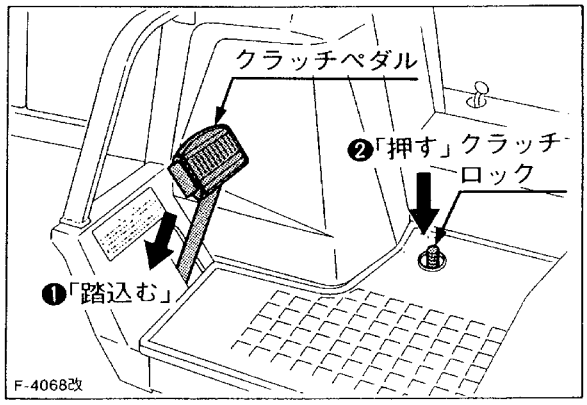
(4)各グリースの注入及び塗布箇所に，グリースの注入と塗布をしておいてください。

(5)車体のさびやすい部分には，グリースかオイルを塗っておいてください。

(6)燃料コックを「閉」にしておいてください。

(7)冷却水も抜いておいてください。

(8)クラッチペダルは，クラッチを踏込んだ状態でロック金具を掛けてください。クラッチ板のさび付きを防止します。



(9)タイヤの空気圧は，標準より少し多めにしてください。

(10)バッテリを本機から取外し，風通しの良い冷暗所に保管してください。また本機に取付けたまま保管するときは必ずアース側(⊖側)を外してください。

(11)ウエイトは取外し，作業機は，外すか地面に降ろした状態にしてください。

(12)各部の配線・バッテリコード・燃料配管などの，キレツ・被覆の破れ，コードクランプの外れは，確実に点検・整備してください。

(13)格納中バッテリは，１カ月に一回充電器で完全充電するようにしましょう。

(14)格納場所は，雨のかからない乾燥した場所を選定し，シートをかけるようにしましょう。

安全ポイント

- シートをかける場合は，マフラやエンジン自体の冷却状態を確認してからにしてください。
  ▶もし怠ると……
  火災を起す原因になります。

注意

- 長期格納時に洗車するときは，エンジンを止めてから行なってください。もしエンジンをかけて行なう場合はエアークリーナの吸入口から水が入らないように注意してください。水が入ると故障の原因となります。

定期点検箇所一覧表

専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは，販売店・農協・弊社支店又は㈱クボタアグリにご相談ください。

次の定期点検表に従って，必ず定期点検を実施してください。

安全ポイント

●給油及び点検整備をするときは，❶トラクタを平たんな広い場所に置き，❷エンジンを止め，駐車ブレーキを掛け，❸ロータリの落下を防止する落下調整グリップを締込み，油圧をロックして，❹更に爪軸の下に木の台などを置き，安全を確認してから行なってください。

▶もし怠ると……

傷害事故を引起すことがあります。

No.	点検項目	アワーメータ表示時間(下記時間めごとに交換)										購入日から		参照ページ
		35	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	1年	2年	
1	• ミッションオイルの交換 • 油圧ストレーナの清掃 • 油圧オイルフィルタエレメントの交換		◎					○							42 44
2	エンジンオイルの交換	◎		○	○(175)		○	○(325)		○	○(475)				42
3	ステアリングギヤーボックスのオイル補給				○			○			○				42
4	前デフギヤーケースのオイル交換		◎					○							42
5	前車軸ケース右・左のオイル交換		◎					○							43
6	ベベルギヤーケースのオイル交換 【サイドドライブ仕様】		◎					○							43
7	ロータリケースのオイル交換 【サイドドライブ仕様】		◎		○			○			○				43
8	ロータリケースのオイル交換 【センタドライブ仕様】		◎		○			○			○				43
9	エンジンオイルフィルタカートリッジの交換				○			○			○				44
10	燃料フィルタエレメントの交換									○					44
11	エアークリーナエレメントの清掃			○		○		○		○		○			46
12	エアークリーナエレメントの交換												○ 6回清掃ごと		46
13	油圧・燃料・燃料戻しパイプ取付けねじのゆるみ点検		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			47
14	ラジエータホース締付けバンドのゆるみ点検				○			○			○				47
15	燃料・燃料戻しパイプの交換													○	47
16	ラジエータホースの交換													○	47

No.	点検項目	アワーメータ表示時間(下記時間めごとに交換)											購入日から		参照ページ
		35	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	1年	2年	
17	冷却水の交換													○	44
18	バッテリ液の点検		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			46
19	車体各部のボルト，ナットのゆるみピンなどの脱落		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			—
20	燃料タンクの清掃											○			—
21	ファンベルトの調整		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			38
22	電気配線の損傷及び接続部のゆるみ												○		52
23	トーインの調整			○		○		○		○		○			51
24	バッテリキャップの交換													○	47
25	ラジエータ内部の洗浄											○			46
26	グリースの注入		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			48
27	クラッチレリーズハブのグリース注入							○							48
28	ロータリサイドフレームのグリース注入【サイドドライブ仕様】		◎	○		○		○		○		○			49
29	ジョイントスプライン部へのグリースの塗布		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			49
30	管接球へのグリースの塗布【M仕様】		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			49
31	ブレーキの調整	◎													39・50

◎印は，ならし運転時の35時間，50時間使用後に必ず行なってください。

給油(水)一覧表

No.	給油(水)項目	容量(ℓ)	使用オイル
1	燃料	17	クボタディーゼル重油 又はディーゼル軽油
2	冷却水	3.4	清水
3	エンジンオイル	3.4 (オイルゲージ上限全量で)	クボタ純オイルD30 又はD10W30(66ページ参照)
4	ミッションオイル	12	クボタ純オイルM80B (66ページ参照)
5	ステアリングギヤーボックスオイル	約0.2	
6	前デフギヤーケースオイル	1.5	
7	前デフギヤーケースオイル【B仕様】	2.5	
8	前車軸ケース右・左のオイル	左右 各0.5	
9	ベベルギヤーケースのオイル 【サイドドライブ仕様】	1.2	
10	ロータリケースのオイル 【サイドドライブ仕様】	1.2	
11	ロータリケースのオイル 【センタドライブ仕様】	1.7	
12	グリースの注入 ・ペダル軸左・右 ・後2輪支柱左・右 ・2点リンク支点ピン左・右 ・ローリング支点【M仕様】 ・後2輪調整ネジ	少量	シャーシグリース (67ページ参照)
13	管接球へのグリースの塗布【M仕様】	塗布	
14	クラッチレリーズハブ	極少量(グリースポンプ2押し程度)	ベアリンググリース (67ページ参照)
15	ロータリサイドフレーム 【サイドドライブ仕様】	適量(30～40g)	
16	ジョイントのスプライン部 へのグリース	薄く塗布	

エンジンの不調と処置

もしエンジンの調子が悪い場合があれば，次の表により診断し，適切な処置をしてください。

現　　象	原　　因	処　　置
始動困難な場合	(1)燃料が流れない。	(1)燃料タンクを点検し，沈澱している不純物や水分を除く。 (2)燃料フィルタを点検し，汚れていれば交換する。
	(2)燃料送油系統に，空気や水分が混入している。	(1)パイプ及び締付けバンドを点検し，損傷があれば新品と交換又は補修しておく。 (2)空気抜きをする。(41ページ参照)
	(3)寒冷時にオイル粘度が高く，エンジン自体の回転が重い。	(1)ラジエータに熱湯をそそぐ。 (2)気温によってオイルの使い分けをする。 (冬期はD10W30を使用)
	(4)バッテリがあがり気味で，回転力が弱くなって圧縮を越す勢いがない。	(1)バッテリを充電する。
出力不足の場合	(1)燃料不足	(1)燃料を補給する。 (2)燃料系統を調べる。(特に空気混入に注意)
	(2)エアークリーナの目詰まり。	(1)エレメントを清掃する。
突然停止した場合	(1)燃料不足	(1)燃料を補給する。 (2)燃料系統を調べる。(特に空気混入に注意)
排気色が悪い場合	(1)燃料が悪い。 (2)エンジンオイルの入り過ぎ。	(1)良質の燃料に交換する。 (2)正規のオイル量にする。
オーバヒートした場合	(1)冷却水が100℃以上になったため。	(1)冷却水の量(不足)及び水もれの点検。 (2)ファンベルトの張り(ゆるみ)の点検。 (3)防虫網の清掃。

☆わからない場合は，お買いあげいただいた販売店・農協に御相談ください。

付表

アタッチメント一覧表

	品番	品名	用途・仕様		併用アタッチメント	備考
補助車輪関係	96023-0649-1	8-16 ストレーク取付け台	反転ストレーク取付け用		任意選択 96023-0719-2 P15 反転ストレーク 96023-0729-2 P20 反転ストレーク 96023-0739-2 P30 反転ストレーク	
	96023-0719-2	P15 反転ストレーク	外径74・79cm 幅15cm	5セット/台必要	96023-0649-1 8-16ストレーク取付け台	
	96023-0729-2	P20 反転ストレーク	外径76・81cm 幅20cm		96023-0649-1 8-16ストレーク取付け台	
	96023-0739-2	P30 反転ストレーク	外径81・86cm 幅30cm		96023-0649-1 8-16ストレーク取付け台	
ウエイト関係	96312-2840-1	B1600DT前輪 ウエイトアッシ	重量18kg×2 (前輪用)			
	96312-2014-1	8-16 ホイル ウエイトアッシ	重量23kg×2 (後輪用)			
	96315-1051-1	前部ウエイト本体	重量25kg 使用個数1コ			
	96315-1540-1	B1-15 バンパー ウエイトアッシ	重量40kg 使用個数1コ			
けん引するもの	96316-2730-1	B1400M ヒッチアッシ	トレーラなどの けん引作業			
	96316-2720-1	B1400 延長ヒッチアッシ	トレーラなどの けん引作業		96316-2730-1 B1400Mヒッチアッシ	
	96316-1560-1	B1-15 3点リンクヒッチアッシ	スキ,プラウ,モーア などのけん引作業			Mは除く
	96316-1570-1	B1-15M3点リンク ヒッチアッシ	スキ,プラウ,モーア などのけん引作業			M仕様

	品　番	品　名	用途・仕様	併用アタッチメント	備　考
その他本機装備関係	96397-1510-1	B1500 洗車ポンプアッシ	洗車用作業，後部PTO 吐出量55ℓ/分		
	96314-1540-1	B1-15 作業灯アッシ	12V15W1個		
	96314-4540-1	B1-15 強力日よけアッシ	全高194cm(B1-14は191cm) 全幅96cm，全長120cm		
	96314-1560-1	ソーラーチャージャー SK-1	バッテリの自然放電を補充 動作電流 71ミリアンペア		
畝立て・培土機関係	96220-7510-1	B1500 4号畝立て機	畝立て作業 溝幅12cm		
	96220-7520-1	B1500 5号畝立て機	畝立て作業 溝幅15cm		
	96220-7530-1	B1500 7号畝立て機	畝立て作業 溝幅21cm		
	96220-7540-1	B1500 4号ステンレス畝立て機	畝立て作業 溝幅12cm		
	96230-7540-1	B1-15 片培土機アッシ	あぜ際の培土作業 溝幅15cm 畝高さ　～18cm		
	96230-8540-1	B1-15 ディスク片培土機	あぜ際の培土作業 溝幅17～22cm 溝高さ15cm		
整地板関係	96272-2540-1	RS1203 整地カバーアッシ	水田，畑の整地作業 整地幅128～208cm	79143-3571-2 取付けブラケット2コ 01135-51020 ボルト 8コ	
ロータリ用爪セット	96181-9821-1	耕うん爪アッシ 111	耕幅120cm 爪本数321号左右各12本 287号左右各3本 288号左右各1本		RK
	96180-9733-1	普通爪アッシ A17	耕幅120cm 爪本数518号24本 701号6本 702号左右各1本		RK
	96181-9822-1	耕うん爪アッシ 112	耕幅140cm 爪本数321号左右各14本 287号左右各3本 288号左右各1本		RK
	96181-9825-1	耕うん爪アッシ 133	耕幅120cm 爪本数321号左右各14本 322号左右各1本		RS
	96180-9811-1	普通爪アッシ A10	耕幅120cm 爪本数581号30本		RS

	品番	品名	用途・仕様	併用アタッチメント		備考
爪軸装着関係	96195-0504-1	RK1203 延長爪軸アッシ	広幅耕うん用 (延長爪軸，カバー付) 延長付耕幅140cm			RK
	96192-0710-1	RK1200 ロータリプラウアッシ	外径39cm 羽根4枚			RK
マルチ・整形板関係	96280-2511-1	B1500 高畝マルチ用ヒッチ				
	96280-4512-1	B1500 2畝マルチ用ヒッチ				
	96280-2504-1	B1-15 高畝マルチアッシ	畝幅55～76cm 畝高さ40cm(最大) フィルム幅110～135cm	96315-1540-1 B1-15 バンパー ウエイト アッシ	96280-2511-1 B1500 高畝マルチ 用ヒッチ	
	96280-5504-1	B1-15 平高畝マルチアッシ	畝幅55～95cm 畝高さ15～30cm フィルム幅110～150cm			
	96280-3504-1	B1-15 平畝マルチアッシ	畝幅70～125cm 畝高さ～15cm フィルム幅95～150cm			
	96280-7101-1	XB-1D 小畝マルチアッシ	畝幅50～63cm 畝高さ～35cm フィルム幅95～120cm			
	96280-2505-1	B1-15 高畝整形板アッシ	畝幅55～76cm 畝高さ40cm(最大)			
	96280-5505-1	B1-15 平高畝整形板アッシ	畝幅55～95cm 畝底幅80～120cm 畝高さ15～30cm			
	96280-7102-1	XB-1D 小畝整形板アッシ	畝幅50～63cm 畝高さ～35cm			
	96280-4101-1	XB-1D 2畝マルチアッシ	畝幅50～60cm 畝高さ～33cm 畝間隔70～90cm		96280-4512-1 2畝マルチ 用ヒッチ	
	96280-4102-1	XB-1D 2畝整形板アッシ	畝幅50～60cm 畝高さ～33cm 畝間隔70～90cm			
リッジャ・カルチ関係	96230-1401-1	小形 3連リッジャ4型	固定培土形 畝高さ15～20cm 畝間隔48～60cm		96230-1533-1 B1500 3連リッジャ ヒッチ	
	96230-1402-1	小形 3連リッジャ5型	開閉培土形 畝高さ15～20cm 畝間隔48～60cm			
	96230-1533-1	B1500 3連リッジャヒッチ	3連リッジャ取付け用			

インプルメント一覧表

区　分	品　番	品　名	備　考	メーカ
サブソイラ	71996-00000	VS-400Rバイブロサブソイラ	標準3点リンク	クボタ
サブソイラ	71991-51111	T-110サブソイラ	標準3点リンク	クボタ
サブソイラ	71996-11111	TV25Rトップリンク バイブロアッシ	標準3点リンク	クボタ
溝掘機	71974-00000	AT300溝掘機	標準3点リンク	クボタ
パディハロー	74050-18510	G160パディハロー	標準3点リンク　爪タイプ, 広角ジョイント付,オートヒッチ付	小橋工業
フレール モーア	76060-18030	FM110フレールモーア	標準3点リンク	小橋工業
ツル刈 チョッパ	78122-18010	FS100ツル刈チョッパ	標準3点リンク	小橋工業
ホール ディガー	78202-32050	SHB-1ホールディガー	標準3点リンク(PTO12～16PS)	斉藤農機
パワー ディスク	74173-06100	SH-243パワーディスクプラウ	標準3点リンク　24インチ×3連, 平耕し用(1ウェイ)	佐々木農機
パワー ディスク	74177-06010	SW-204Aパワーディスクプラウ	標準3点リンク　20インチ×4連, 畝盛り式(2ウェイ)	佐々木農機
ブロード キャスタ	74710-06060	GH-151ブロードキャスタ	標準3点リンク　ポッパースチール	佐々木農機
ブロード キャスタ	74710-06070	GF-152ブロードキャスタ	標準3点リンク ポッパースチール揺動式	佐々木農機
マニア スプレッダ	74910-06080	SM-51Aマニアスプレッダ	けん引式　低床,広幅タイヤ	佐々木農機
ロータリ モーア	76060-06040	RC-130ロータリモーア	標準3点リンク　スタンダード	佐々木農機
ロータリ モーア	76060-06050	RC-130Dロータリモーア	標準3点リンク　デラックス	佐々木農機
ヘイメーカ	76230-06030	AN-170ヘーメーカ	標準3点リンク　ベルトタイプ	佐々木農機
作業台	78310-06010	SC-1トラクタ作業台	標準3点リンク　Vプーリ付	佐々木農機
作業台	78310-06020	SC-1Bトラクタ作業台	標準3点リンク　平プーリ付	佐々木農機
三兼機	74642-04010	TB3ツールバー	標準3点リンク	鋤柄農機
三兼機	74642-04020	BCカルチベータ	ツールバー装着用	鋤柄農機
三兼機	74642-04030	BBリッジャビーム	ツールバー装着用	鋤柄農機
三兼機	74642-04040	BR-3Bリッジャ3号	ツールバー装着用	鋤柄農機
三兼機	74642-04050	BD掘取機	ツールバー装着用	鋤柄農機
三兼機	74642-04060	BR-2Bリッジャ2号	ツールバー装着用	鋤柄農機
レベラー	74560-04010	TL-135ランドレベラー	標準3点リンク	鋤柄農機
掘取機	78121-04040	TBD-1C 1畝掘取機	標準3点リンク	鋤柄農機
掘取機	78122-04010	TBD-1C用ツル切り機		鋤柄農機
マルチ ロータリ	78401-00000	RT110Bマルチロータリ	特殊3点リンク	鋤柄農機
ドライブ ディスク	74181-10010	DDF2040ドライブディスク	標準3点リンク	高北農機
ブロード キャスタ	74710-10030	BC160ブロードキャスタ	標準3点リンク　PTO駆動, 円錐形ホッパ	高北農機
マニア スプレッダ	74910-10310	DL-700マニアスプレッダ	けん引式　低床,広幅タイヤ	高北農機
レシプロ モーア	76020-10040	TH-40Bヘーモーア	標準3点リンク (専用トップリンク付)	高北農機
ヘーメーカ	76230-10050	HM1600ヘーメーカ	標準3点リンク	高北農機
鋤	72106-10030	333S双用1連スキ	標準3点リンクスチールヘラ チャンネルヒッチ付	高北農機
鋤	72106-10010	333V双用1連スキ	標準3点リンクボルガニックスヘラ チャンネルヒッチ付	高北農機

区　分	品　番	品　名	備　考	メーカ
肥料散布機	74751-35050	GX45AS-K5	モンロロータリ付　拡散播き	タイショウ
肥料散布機	74751-35060	GX90AS-K5	モンロロータリ付　拡散播き	タイショウ
肥料散布機	74751-35080	GX45BS-K5	モンロロータリ付　条播き	タイショウ
肥料散布機	74751-35090	GX90BS-K5	モンロロータリ付　条播き	タイショウ
バキュウムカー	74940-12050	DV-500Tバキュウムカー	けん引500ℓPTO駆動	デリカ
バキュウムカー	74940-12060	DV-500TBバキュウムカー	けん引500ℓ別エンジン駆動	デリカ
ライムソーワ	74740-12060	DL-100Tライムソーワ	けん引170ℓ車輪駆動	デリカ
マニアスプレッダ	74910-12100	DF-500横型マニアスプレッダ	けん引500kgPTO駆動	デリカ
トレーラ	75140-12010	DK-7-Aティチトレーラ	けん引　500kg	デリカ
トレーラ	75210-12010	DK-7-Dダンプトレーラ	けん引　500kg　後方ダンプ	デリカ
ブロードキャスタ	74711-86010	PS203ブロードキャスタ	標準3点リンク　(揺動式)	ビコンジャパン
ドライブハロー	74050-15100	HC1600Bドライブハロー	2点リンク広角ジョイント爪タイプ	松山
ドライブハロー	74050-15110	HC1600BAドライブハロー	標準3点リンク 広角ジョイント爪タイプ	松山
ドライブハロー	74050-15200	HC1800Bドライブハロー	2点リンク広角ジョイント爪タイプ	松山
ドライブハロー	74050-15210	HC1800BAドライブハロー	標準3点リンク 広角ジョイント爪タイプ	松山
ドライブハロー	74050-15830	HG-1601Bドライブハロー	標準3点リンク広角ジョイント爪タイプ　ワンタッチカプラ付	松山
中耕ロータリ	74031-15130	RM-200ロータリカルチ	標準3点リンク 1ユット幅273～363m/m×2連	松山
中耕ロータリ	74090-15050	RM-MJA 2畝マルチ	RM-200専用	松山
中耕ロータリ	74090-15060	カイヘイ2号バイドB	RM-200専用尾輪付	松山
ブロードキャスタ	74712-15090	MP200ブロードキャスタ	標準3点リンク　容量200ℓ	松山
ライムソーワ	74740-15110	FT-1201Kライムソーワ	標準3点リンク　車輪駆動	松山
ライムソーワ	74740-15120	FT-1201KDライムソーワ	けん引　車輪駆動	松山
ライムソーワ	74740-15130	FT-1401ライムソーワ	標準3点リンク　PTO駆動	松山
フレールモーア	76060-15070	NFZ-800AKフレールモーア	標準3点リンク　甘藷ツル切り用	松山
フレールモーア	79465-30021	NFZ1100A-B7フレールモーア	標準3点リンク　PTO正転用, 一般草刈用	松山
フレールモーア	76060-15030	NFZ1100AKB7フレールモーア	標準3点リンク　PTO正転用, 甘藷ツル切り用	松山
フレールモーア	76068-15010	RA-1200除草ローター	標準3点リンク　果樹園下草刈用	松山
掘取機	78120-15310	SP-1000(3P掘取機)	標準3点リンク　リフタータンプ	松山
掘取機	78120-15320	SP-1000(2P掘取機)	2点リンク　リフタータンプ	松山
掘取機	78120-15330	SP-1000掘取機	取付ヒッチなし	松山
鋤	79241-20011	3P-TR-131F双用1連鋤	標準3点リンク　1連	松山
鋤	79241-21011	2P-TR-131F双用1連鋤	2点リンク　1連	松山
鋤	73106-15070	TR-135F双用鋤	標準3点リンク　1連	松山
鋤	73106-15080	2P-TR-135F双用鋤	2点リンク　1連	松山
鋤	73076-15030	3P-TR-150F双用2連鋤	標準3点リンク　2連	松山
鋤	79240-10111	TR150FB自動反転鋤	2点リンク　2連	松山
ドライブプラウ	74302-05160	MBP2024ドライブプラウ	標準3点リンク　20インチ×4枚	スター農機
代かきロータリ	74050-05270	MPR1840水田ハロー	標準3点リンク	スター農機
ブロードキャスタ	74710-05020	MBC1800ブロードカスタ	標準3点リンク スピンナタイプ,FRP角形ホッパ	スター農機

区　分	品　番	品　名	備　考	メーカ
ブロード キャスタ	74710-05100	MBC1810ブロードカスタ	標準3点リンクスパウト揺動タイプ FRP角形ホッパ	スター農機
ライムソーワ	74740-05060	MLS1220ライムソーワ	標準3点リンク　ホイールドライブ	スター農機
ライムソーワ	74741-05020	MLS1520ライムソーワ	標準3点リンク　ホイールドライブ	スター農機
ライムソーワ	74740-05070	ライムソーワけん引装置	MLS1220用,MLS1520用	スター農機
ヘイベーラ	76311-05060	THB1000ヘーベーラ	けん引式　シンプルジョイント	スター農機
ヘイベーラ	76311-05100	THB1010ヘーベーラ	けん引式　ダブルジョイント	スター農機
ヘーメーカ	76230-05010	MHM1600ヘーメーカ	標準3点リンク　Vベルト駆動	スター農機
正逆転 ロータリ	70112-00000	RS1103X正逆ロータリ	装着方式2点リンク 標準耕幅 1100mm	クボタ
ミニローダ	75820-08050	ミニグレイタスローダ	持上荷重 150kg 最大持上高さ 1350mm	三陽機器

主要諸元

■トラクタの主要諸元

型式		B-40
駆動方式		4輪駆動
エンジン	名称	クボタD850(-1B)
	形式	水冷4サイクル3気筒立形ディーゼル
	総排気量	855cc.
	最大出力/回転速度	14.0馬力/2600回転毎分
	シリンダ内径×行程	72×70mm
	使用燃料	クボタディーゼル重油又はディーゼル軽油
	燃料タンク容量	17ℓ
	始動方式	セルモータ式(グロープラグ付)
	セルスタータ出力	12V，0.8kW
	潤滑方式	4葉トロコイドポンプ全自動強制潤滑
	冷却方式	加圧ラジエータ式(冷却水ポンプによる強制循環)
	バッテリ	50B24R-MF(NT80-S6-MF)12V，45Ah
車両寸法	全長	2150(ロータリなし)
	全幅	1055mm(輪距810mm)
	全高	1245mm
	軸距	1245mm
	最低地上高	235mm (前輪部)
輪距	前輪	770mm〔DB仕様800mm〕
	後輪	810mm(標準出荷時)，900mm
タイヤサイズ	前輪	5.00−12−2PR
	後輪	8−16−4PR
重量(ロータリなし)		550kg 565kg【M仕様】
PTO軸	取出し箇所	ミッションケース後部1(エンジン前部1)
	地上高	490mm
	回転方向	後ろから見て右回転
	変速段数	3段
	軸寸法	6スプライン，直径35mm
作業機昇降装置	制御方式	ポジションコントロール
	装着方式	3点リンク，JIS　O形(オプション)
クラッチ方式		乾式単板式(シングル)
かじ取り方式		ボールスクリュ式
変速方式		選択かみ合い式
変速段数		前進6段，後進2段
最小旋回半径		1.75m
制動装置		一系統左右独立，湿式ディスク機械式(連結装置付き)
差動方式		かさ歯車式，デフロック付

■PTO回転速度

PTO変速 (爪変速)	回転速度
1段	477回転／分
2段	814回転／分
3段	1228回転／分

■変速及び適応作業

変速	車速		適応作業
	km/時	m/分	
1速	0.95	15.8	ロータリ耕うん, 均平耕うん,畝立て
2速	1.62	27.0	ロータリ耕うん, 均平耕うん
3速	2.44	41.0	ロータリ砕土, ドッキングローダ
4速	4.88	81.0	代かき,プラウ耕, すき耕, ドッキングローダ
5速	8.33	139.0	プラウ耕，すき耕
6速	12.56	209.0	トレーラ作業, 道路走行
R1速	1.39	23.0	
R2速	7.08	118.0	

■ロータリ装置の主要諸元

ロータリ装置別			サイドドライブ仕様(RS形)	センタドライブ仕様(RK形)
形式			RS1204·RS1204M	RK1204·RK1204M
全長			1350mm(尾輪付)	
全幅			1400mm	1310mm
駆動方式			サイドドライブ	センタドライブ
装着方式			二点リンク直装	
耕うん幅			1200mm	
爪本数			30本	32本
重量			170kg 175kg【M仕様】	175kg 180kg【M仕様】
耕うん爪の種類			321号 R，L各14本 322号 R，L各1本	321号 R，L各12本 287号 R，L各3本 288号 R，L各1本
爪軸回転速度	変速	1段	160回転/分	
		2段	273回転/分	
		3段	412回転/分	

■耕うんピッチ（cm）

ロータリ	爪変速	1速	2速	3速
サイドドライブ仕様	1	9.9	16.9	25.6
	2	5.8	9.9	15.0
	3	3.8	6.6	10.0
センタドライブ仕様	1	9.9	16.9	25.6
	2	5.8	9.9	15.0
	3	3.8	6.6	10.0

推奨オイル・グリース一覧表

必ず下表の指定オイルを使ってください。

■エンジンオイル・ミッションオイル・ギヤーオイル

メーカ	エンジンオイル	ミッションオイル	ギヤーオイルSAE90
日本石油	クボタ純オイル（ディーゼルエンジン用）D30又はD10W30 ターボ付エンジンはD30スーパーCD又はD10W30スーパーCD	クボタ純オイルM80B	クボタ純オイルM90
コスモ石油			
共同石油			
昭和シェル石油			

■ グリース

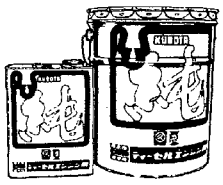
メーカ	グリース	
	シャーシ グリース	ホイールベアリング グリース
日本石油	エピノックグリースAPNo.2	PAN WBグリース
コスモ石油	ダイナマックスEPNo.2	ロードマスターNo.2
共同石油	リゾニックスグリースEPNo.2	リゾニックスグリースNo.2
昭和シェル石油	レチナックスCD	サンライトグリースNo.2
モービル石油	プレックス47	モービルグリースJL
エッソ石油	シャーシグリースL	リスタンWB2
出光興産	シャーシグリース	アポロイルオートレックスA
三菱石油	シャーシグリースNo.2	ホイールベアリングHDグリースNo.2
ゼネラル石油	シャーシグリースNo.2	WBグリースNo.2
キグナス石油	シャーシグリースNo.2	MPグリースNo.2

オイルは クボタ純オイル をお使いください。

● オイルはトラクタの開発研究から生まれたクボタ純オイルをお使いください。

■ エンジンには，

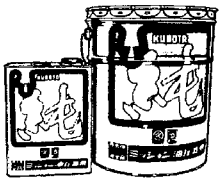
クボタ純オイル D30，又は
ディーゼルエンジン用 D10W30



Z-1002 4 ℓ 20 ℓ

■ トラクタ本体には，

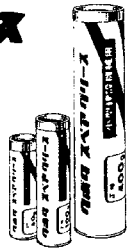
クボタ純オイル M80B
ミッション用



Z-1003 4 ℓ 20 ℓ

■ グリースアップには，

クボタスペアグリース



Z-1005 60 100 400

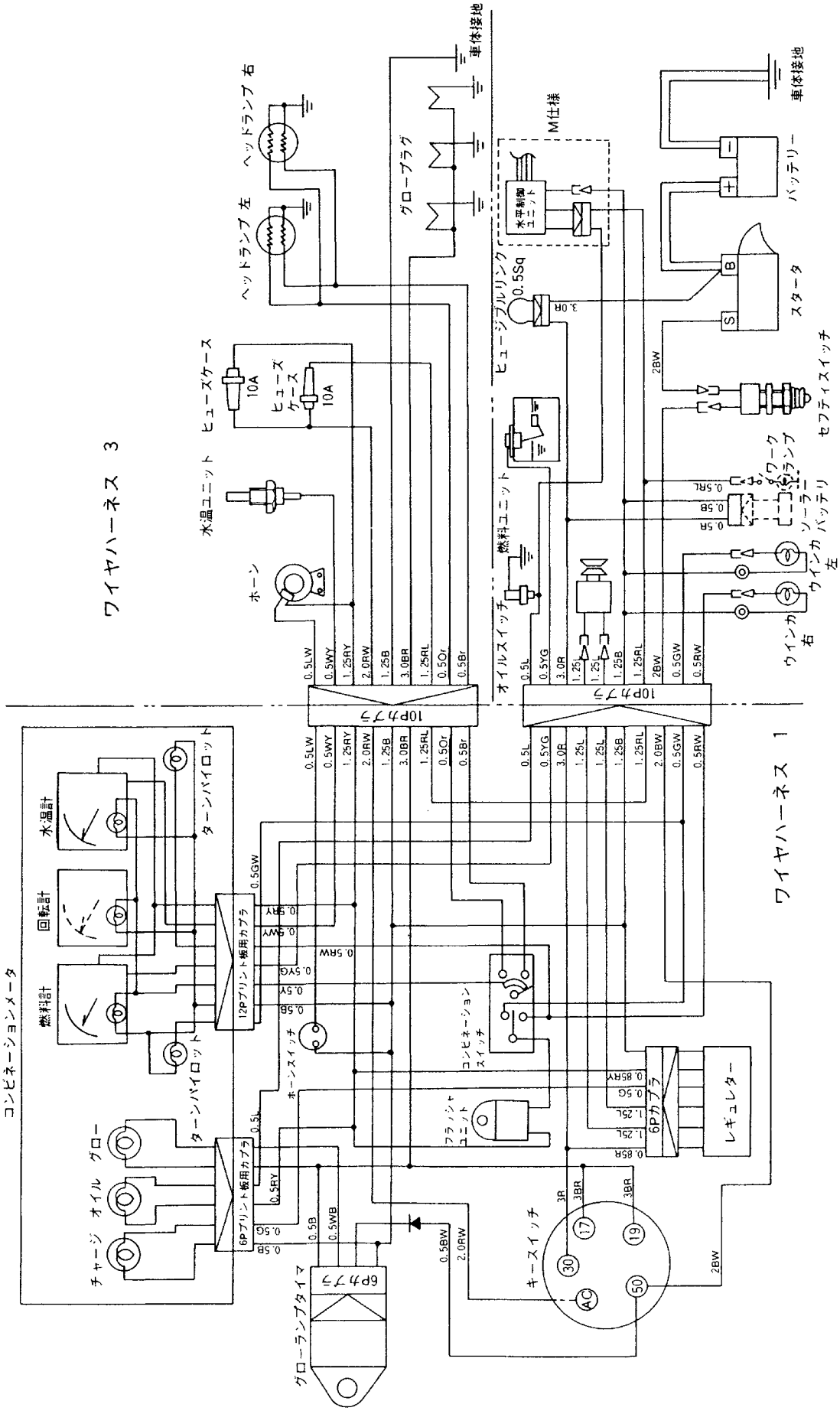
■ ロータリなどには，

クボタ純オイル M90
ミッション用

Z-1004 4 ℓ 20 ℓ

いずれもクボタが品質保証する最も適したオイルです。
お買い求めは，販売店・農協またはコスモ石油・日本石油・共同石油・昭和シェル石油のスタンドに御用命ください。

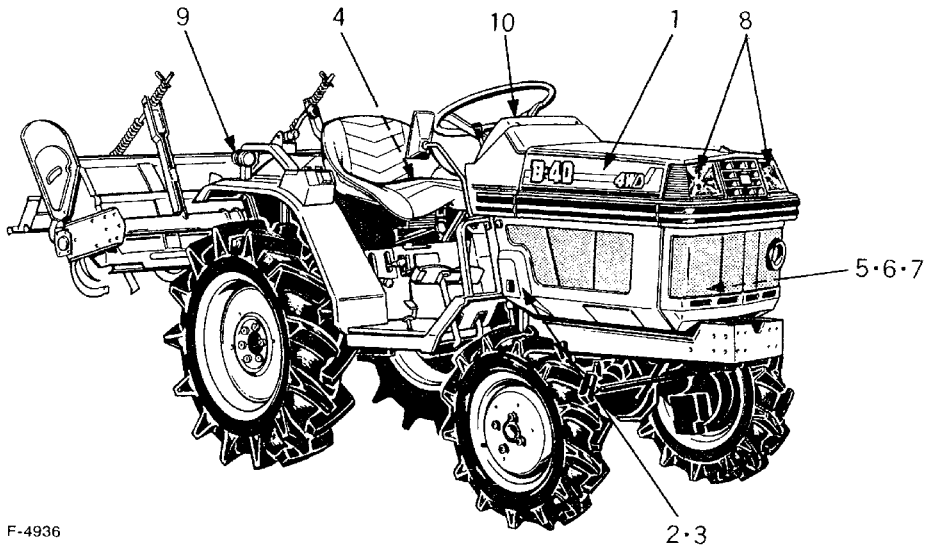
配　線　図


ワイヤハーネス 3
ワイヤハーネス 2
ワイヤハーネス 1
コンビネーションメータ
水温ユニット
ヒューズケース
ヒューズ 10A
ヒューズ 10A
ホーン
ヘッドランプ 左
ヘッドランプ 右
グロープラグ
車体接地
M仕様
水平制御ユニット
ヒュージブルリンク 0.5Sq
燃料ユニット
オイルスイッチ
10Pカプラ
スターター
バッテリー
セフティスイッチ
ウインカ ソーラー バッテリ
ウインカ 左
ウインカ 右
ターンパイロット
水温計
回転計
燃料計
12Pプリント板用カプラ
6Pプリント板用カプラ
ホーンスイッチ
コンビネーションスイッチ
フラッシャユニット
6Pカプラ
レギュレター
チャージ
オイル
グロー
キースイッチ
6Pカプラ
グロープラグタイマ

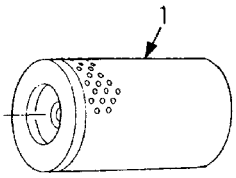
標準付属品

品名	数量/台	備考
10 － 12 スパナ	1	
12 － 14 スパナ	1	
14 － 17 スパナ	1	
19 － 22 スパナ	1	
21 － 26 スパナ	1	
10－12ボックススパナ	1	
プライヤ	1	
グリースガン	1	
油差し	1	
ロート	1	
フィルタレンチ	1	
メインスイッチキーアッシ	1	
取扱説明書	1	
保証書	1	
納入品安全説明書	1	
安全注意ポスタ	1	
PTO軸カバー	1	
ボルト	2	PTO軸カバー取付け用
平座金	2	
ヒューズ	2	10アンペア

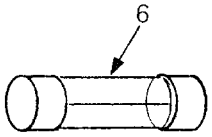
主な消耗部品一覧表



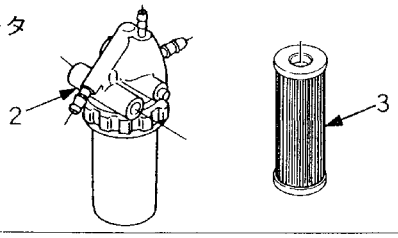
エアークリーナ
エレメント



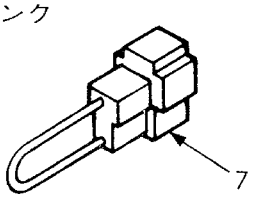
ヒューズ



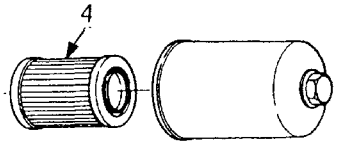
燃料フィルタ



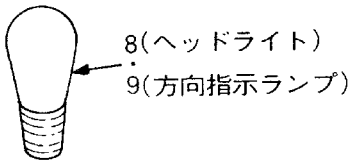
ヒュージブルリンク



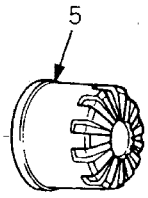
油圧オイルフィルタ



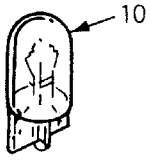
電球



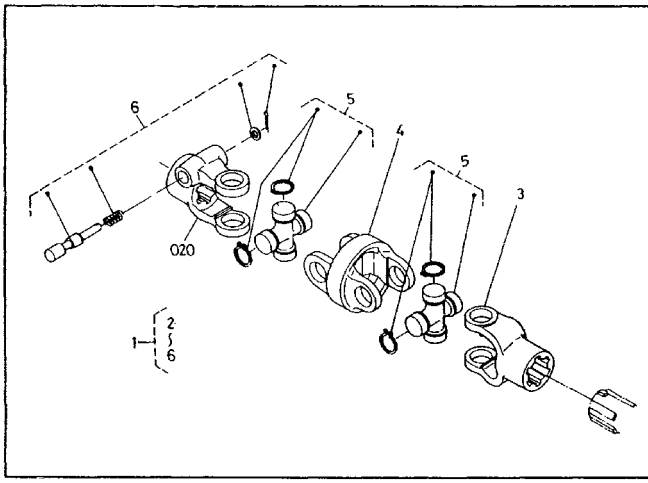
エンジンオイルフィルタ
カートリッジ



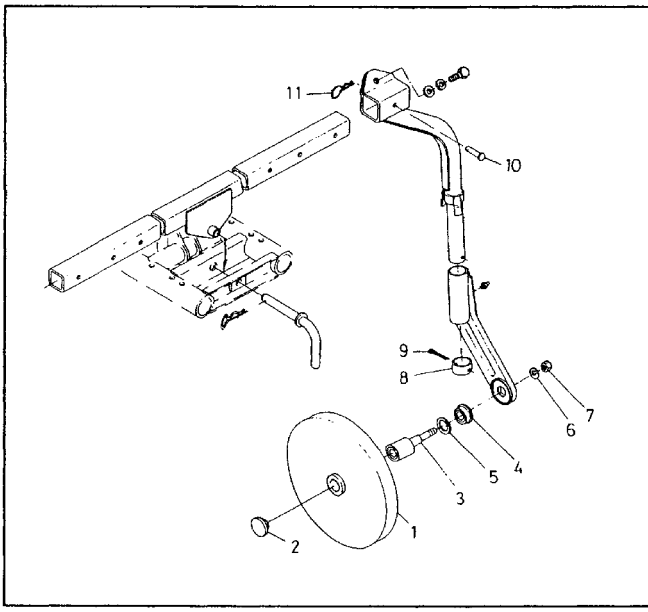
イージーチェッカ用ランプ
バッテリチャージランプ
エンジンオイルランプ
グローランプ
一共通



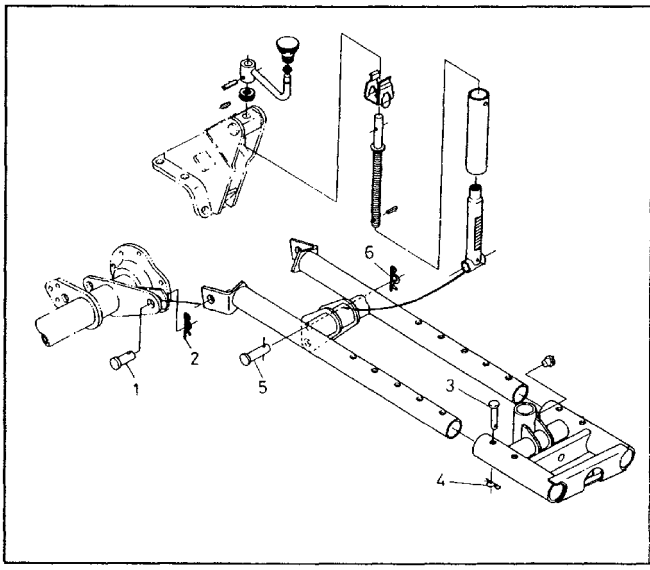
図番	品名	品番	図番	品名	品番
1	エアークリーナエレメントアッシ	15501-1108-0	6	管ヒューズ 10	54711-4122-0
2	フューエルフィルタアッシ	15531-4301-0	7	ヒュージブルリング	67111-5519-0
3	エレメントアッシ	15231-4356-0	8	電球	67156-5449-0
4	エレメント	67156-3756-0	9	電球	38430-3431-0
5	オイルフィルタカートリッジアッシ	15241-3209-0	10	バルブ	38240-3147-0



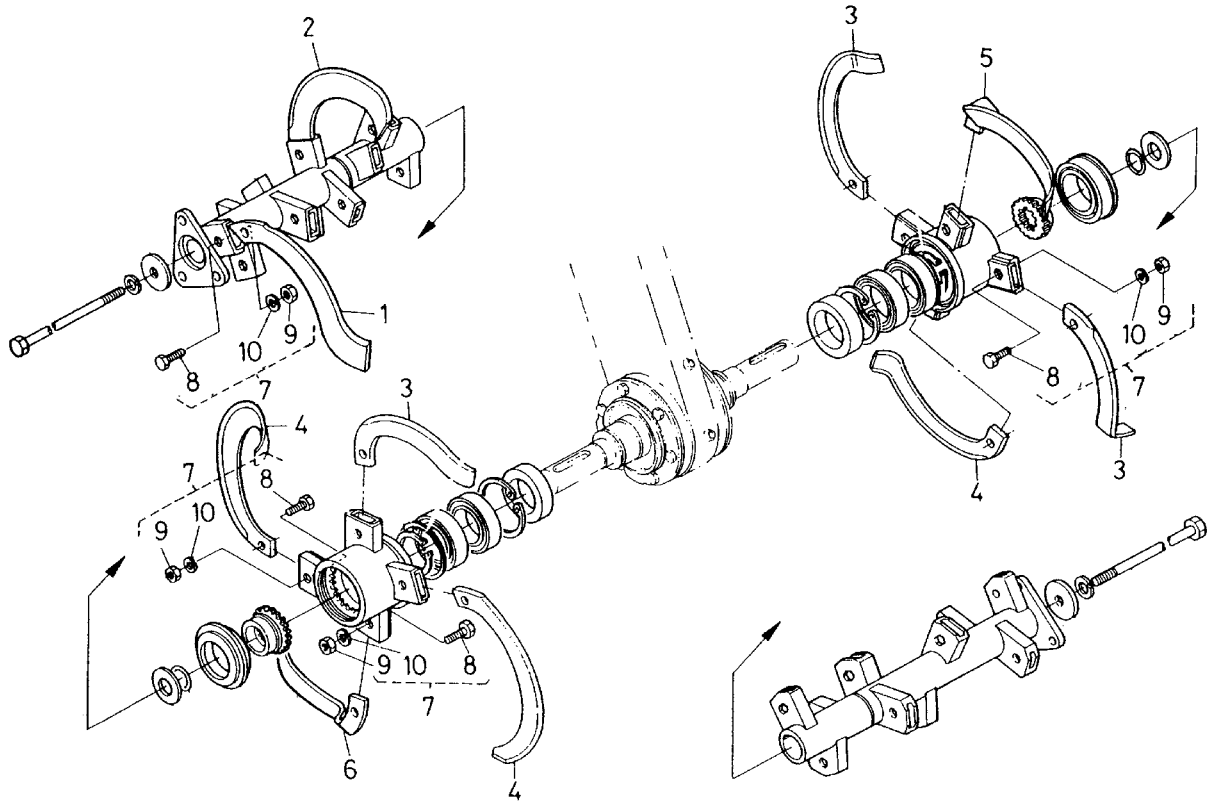
図番	品名	品番	個数 RK1204 RS1204	個数 RK1204M RS1204M
1	ユニバーサルジョイントアッシ	79163-3110-2	1	—
1	ユニバーサルジョイントアッシ	79190-3110-2	—	1
2	ヨーク	79163-3122-0	1	—
2	ヨーク	79190-3122-0	—	1
3	スライドヨーク	79163-3123-0	1	1
4	ダブルヨーク	79180-3114-0	1	1
5	スパイダアッシ	79190-3125-0	2	2
6	ロックピンアッシ	70678-5822-0	1	1



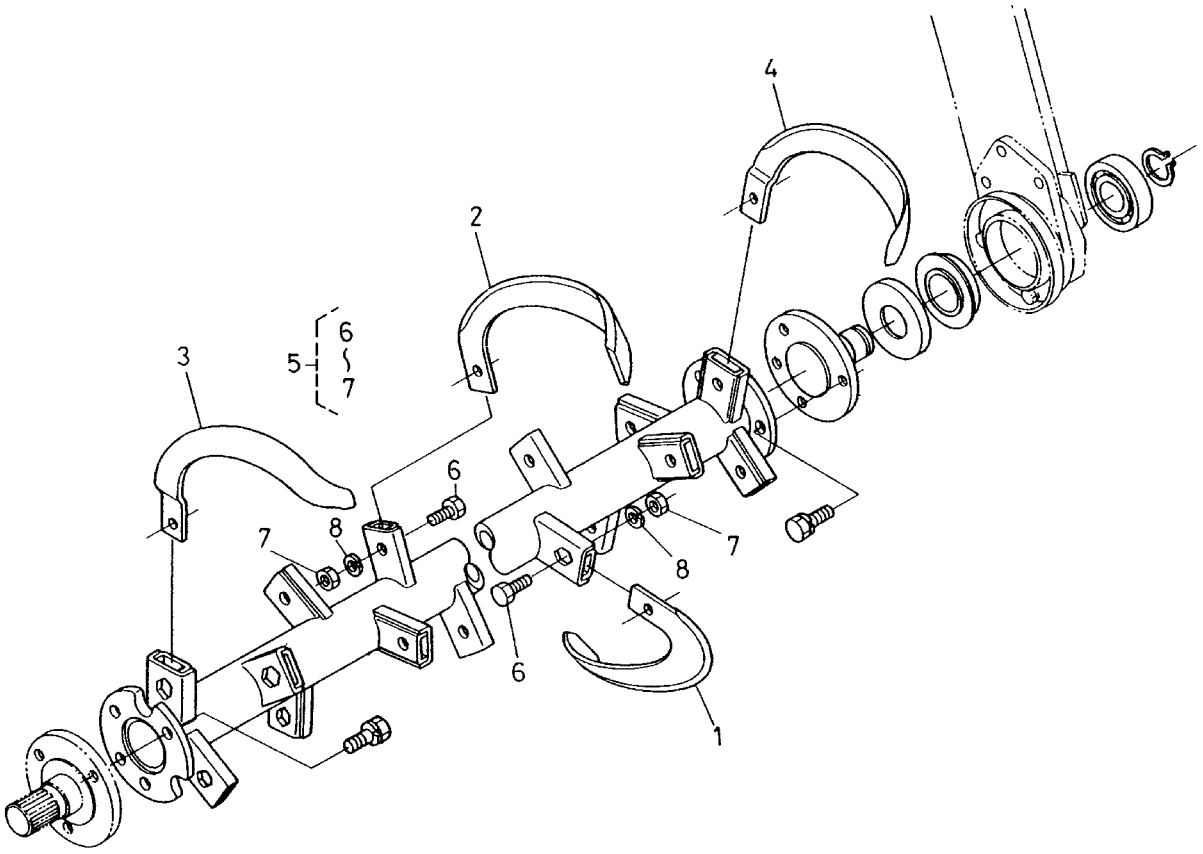
図番	品名	品番	個数 RK1204 RS1204	個数 RK1204M RS1204M
1	コウ2リン280(オレンジ)	79144-3545-0	1	1
2	シールキャップ	79163-3549-0	1	1
3	コウ2リンジクアッシ	79153-3552-0	1	1
4	オイルシール(TCFY203712)	79153-3553-0	1	1
5	アナサークリップ	04611-00370	1	1
6	バネザガネ	04512-50160	1	1
7	ナット	02174-50160	1	1
8	カラー	79144-5521-0	1	1
9	ワリピン	05511-50555	1	1
10	アタマツキピン	05122-51060	1	1
11	スナップピン	66616-3526-0	1	1



図番	品名	品番	個数 RK1204 RS1204	個数 RK1204M RS1204M
1	アタマツキピン	05122-51840	2	2
2	スナップピン	05516-51600	2	2
3	アタマツキピン	05122-51060	4	4
4	スナップピン	05516-51000	4	4
5	アタマツキピン	05122-51665	1	1
6	スナップピン	05516-51600	1	1



図番	品　　名	品　　番	個　数		備　　考
			RK1204	RK1204M	
1	コウウンゾメ　321　ヒダリ	96181-1221-0	12	12	
2	コウウンゾメ　321　ミギ	96181-1222-0	12	12	
3	コウウンゾメ　287　ヒダリ	96181-1155-0	3	3	
4	コウウンゾメ　287　ミギ	96181-1156-0	3	3	
5	コウウンゾメ　288　ヒダリ	96183-1145-0	1	1	
6	コウウンゾメ　288　ミギ	96183-1146-0	1	1	
7	ツメトリツケ　ブヒン　1	70461-5555-0	32	32	
8	ボルト	32142-5595-0	32	32	
9	ツメトリツケ　ナット	64135-9519-0	32	32	
10	バネザガネ	04512-50100	32	32	



図番	品　　名	品　　番	個　数		備　　考
			RS1204	RS1204M	
1	コウウンゾメ　321　ヒダリ	96181-1221-0	14	14	
2	コウウンゾメ　321　ミギ	96181-1222-0	14	14	
3	ゾウフクゾメ　322　ヒダリ	79140-6261-0	1	1	
4	ゾウフクゾメ　322　ミギ	79140-6262-0	1	1	
5	ツメトリツケ　ブヒン　1	70461-5555-0	30	30	
6	ボルト	32142-5595-0	30	30	
7	ツメトリツケ　ナット	64135-9519-0	30	30	
8	バネザガネ	04512-50100	30	30	

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後12年といたします。
ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは、一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因になります。

株式会社クボタ

本　　社	大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号	〒556-91	電(06)	648-2111
東京本社	東京都中央区日本橋室町３丁目１番３号	〒103	電(03)	245-3111
北海道支社	札幌市中央区北３条西３丁目１番地44(札幌富士ビル)	〒060	電(011)	214-3111
東北支社	仙台市青葉区本町２丁目15番11号	〒980	電(022)	267-9000
中部支社	名古屋市中村区名駅３丁目22番８号(大東海ビル)	〒450	電(052)	564-5111
九州支社	福岡市博多区博多駅前３丁目２番８号(住友生命博多ビル)	〒812	電(092)	473-2401
札幌支店	札幌市西区手稲東３北３丁目２番地２	〒063	電(011)	662-2121
仙台支店	名取市田高字原182番地の１	〒981-12	電(022)	384-5151
東京支店	浦和市西堀５丁目２番36号	〒338	電(048)	862-1121
大阪支店	大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号	〒556-91	電(06)	648-2111
岡山支店	岡山市宍甘275番地	〒703	電(0862)	79-4511
福岡支店	福岡市東区和白丘２丁目２番76号	〒811-02	電(092)	606-3161
堺製造所	堺市石津北町64番地	〒590	電(0722)	41-1121
宇都宮工場	宇都宮市平出工業団地22番地２	〒321	電(0286)	61-1111
筑波工場	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-22	電(029752)	5112
枚方製造所	枚方市中宮大池１丁目１番１号	〒573	電(0720)	40-1121
堺部品センター	堺市築港新町３丁８番	〒592	電(0722)	45-8601
宇都宮部品センター	宇都宮市平出工業団地38-16	〒321	電(0286)	63-6336
北海道部品センター	北海道札幌郡広島町字大曲186-37	〒061-12	電(011)	376-2335
筑波部品センター	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-22	電(029752)	2293
枚方部品センター	枚方市中宮大池１丁目１番１号	〒573	電(0720)	40-1797

株式会社クボタアグリ東北

秋田事業所	秋田市寺内字大小路207-54	〒011	電(0188)	45-1601
仙台事業所	宮城県名取市田高字原182-１	〒981-12	電(022)	384-5151

株式会社クボタアグリ東京

東京事業所	浦和市西堀５-２-36	〒338	電(048)	862-1121
新潟事業所	新潟市上所上１-14-15	〒950	電(025)	285-1261

株式会社クボタアグリ大阪

金沢事業所	石川県松任市下柏野町956-１	〒924	電(0762)	75-1121
名古屋事業所	愛知県一宮市観音町１-１	〒491	電(0586)	24-5111
大阪事業所	大阪市浪速区敷津東１-２-47	〒556-91	電(06)	648-2111

株式会社クボタアグリ中四国

米子事業所	米子市米原570	〒683	電(0859)	33-5011
岡山事業所	岡山市宍甘275	〒703	電(0862)	79-4511
高松事業所	香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-３	〒769-01	電(0878)	74-5091

株式会社クボタアグリ九州

福岡事業所	福岡市東区和白丘２-２-76	〒811-02	電(092)	606-3161
熊本事業所	熊本県下益城郡富合町大字廻江846-１	〒861-41	電(096)	357-6181

品番　67148－6291－3